

教室年報 2018



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2018

巖刀会(外科学講座同門会)



つりがね洞(久慈市)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。



こちらのQRコードを読み取って
ホームページにアクセスできます

外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2018年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

2018年を振り返って…………… 外科学講座教授 佐々木 章

医療安全学講座教授に就任して

…………… 医療安全学講座教授 肥田 圭介

教室の今年1年

1年を振り返って…………… 外科学講座特任准教授 新田 浩幸
准教授を拝命して、「これまで」と「これから」

…………… 外科学講座特任准教授 大塚 幸喜

010 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

013 チーム紹介

上部消化管チーム・下部消化管チーム・肝胆膵チーム・乳腺チーム・
小児外科チーム・リサーチチーム《分子治療研究室》・
高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》・
岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

026 平成30年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・
関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

028 新教室員紹介

有吉 佑／橋元 麻生／中村 侑哉／早野 恵／伊藤 浩平／菊地 晃司／
小泉 優香／高橋 智子

030 表彰の栄誉

Wada Award受賞(The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical
Association Japan Chapter)…………… 長谷川 康
Best Speaker Award受賞(Congress of Asia Pacific Metabolic and
Bariatric Surgery Society)…………… 梅邑 晃
若手奨励賞受賞(第26回日本消化器関連学会週間)…………… 長谷川 康
優秀演題賞受賞(第43回日本外科系連合学会学術集会)…………… 早野 恵
優秀演題賞受賞(第43回日本外科系連合学会学術集会研修医セッション)
…………… 屋成 信吾
会長賞受賞(第25回外科侵襲とサイトカイン研究会)…………… 安藤 太郎
会長賞受賞(第175回東北外科集談会)…………… 天野 怜

034 寄稿

第204回日本消化器病学会東北支部例会を開催して…………… 佐々木 章
第12回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会を開催して…………… 佐々木 章
巖刀会学術賞…………… 長谷川 康
岩手医科大学での肝移植100例を振り返って…………… 高原 武志
能代・山本がん市民公開セミナーを開催して…………… 加藤久仁之
国内留学レポート…………… 與那嶺直人
海外研修報告
第34回環太平洋外科系学会日本支部学術大会(PPSA-JC)に参加して
高清水清治／佐々木教之／木村 拓／藤澤 良介

046 平成30年アルバム紹介

052 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・
内丸病院・盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・
北上済生会病院・岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・
能代厚生医療センター・八戸赤十字病院・かつの厚生病院

062 外科紹介医療機関

068 研究業績

083 編集後記

084 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

2018 年を振り返って

教室における2018年の振り返りと2019年の抱負を述べさせていただきます。

岩手医科大学は、明治30年に創立者三田俊次郎が、地域医療が壊滅的な状況にあったことを憂い、私財を投じて私立岩手病院を設立し、医療人の養成に努めたことに始まります。昭和3年には、私立岩手医学専門学校が設立されましたが、同時に外科学講座の歴史が始まりました。創立120周年記念事業では、2017年4月に看護学部が新設され、医・歯・薬・看護の4学部からなる医療系総合大学として新たにスタートしました。2019年9月には、本学最大の事業となる1,000床規模の新附属病院を開院します。2019年4月現在、新病院の外観は完成しており、現在各階の内装工事が進んでいます。

外科学講座の人事では、2018年2月1日に新設された医療安全学講座教授に肥田圭介先生が就任されました。外科学講座と同門会出身の教授は、中村隆二教授(PET・リニアック先端医療センター)、前沢千早教授(医歯薬総合研究所腫瘍生物学分野)、下沖 収教授

(救急・災害・総合医療講座総合診療医学分野)、木村祐輔 特任教授(緩和医療学科)、西塚 哲 特任教授(医歯薬総合研究所医療研究開発部門)と私も含め7名となりましたので、連携を取りながら色々な面で協力していきたいと思います。教室内では、2018年の入局者は8名(岩手医科大学卒7名、弘前大学卒1名)で、このうち4名は女性外科医となりました。今後も外科学に興味を持つ仲間を増やしていけるように、外科学講座の雰囲気良くして行きたいと思います。

教育では、academic surgeonの育成が課題と思っています。教室員にはリサーチプロポーザル、国際学会発表と英文論文執筆の継続を指導していますが、成果が少しずつ出てきていると感じています。長谷川康助教がWada Award(The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter, Honolulu)、梅邑 晃助教がBest Speaker Award(Congress of Asia Pacific Metabolic and Bariatric Surgery Society, Tokyo)、長谷川康助教が若手奨励賞(第26回

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

日本消化器関連学会週間、神戸)、片桐弘勝助教が共同研究助成(圭陵会学術振興会)、大学院博士課程2年の佐々木教之君が学術賞(圭陵会学術振興会)、安藤太郎助教が会長賞(第25回外科侵襲とサイトカイン研究会)、天野 怜研究員が会長賞(第175回東北外科集談会、仙台)、大学院博士課程1年の屋成信吾君が研修医セッション 優秀演題賞(第43回日本外科系連合学会学術集会、東京)、大学院博士課程1年の早野 恵さんが専修医・若手セッション 優秀演題賞(第43回日本外科系連合学会学術集会、東京)を受賞いたしました。ご選考いただきました先生方に心よりお礼申し上げます。受賞の機会が個人のモチベーションを上げ、さらに後進の教育と指導に反映されることを切望しています。

研究に関しては、獲得研究費として平成30年度の科学研究費補助金の交付件数は3件(基盤研究C)・継続研究8件(基盤研究C 7件、若手研究 1件)、厚生労働科学研究補助金1件と藤田記念医学研究振興事業1件の研究が進行中です。今後も更なる競争的研究資金獲得の向上を目指していきたいと思っています。本学の研究評価では、助教以上の教室員について年間に1編以上の英文論文が評価の対象とされています。この目標を達成するためには第1に、積極的に国際学会での発表が必要と考えています。2017年からは国際学会での発表についての年間スケジュールを自己申告制としました。2018年には、約9割の先生方が自己申告を達成でき、嬉しく思っています。今後も基礎的・臨床的研究が推進され、継続的に行ってくれることが英文論文作成につながると期待しています。

2018年の診療実績では、総入院数は、2017年の1,408名から1,520名に増加、総手術件数は、2017年の1,250件(全麻1,157件、局麻93件)から1,141件(全麻1,071件、局麻63件)に微減しました。術式は可能な限り低侵襲な内視鏡外科手術を選択していますが、高難度手術も安全に実施できています。2007年1月に岩手県第1例目の生体肝移植が成功して以来、2018年12月までの肝移植件数は109件となりました。内訳は、生体肝移植96件(小児肝移植7件)、

脳死肝移植13件(肝腎同時移植2件)ですが、生存率も全国平均以上です。肝移植開始当時には私は医局長で、予期せぬ事態にも対応できるよう教室員が総出での診療体制を配置していたことを記憶しています。しかし、肝移植スタッフの診療連携と手術技能の向上、学外講師・学内診療科とメディカルスタッフの皆様が関わってくれた結果であり、現在では肝疾患診療における治療選択肢の一つとして、日常診療で行えるようになりました。また、食道癌、胃癌、大腸癌に対するロボット支援手術、従来の多孔式内視鏡外科手術からさらに整容性向上と侵襲性低減の利点を持つreduced port surgery、手術機器の発展に伴う4K画像以上での術者の巧緻性が向上した内視鏡外科手術など、最新の手術法に対応しながら10年後の教室運営を今から考えていきたいと思っています。

最後に主催した2つの研究会について報告します。第204回日本消化器病学会東北支部例会(仙台)を、テーマ「消化器内科と消化器外科の融合」で、また、第12回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会(博多)を、テーマ「メタボリックサージェリーの安全な普及を目指して」で開催しました。両研究会ともに過去最多の参加者のもとで学会を盛会のうちに終えることができました(別稿を参照して下さい)。研究会の開催に当たりまして、巖刀会の皆様には多大なご支援をいただきましたことを心から感謝いたしております。

2019年9月の矢巾新病院開院、そして、外来診療中心の内丸メディカルセンター(50床規模)が併設されます。この背景から、大学在籍者の人員増加、関連病院と他施設からの診療応援、後方支援病院への患者紹介などについて、今後お願いする予定ですので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

今後も教室員が将来色々な領域・地域において、外科学の発展に貢献、そして、活躍できるよう後進と後任の育成を目指していきたいと思っています。皆様の一層のご指導ご鞭撻をお願いいたしまして、巻頭言のご挨拶とさせていただきます。



岩手医科大学医学部医療安全学講座
教授

肥田 圭介

Keisuke Koeda, M.D., Ph.D.
Professor

巖刀会の諸先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
私事、平成29年12月1日に新設となりました岩手医科大学医療安全学講座の教授を平成
30年2月1日付けで拝命いたしました。就任祝賀会の際には多くの先生方にご参加いた
だきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

医療安全の重要性はここ数年急激に社会にも認知されてきたところではありますが、
近年、医療安全に関わる重大事案の発生を受け、特定機能病院における医療安全体制
の見直しが必要となりました。特定機能病院は高度先進医療の推進と新規医療技術の
開発がその使命であり、それらの安全な遂行のためには、医療安全体制の整備に加え、
部門専従の医師を置く事が法的に定められました。その一方で、医学生および研修医
に対する医療安全教育の重要性も急激に高まり、これらの必要性を受けこの度岩手医
科大学に医療安全学講座が新設となり、その初代の教授を拝命するに至りました。こ
れまで外科一筋で勤務を行ってきましたので、医療安全学講座教授をお引き受けする
にあたり自分自身でも葛藤がありました。これまでも医療安全に関わってきた経験
から岩手医科大学附属病院におけるその職務の重要性を最も近く感じられ、心機一転、
精一杯務めさせていただく決意をし、早くも1年が過ぎようとしております。

1年間仕事をさせていただき、これまで自分の専門関連領域しか見えていなかったも
のが、ある意味大学病院という存在を俯瞰的に見られるようになってきた感じがしま
す。やはり組織が大きい分、いろいろな職種に限らず、いろいろな考え方や価値観の
違いがあり、日々の活動は苦難の連続です。職種柄、疎ましく思われる存在であり、

i s u k e K o e d a

M.D., Ph.D. Professor

関わりを持つこと自体を避けられ、日々そのような事柄の連続で落ち込む毎日でしたが、外科で鍛えられた強い気持ちで何とか頑張っています。また、巖刀会の多くの諸先生方が管理職であり、自分と同じ医療安全に関わる仕事のご経験を多くお持ちであり、色々と精神面も含めサポートをいただけることも大変心強く感じております。

ところで外科は辞めたの？手術はしないの？というご質問を医局、大学の内外から時々いただきます。前年の教室年報にも記載したとおり、手術は後輩にしっかりとこれまで築いてきたknow-howを継承してから手を引きたいと考えていますので、専従という立場からこれまで通りとは行きませんがもう少し関わっていきたいと考えています。自分にとっても外科を続けることで様々な医療安全の対策が実践の臨床に即しているか感じることも非常に重要と考えています。機会がありましたら手術の応援に伺いますので、気軽にお声がけいただければ幸いです。

岩手医科大学の医療安全には平成31年度に大きな2つのmissionが課せられています。一つ目が9月の新病院移転で、もう一つが全国の大学病院で唯一受審していなかった病院機能評価です。いずれも医療安全が重点項目であり、今から万全な体制を整備すべく頑張っております。

医療安全も悪い？面だけではなくもちろん良い面もあります。それは現在の医療における他職種とのチームワークの重要性を知り、実践できていることが実感できることです。院内のインシデントの多くは職種間の良好なコミュニケーションを築くことでその多くが防ぐことが可能です。医療安全推進室でも看護師、薬剤師、事務の皆さんが本当によく協力し仕事を行っているので、まさにチーム医療のお手本と自画自賛しています。

このようなチーム医療を含めた医療安全は早い段階、すなわち学生教育のうちに意識付けすることが大切です。本学は幸い医・歯・薬・看の4学部を有する医療系総合大学ですので、学部横断的な教育を通じチーム医療を実践できる「誠の医療人の育成」に尽力いたしたいと思います。巖刀会の諸先生方におかれましては、講座設立の趣旨をご理解いただき今後ともご協力、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。



岩手医科大学医学部外科学講座
特任准教授

医局長 **新田 浩幸**

Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Research Associate Professor

1年を振り返って

2017年1月に医局長となってから2年が経過しました。日々の診療、学術活動などに追われる中、医局長としてどこまで医局運営をサポートできているのか、このまま続けられるのか、不安を抱えながらの1年でした。

2018年の外科学講座を振り返ってみると、現実的な変化への対応と、来る変化への準備を要した、非常に大事な1年であったように思います。2019年9月の病院移転を控え、病院全体としての準備はもちろんのこと、診療場所が矢巾新病院と内丸メディカルセンターの2カ所に増えることから、外科学講座としても外来および病棟の診療体制を再考する必要性がありました。また、肥田圭介准教授が医療安全学講座の教授に昇任されたことにより、上部消化管チームが新たな体制となりました。変化は進歩するために必要なものだが苦痛も伴う、と言われますが、命をあずかる医療の場で苦痛を伴ってはいけません。幸いにも、この一年大きな事故もなくやれたことをホッとしておりますし、来る病院移転後も何事もないよう気を引き締め準備しないと、という思いです。

嬉しいこともあります。臨床研修を終えて2019年4月に入局する卒後3年目の若手医師が例年に比べて多く（8名）、外科医不足と言われる中で頼もしい限りで、医局の中心となっていく黄金世代と期待しております。人、がいないとどうにもなりませんので、医局員みんなでこの外科学講座の魅力を学生・研修医・学外に伝え、人、の集ま

r o y u k i N i t t a

M.D., Ph.D. Research Associate Professor

る医局を目指したいと思います。また、最近は女性医師が増えてきておりますので、より働きやすい環境を整えていく必要もあります。

個人的には2019年2月に准教授を拝命しました。特任の二文字がとれたことで、より責任が増したことを実感しております。肝胆膵・移植チームとしては、大きなトラブルもなく安定して診療できた1年であったと思います。内視鏡手術から肝移植までを積極的に行っている全国的にも少ないチームと自負しておりますが、そんな中でも若手医師に対しては、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医を取得できるよう多くの手術を経験してもらいました。その結果、二人の若手医師が高度技能専門医の受験資格を得ております。今後も、技術的選択肢の多い肝胆膵外科医を輩出できるよう努めていきたいと思っています。

私は釜石市の出身で、高校までの18年を釜石で過ごしました。この頃は新日鉄釜石ラグビー部が日本選手権を7連覇した時期で、1月15日の日本選手権は家族そろってラグビーを応援するものだと思っておりましてし、8連覇が絶たれた時はひどく落ち込んだのを今でも覚えています。2019年はこの釜石がワールドカップの試合会場の一つとなっており、震災復興もあって内陸から沿岸までの高速道路も整備されました。2019年は、病院移転、ラグビーワールドカップと、不安と期待の大きい1年になりそうです。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
特任准教授

大塚 幸喜

Koki Otsuka, M.D., Ph.D.
Associate Professor

准教授を拝命して、「これまで」と「これから」

この度、平成31年2月に准教授を拝命いたしました。

私は、平成5年に岩手医科大学を卒業し、同年岩手医科大学第一外科（斎藤和好教授）に入局いたしました。入局から6年間は食道チームに属し、石田薫先生、佐藤信博先生、池田健一郎先生の元で、「食道癌術後の経腸栄養管理」について研究し、学位をいただきました。その6年間は、3ヶ月毎に関連病院と大学の勤務を繰り返すトランク生活をしてきました（トランク：weblio辞典では、旅行用の、大型で長方形の鞆。トランクルーム。つまり短期間の出張という意味で使われていた言葉だと思います）。そのおかげで、関連病院の同門の先生に接する機会は医局員の誰よりも多く、「第一外科」の手術の定型化（レーゲル）や患者を診る姿勢、考え方を学び、さらに大腸癌手術の楽しさや腹腔鏡の魅力、奥深さを教えて頂きました。その経験が、現在の私の財産になり、そしてライフワークとしている腹腔鏡手術の「教育」に大きく影響を与えていただいたと確信しております。同門の先生方にはこの場を借りて、心より感謝申し上げます。そして、長期出張を経験せずに現在に至った結果、光栄なことに大学勤務26年目となってしまいました。

6年間のトランク後は、その当時の医局長である旭博史先生の勧めもあって下部消化管チームに配属されました。そして、上司である樋口太郎先生の勧めもあり、腹腔鏡下大腸手術を佐々木章先生に教わり、そして大阪医科大学に国内留学もさせていた

K o k i O t s u k a

M.D., Ph.D. Research Associate Professor

できました。チーフとなった後も優秀な後輩に恵まれ、現在は木村聡元先生が外来診療から手術に至り、絶大な力で私をサポートしてくれております。そして、学外からの国内留学生も含め6名の下部消化管チームで、年間200例以上の腹腔鏡大腸癌手術（全大腸癌手術の約9割）、1000件以上の外来化学療法を行ってきました。これも、たくさんの症例をご紹介いただいた同門、県内および当院消化器内科、臨床病理、麻酔科の先生方、メディカルスタッフのおかげです。今後も、常に全国、世界の最新の情報や技術に目を向け、患者一人一人の状況に合わせたベストな治療を目指します。最新技術の導入としては、2018年4月に保険適応となったロボット支援下直腸癌手術を、木村聡元講師を中心に2018年5月に第一例を経験し、2019年3月までに10例の直腸癌手術を経験しました。術中、術後合併症はなく、全例10病日以内に退院されており、今後さらに適応拡大し県内外に広く発信していきたいと思いますのでどうか引き続きご指導よろしく願いいたします。今年と同門会集談会で発表の機会をいただき、同門の先生方にはロボット支援下手術の実際についてご紹介させていただければと思っております。

さて、矢巾新病院移転が数か月後に迫ってきました。内丸メディカルと新病院との外来診療の二分化による医師・看護師のマンパワー不足、矢巾までの交通手段、そして何よりも患者さんがこれまで通り来てくれるのか……、など正直なところ不安はあります。しかし、だからこそ患者さん、同門の先輩、県内の開業医の先生方に岩手医科大学外科の特徴、魅力をさらにアピールしていきたいと思います。そのためにも、今後さらに教室員の増加が必要であり、本学出身者に限らず他施設からみても魅力ある外科学講座をめざして誠心誠意努力し、全国の精鋭を呼び込む努力をしていきたいと思っております。

繰り返しになりますが、外科の魅力をさらに多くの学生、そして全国の若い外科医に伝え一人でも多くの同士を増やし、佐々木章外科教室をさらに盛り上げ、母校に貢献でき様に全力を尽くしたいと思いますので、今後ともどうかご指導よろしく願いいたします。



助教(任)
近藤 優
〔平成16年卒〕

助教
松尾 鉄平
〔平成17年卒〕

助教(任)
佐藤 慧
〔平成21年卒〕

助教
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕

助教
千葉 丈広
〔平成15年卒〕

助教(任)
藤井 仁志
〔平成20年卒〕

助教
菅野 将史
〔平成16年卒〕

助教
小松 英明
〔平成16年卒〕

講師
高原 武志
〔平成12年卒〕

講師
秋山 有史
〔平成11年卒〕

非常勤講師
杉立 彰夫

秘書
佐藤 育子

特任准教授
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕

医療安全学講座
教授
肥田 圭介
〔平成元年卒〕

救急・災害総合医学講座
教授
下沖 収
〔昭和63年卒〕

教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕



大学院生
高清水 清治
〔平成22年卒〕

秘書
鈴木 千里

准教授
水野 大
〔昭和62年卒〕

助教
馬場 誠朗
〔平成17年卒〕

大学院生
一階 春香
〔平成23年卒〕

緩和医療学科教授
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

大学院生
有吉 佑
〔平成21年卒〕

専攻医
橋元 麻生
〔平成28年卒〕

助教
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

助教
長谷川 康
〔平成14年卒〕

特任准教授
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

助教(任)
安藤 太郎
〔平成24年卒〕

助教
石田 和茂
〔平成17年卒〕

専門研修医
天野 聡
〔平成25年卒〕

特任講師
木村 聡元
〔平成14年卒〕

講師
岩谷 岳
〔平成7年卒〕

病棟風景



チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

リサーチチーム《分子治療研究室》

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

上部消化管チーム

STAFF：秋山有史、千葉丈広、馬場誠朗、遠藤史隆、佐藤 慧
二階春香



食道・胃疾患、内分泌代謝外科

専門外来

火曜 8時30分～17時（2019.1月～内分泌代謝外科外来は）
水曜 8時30分～12時

上部消化管では、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週火曜日の専門外来では、主に治療後のフォローアップや化学療法、ご紹介いただいた患者さんの診察を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、集学的治療を行っております。また手術予定患者様には術前から多職種がかかわる周術期サポートチームが介入し、治療の安全性や質の向上に努めております。入院では化学療法と手術治療を中心に、早期癌から高度進行癌まで当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携して治療にあたっております。それぞれの患者さんに適した治療をとともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。食道癌・胃癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。食道癌に対する胸腔鏡手術の割合は52.6%、胃癌に対する腹腔鏡手術の割合は66%でした。

内分泌代謝外科では、高度肥満症、甲状腺疾患、副腎疾患に対する内視鏡外科手術を中心に行っています。内分泌代謝外科に対する術式の割合は腹腔鏡下手術が100%で、reduced port surgeryの適応が増加しています。研究では、肥満関連健康障害（2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、睡眠時無呼吸）に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序の解明が主体となりました。

平成30年のニュース

- 1月 ▶ 馬場誠朗が日本肥満学会肥満症専門医 合格
- 2月 ▶ 肥田准教授が医療安全学講座の教授に就任
- 4月 ▶ 遠藤先生が大学に帰局。新メンバーで上部消化管チームの診療スタート
- 9月 ▶ 国際食道疾患会議@ウィーンで秋山と遠藤が発表
- 10月 ▶ 第1回北日本肥満・糖尿病チーム医療セミナーを盛岡で開催
- 11月 ▶ 第8回みちのくLAGセミナー開催
- 12月 ▶ 第12回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会を博多で開催

平成30年 診療・研究状況報告

● 食道癌新規入院数：83名

● 食道癌手術：24名（胸腔鏡下食道切除術：10例）

疾患	術式	症例数
食道癌	胸腔鏡下食道切除術	10例
	右開胸食道切除術	1例
	左開胸開腹食道切除術	1例
	経裂孔的下部食道切除術	4例
	その他	8例

《年次手術数推移》

	2016年	2017年	2018年
食道癌	22	29	24
胸腔鏡下	11	25	10

● 胃疾患入院数：183名

● 手術数：141名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	30例
	腹腔鏡下胃切除術	63例
GIST	切除術	10例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	38例

《年次手術数推移》

	2016年	2017年	2018年
胃癌	87	100	93
GIST	2	4	10
計(悪性腫瘍切除数)	89	104	103

内分泌代謝外科

●入院数：78例

●手術数：38例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	6例
胆嚢結石症	腹腔鏡下胆嚢摘出術	0例
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃部分切除術 腹腔鏡・内視鏡合同手術	0例 2例
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	3例
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺全摘術 内視鏡下甲状腺片葉切除術	3例 2例
食道アカラシア	2孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 手術	1例
脾臓良性疾患 ・脾腫瘍	腹腔鏡下脾臓摘出術	0例
鼠径ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	21例

《年次手術数推移》

	2016年	2017年	2018年
高度肥満症	6	7	6
副腎疾患	9	10	3
甲状腺疾患	8	10	5

●平成30年研究報告

《教室内》

- ・「進行食道癌に対する Docetaxel/Cisplatin/5-FU (DCF) 療法後の胸腔鏡下食道切除術の治療成績」*Surg Endosc*, 2018
- ・「進行食道癌における高齢者、臓器機能低下症例、低栄養患者に対する biweekly-DCF 療法後の食道切除の安全性」*World J Surg Oncol*, 2018
- ・「食道間膜を意識した胸腔鏡下食道切除術の治療成績」*Langenbecks Arch Surg*, 2018
- ・「食道癌術後の小腸瘻による経腸栄養チューブの必要性の検討」*J Thorac Dis*, 2018
- ・血漿 DNA 解析に用いる採血管評価(遠藤、論文投稿中)
- ・切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価(データ集積中)
- ・食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討(データ集積中)
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング(症例集積中)
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発(岩谷、解析中)
- ・食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討(佐々木教之、解析中)
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(鴻巣、佐々木教之、解析中)

- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA *FTX* に関する検討(秋山、解析中)
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討(株ツムラとの共同臨床試験、追跡中)
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証(症例集積中)
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：症例集積中
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における異所性脂肪量減少と代謝変化：症例解析中
- ・肥満閉塞性睡眠時無呼吸に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序：症例解析中
- ・非アルコール性脂肪性肝炎に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序：症例解析中

《全国規模》

- ・高度肥満症に対する肥満外科治療の費用対効果に関する研究(日本肥満症治療学会・学術研究推進委員会共催研究)
- ・がん医療エキスパート育成事業(がん医療専門チームスタッフのための e ラーニングプログラム、www.cael.jp)：継続

《臨床試験》

- ・JCOG0912「臨床病期 I 期胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録終了、追跡中
- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する術前 CF 療法/術前 DCF 療法/術前 CF-RT 療法の第 III 相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌(NEC)を対象としたエトボシド/シスプラチン(EP)療法とイリノテカン/シスプラチン(IP)療法のランダム化比較試験」症例登録中
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前 trastuzumab 併用化学療法の意義に関するランダム化第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対する CF (シスプラチン+5-FU) 療法と bDCF (biweekly ドセタキセル+CF) 療法のランダム化第 III 相比較試験」症例登録中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 III 相試験」症例登録中

- ・「臨床病期IB-III（T4を除く）食道癌に対するS-1術後補助療法の第II相臨床試験」症例登録中
- ・JCOG1507「病理学的StageII/IIIで“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel+CDDP+5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+Oxaliplatin+S-1の第II相試験」症例登録中
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化II/III相比較試験」症例登録終了、追跡中

《治験》

- ・胃癌に対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験（小野薬品工業株式会社）症例登録中
- ・切除不能な進行又は再発胃癌に対する多施設共同無作為化試験（小野薬品工業株式会社）症例登録中
- ・HER2発現の進行胃腺癌又は胃食道接合部腺癌の患者を対象としたDS-8201aの多施設共同非盲検第II相試験（第一三共株式会社）症例登録中
- ・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法としてMK-3475及び化学療法（XP又はFP）とプラセボ及び化学療法（XP又はFP）を比較する

二重盲検無作為化第III相試験（MSD株式会社）症例登録中

《科研費獲得》

- ・「血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 岩谷岳）
- ・「消化器癌の予後に関連するnon-coding RNA FTXに関する検討」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 秋山有史）
- ・「高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明」（平成30-32年度科研費 基盤研究C 研究分担者 佐々木章）
- ・「食欲中枢異常による難治性高度肥満症の実態調査」（平成28-30年度科研費 難治性疾患等政策研究事業）
- ・「プロテアソーム機能活性化と小胞体ストレス応答制御による機能的膵島細胞シートの作成」（平成28-30年度科研費 基盤研究C）
- ・「肥満外科手術後の腸内・口腔内細菌叢の変化と肥満関連健康障害の改善機序の解明」（平成29-30年度科研費 若手研究B）

●今後の研究課題

- ・切除不能進行食道癌症例に対するSalvage手術、conversion手術の増加。
- ・食道切除術におけるさらなる低侵襲化の探求。
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進

下部消化管チーム

STAFF：大塚幸喜、木村聡元、松尾鉄平、藤井仁志
高清水清治 ストーマ外来(WOCN)：千葉励子
高橋咲子、小笠原久美子

専門外来
月曜 8時30分～15時
水曜・金曜 AM
(外来化学療法のみ)
ストーマ外来
月曜



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2018年12月までに2278例となりました。現在の当教室の腹腔鏡手術の適応は、周囲臓器浸潤のない症例数としております。ここ数年の特徴としては、局所進行直腸癌症例に対し、術前化学療法を行い腹腔鏡手術による腹腔鏡の拡大視効果を最大限に生かした根治性、そして機能温存手術を行っております。さらに、腹腔鏡手術の低侵襲性を生かし、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても、麻酔科とタッグを組んで積極的に行っており、腹腔鏡手術を開始した1997年からこれまでに、手術関連死亡は経験しておりません。また、当グループ内には日本内視鏡外科学会技術認定医3名が在籍していることもあり、国内あるいは世界標準の手術を提供できると自負しております。

また、2018年4月に国内で保険適応となったロボット支援下直腸癌手術を同年5月から開始し、2019年3月までに10例経験しました。木村聡元講師を中心に行っており、10例すべて合併症なく10病日以内に退院しております。今後さらに適応を拡大する予定です。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子、小笠原久美子 WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）3名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんのQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

教育面に関しては、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2016年までに8名（合格率100%）の内視鏡外科技術認定医合格者（大腸分野）を輩出してきました。また全国各地からの国内留学生（8名）や手術見学者（160施設）に対しても指導を行っております。

平成30年のニュース

- 3月 ▶ 畑中智貴先生が、学位取得し函館五稜郭病院に長期出張
学位論文研究テーマ：「直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術における手術難易度予測因子の検討」
- 3月 ▶ 木村聡元講師、松尾鉄平助教がda Vinci Robot surgery 術者 certification を取得
- 5月 ▶ ロボット支援下直腸癌手術第一例目
- 10月 ▶ 東京医科歯科大学 絹笠祐介教授を招聘し、ロボット支援下直腸癌手術の直接指導
- 10月 ▶ 大塚幸喜准教授、佐藤慧助教がda Vinci Robot surgery 術者 certification を取得

平成30年 診療・研究状況報告

●手術数(全麻)：294例

※そのうち大腸癌手術(切除)は191例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(108例)	開腹	21例
	腹腔鏡	87例
直腸癌(83例)	開腹	7例
	腹腔鏡	76例
	経肛門	5例
Crohn病(6例)	開腹 / 腹腔鏡下手術	2例 / 4例

潰瘍性大腸炎(0例)	開腹 / 腹腔鏡下大腸全摘	0例 / 0例
他(大腸癌再発・ストーマ閉鎖・他科手術応援など)		103例 (うち婦人科26例)

《大腸癌の年次手術数推移》

	2016年	2017年	2018年
結腸癌全手術数	122	130	108
直腸癌全手術数	97	104	83
計	219	234	191
腹腔鏡下大腸癌手術	207	213	170

●平成30年研究報告

《教室内》

- ・「腹腔鏡下大腸癌手術における術前腸管前処置の検討－第Ⅱ相試験－」：現在英文論文投稿中。：木村聡元
- ・「直腸癌に対する腹腔鏡手術の難易度評価」：直腸癌手術患者を検討し、直腸癌術後の短期・長期成績に影響を及ぼす危険因子を術前画像(直腸癌手術患者の術前CTを用いて、「3次元画像解析システムボリュウムアナライザー SYNAPSE VINCENT」による骨盤内容積と癌を含む直腸容積を算出し、腹腔鏡下直腸癌手術成績に影響を及ぼす危険因子を解析し岩手医学会雑誌に報告：畑中
- ・「肥満大腸癌患者に対する術前減量の安全性と有効性の検証」：腹腔鏡手術予定の肥満大腸癌患者を対象に、手術難易度の軽減化と周術期合併症を予防するために、計画的な術前減量による栄養学的安全性を明らかにすることを目的とする。：高清水
- ・「直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除における計画的2回切離」：手技と結果を報告し、「Laparoscopic low anterior resection with two planned stapler fires」が2019年2月 Journal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons (JSLS)にaccept。：大塚
- ・「直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除におけるcovering ileostomyの腎機能への影響」：英文論文投稿予定：八重樫

《全国多施設共同研究》

▶JCOG

- ・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験(ENCORE Trial)」：症例集積終了・解析中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第Ⅱ相試験-ULTIMATE TRIAL-」症例集積終了・解析中

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・再発直腸癌への積極的な腹腔鏡手術
- ・局所進行直腸癌に対する術前治療の標準化
- ・腹腔鏡下側方郭清手技の定型化
- ・ロボット支援下直腸癌手術の啓蒙と適応拡大

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

▶研究面

- ・学会発表、研究成果の論文化
- ・科研費取得
- ・大学院生への研究・学位指導

肝胆膵チーム

STAFF：新田浩幸、高原武志、長谷川康
片桐弘勝、菅野将史

専門外来

木曜 / 8時30分-12時30分
(新田准教授、長谷川特任講師)
金曜 / 8時30分-12時30分
(高原講師、片桐助教)
14時-16時30分 (高原講師)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植（生体・脳死）など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。2016年4月からは腹腔鏡下膵頭十二指腸切除も保険収載されたことより、腹腔鏡下膵切除も積極的に行っております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて100例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定されました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。このことより長期成績も向上しております。

平成30年 診療・研究状況報告

●手術数：252例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除（肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く）62%、膵切除 19%

●平成30年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	33例
転移性肝癌	30例
肝内胆管癌	4例
胆管癌	30例 (肝門部 14例、肝外 16例)
胆嚢癌	5例
乳頭部癌	8例
膵癌 (IPMC 含む)	38例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMN など	68例
-----------------------	-----

▶その他

脾腫瘍など	36例
-------	-----

《術式別》

脳死肝移植	4例
生体肝移植	10例
肝切除	97例
PpPD	50例
膵体尾部切除	14例
膵全摘	4例
胆管切除	3例

胆石、胆嚢良性疾患手術	21例
バイパス (胆管、消化管)	5例
脾摘	1例
肝嚢胞天蓋切除	5例
非切除	7例
その他	37例

《年次推移》

	2016	2017	2018
肝細胞癌	29	38	33
肝内胆管癌	4	6	4
転移性肝癌	38	34	30
胆管癌	20	2	30
胆嚢癌	3	14	5
乳頭部癌	2	3	8
膵癌	31	30	38
脳死肝移植	3	0	4
生体肝移植	9	14	10

●平成30年研究報告

- ・「腹腔鏡下肝切除の肝門部流入血遮断に対するステロイド投与に関する臨床試験」
- ・「Muse細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築」
- ・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」

など

乳腺チーム

STAFF: 小松英明、石田和茂、川岸涼子(関連病院出向中)
松井雄介(関連病院出向中)、橋元麻生(大学院生)

専門外来
水・木曜
8時30分～17時
プレストケア外来
火曜
15時～16時(要予約制)



現在当科乳腺チームは小松、石田の専従スタッフ2名に若手医師のローテーター1名の体制で診療に当たっております。また、今年は大学院生の橋元麻生先生が、乳腺外科志望で入局され、我々の仲間に加わりました。患者様、そして先生方のお役に立てるよう、大事に育てていきたいと思っております。

チームの活動としては、第二期がんプロ（がんプロフェッショナル養成推進プラン）の流れを汲み、順天堂大学乳腺科の斉藤光江教授の御高配のもと、隔月ではありますが、順天堂大学、順天堂大学浦安病院、順天堂大学静岡病院、鳥取大学とICTをつないで各施設での研究の取り組みや症例検討会を継続しております。また以前より行っております月1回のキャンサーボードミーティングにつきましては、オール岩手での診療を目指すべく、従来の他職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師）のみならず、岩手県立中央病院乳腺・内分泌外科の先生方にもご参加を頂き、施設間を超えたディスカッションを行っております。

臨床面では、臨床遺伝学科、産婦人科学講座、形成外科学講座、病理診断学講座に御協力を頂き、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対するリスク低減乳房切除術（自費診療）の体制を整える事ができました。HBOCコンソーシアムへの家系登録事業（2019年からはJOHBOCに移管予定）にも参加致しました。2018年からはHBOCに対する薬剤のコンパニオン診断も行われるようになり、HBOCがますます身近な疾患となっております。今後も他科との連携を密に行い、HBOCに対する診療を行ってまいります。

研究面におきましては、引き続きJCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループに積極的に参加し、日本発のエビデンスの確立への貢献、また米国NCI傘下の臨床試験グループの統合グループであります、NRG（NSABP、RTOG、GOG）oncologyにも参加し、グローバルなエビデンスの確立にも貢献しております。今後も患者さんに最新、最良の医療を提供できるよう、チーム一丸となってまいります。同門の先生方には一層の御支援、御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

平成30年のニュース

- 3月 ▶ 日本乳癌学会地方会発表(小松、石田、川岸)
- 4月 ▶ 日本乳癌学会評議員選出(小松)
- 6月 ▶ 国際がんサポーターケア学会(ウィーン)で発表(小松)
- 7月 ▶ 第26回日本乳癌学会学術総会(京都)で発表(小松、石田、川岸)
- 10月 ▶ 第56回日本癌治療学会学術集会(横浜)で発表(小松)
- 12月 ▶ 日本外科学会外科専門医取得(石田)

平成30年 診療・研究状況報告

● 総手術数：141例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	61例
	胸筋温存乳房切除術	69例
	胸筋温存乳房切除術 + 組織拡張期留置	5例
	乳頭乳輪温存乳腺全摘術 + 組織拡張器留置	6例
計		141例

その他（良性、追加切除等）	10例
合計	151例

● 平成30年研究報告

《全国規模》

- ・ Cinderella研究会：手術可能乳癌患者を対象としたフローズングローブ、弾性ストッキングのnab-paclitaxelによる末梢神経障害予防効果の検討(Phase II、SPOT trial)

- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017 (PRIM-BC)「薬物療法非抵抗性 Stage IV 乳癌に対する原発巣の意義（原発巣切除なし vs あり）に関するランダム化比較試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204 (INSPIRE)「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第 III 相試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1505 (LORETTA)「エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1607 (HERB TEA)「高齢者 HER2 陽性進行乳癌に対する T－DM1 療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第 III 相試験」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業 (CSPOR)「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 (N-SAS BC 06)」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業 (CSPOR)「HER2 陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験 (N-SAS BC 07)」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-C05 (B-SHARE)「HER2 陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M04 (BOOSTER)「ホルモン陽性 HER2 進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ＋パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第 III 相臨床試験」

- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-20 (Neo-Peaks) 医師主導治験「HER2 陽性乳癌におけるペルツズマブとトラスツズマブエムタンシンを用いた術前療法の検討 (ランダム化第 II 相試験)」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M05 (PRECIOUS)「HER2 陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第 III 総臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M06 (EMERALD)「HER2 陽性進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法を比較検討する第 III 相臨床研究」
- ・OlympiA 試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系 BRCA1/2 変異陽性 HER2 陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第 III 相試験」
- ・「手術可能な HER2 陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法＋トラスツズマブ＋プラセボと化学療法＋トラスツズマブ＋ペルツズマブの 2 群比較第 III 相ランダム化試験 (APHINITY 試験)」
- ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第 III 相無作為化臨床試験」

● 今後の研究課題

- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・次世代シーケンスを用いた血中遊離 DNA 中に存在する乳癌ゲノム異常の検出、解析
- ・新たな乳腺外科医育成

小児外科チーム

STAFF：水野 大、小林めぐみ、早野 恵 (2018.4～6)

専門外来

火曜
9時～12時



一般小児外科外来：加速するマンパワー不足のため、新患、再来とも原則として火曜日の9時から12時のみを一般小児外科外来診察時間とさせていただいております。しかし、都合のつかない患者様、他科の受診日と合わせたい患者様などにつきましては、火曜日以外でも手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただきますのでご連絡ください。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、ヒルシュスプルング病術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケアや洗腸による排便コントロールの指導等をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成30年のニュース

- 4月▶早野 恵が八戸市民病院より入局、小児外科専門研修開始

平成30年 診療・研究状況報告

- 入院数：約150例 マンパワー不足のため多くの症例を小児科入院として治療

- 手術数：205例(うち内視鏡下手術40件、19.5%)

《内訳》 重複あり

疾患	術式	症例数
新生児症例		14例
悪性腫瘍	生検含む	5例
鼠径ヘルニア類縁疾患		65例
消化器・肝胆膵疾患		50例
呼吸器/泌尿器疾患		6例/24例

《年次手術数推移》

	2016年	2017年	2018年
新生児	26	20	14
非新生児	190	232	191
計	216	252	205

関連施設での手術：約20例

- 平成30年研究報告

《教室内》

- ・教育性と低侵襲性のバランスを配慮した術式の開発
- ・門脈血流測定による新生児腸管虚血の早期発見

《全国規模》

- ・JNBSG 日本神経芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ
- ・JWiTS3 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
- ・JCCG 日本小児がん研究グループ

- 今後の研究課題

- ・門脈血流測定による新生児消化管穿孔の予防

リサーチチーム《分子治療研究室》

STAFF：岩谷 岳

研究進捗会
月曜18:30～

抄読会
木曜18:30～



病院移転後も歴史ある一号館は3階まで残りますが、4階の外科研究室は取り壊されます。

前任の西塚哲先生が医歯薬総合研究所医療開発研究部門教授に就任され、2017年1月より新体制でスタートし2年が経過しました。現在は臨床の各グループより有志とともに血液検体からの癌の病勢診断（リキッドバイオプシー）の研究を中心に行っております。本年度からは大学院生2名が研究室に配属となる予定ですあり、研究の幅を広げていく予定です。関連病院へ出張中の先生方もスカイプで研究進捗会・抄読会に参加し、研修日や休日に研究室で実験を進めている先生もおります。学外の先生でも興味のある方はいつでもお声かけください。

平成30年のニュース

- 1月 ▶ 岩谷、第2回 Liquid biopsy 研究会にて口演
- 4月 ▶ 佐々木教之先生、圭陵会個人研究助成獲得
佐藤慧先生、科研費(基盤C)獲得
八重樫瑞典先生、藤田記念医学研究振興基金助成獲得
- 6月 ▶ 岩谷、医歯薬総合研究所西塚教授、米国臨床腫瘍学会(シカゴ)で発表
- 7月 ▶ 3年生研究室配属(3名)研究開始
- 9月 ▶ 岩谷、八重樫瑞典先生、佐々木教之先生、医歯薬総合研究所西塚教授、日本癌学会(大阪)で発表。－ 帰路台風24号に遭遇。
- 11月 ▶ 3年生研究室配属：「食道癌のリキッドバイオプシー」「胃癌の genetic heterogeneity」に関し研究発表

平成30年 診療・研究状況報告

●平成30年研究報告

- ・血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発(岩谷)
- ・大腸癌・胃癌の原発巣 heterogeneity が ctDNA 診断に及ぼす影響(八重樫、佐藤、千葉)
- ・Circulating tumor DNA を用いた乳癌術前化学療法の逐次的効果判定法の開発(川岸)
- ・食道癌治療抵抗性と NFE 2L2 遺伝子変異に関する検討(佐々木教之)
- ・肝芽腫発生に関わる遺伝子異常の解析(有末)
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(佐々木教之)
- ・胃癌・食道腺癌における ctDNA を用いた高感度診断システムの開発(千葉)
- ・ctDNA を用いた大腸癌術後サーベイランス法の開発(大塚)
- ・ctDNA 判定を用いた直腸癌放射線化学療法の効果判定(木村)
- ・大腸癌抗 EGFR 抗体療法中の RAS 変異発生機序解明

および ctDNA 診断の意義(松尾)

- ・大腸癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討(秋山)
- ・消化器癌治療後再発抑制を目指した統合的機能解析(西塚)
- ・血中遊離 DNA が反映する進行胃癌の多様性(西塚)
- ・膀胱癌の ctDNA を用いた病巣拡大範囲予測および化学療法治療効果に関する検討(新田)

●今後の研究課題

現在各臓器グループで進行中のリキッドバイオプシー研究は症例登録開始から3年が経過し、ようやく再発や生存率に関連するデータが集積されつつあります。今年度はこれらのデータの論文化をめざしたいと思います。また「がんゲノム医療」、「Precision Medicine」がいよいよ本格的に臨床導入されはじめており、今後リサーチグループの役割が重要になってくると思われます。患者に何が重要かを常に意識し各臨床グループと協力しながら研究をすすめていきたいと思っています。

高度救命救急センター 《救急・災害・総合医学講座》 《救急医学分野》

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂・棚橋洋太

専門外来

24時間体制



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2018年当グループにおける全手術に対する腹腔鏡手術を第一選択とした割合は28%でした。

平成30年 診療・研究状況報告

●入院数：163例

●手術数：95例

《内訳》

疾患（内因性）	術式	症例数(例)
上部消化管穿孔	胸腔鏡下術	12
絞扼性腸閉塞	胸腔鏡下術：開腹	3：1
虫垂炎	胸腔鏡下術：開腹	8：1
下部消化管穿孔	開腹	11
急性虚血性疾患	胸腔鏡下術：開腹	3：1
嵌頓ヘルニア	開腹	0：7
その他	胸腔鏡下術：開腹	1：37

	症例
気管切開術	8
大動脈遮断術	1
開胸術（外傷）	1

《Management》

	症例
Non Operative Management（外因）	53
Open Abdominal Management（外因：内因）	3：6

●平成30年研究報告

《教室内》

- ・輸液負荷に伴う血糖値変化の後方視的研究(継続)
- ・Open Abdominal Managementの検討(新規)
- ・絞扼性腸閉塞に対する治療と管理(新規)
- ・虫垂炎の治療選択と管理(新規)
- ・重症敗血症患者に対する至適血糖管理値の明確化を目的とした臨床評価(研究グループ：盛岡友愛病院、刈谷豊田総合病院、福岡大学、藤田保健衛生大学)(継続)

岩手医科大学附属花巻温泉病院

STAFF：塩井義裕

専門外来

月曜・火曜・木曜
金曜・土曜



岩手医科大学附属花巻温泉病院は、平成31年3月31日をもって閉院となります。平成5年に国立療養所花巻温泉病院から岩手医科大学が委譲を受け、岩手医科大学附属花巻温泉病院として発足してから25年間、およそ四半世紀にわたり花巻市西部の地域医療と救急医療を担ってきましたが、病院建物の老朽化と本学の新築移転に伴いまして閉院の運びとなりました。

当院外科は、平成5年に桑田雪雄院長先生、池田健一郎先生、篠福公英先生の3人体制でスタートし、平成6年には川村秀司先生、樋口太郎先生が着任、平成7年には葛西敏史先生が着任、平成8年には細井義行先生が着任、平成9年には目黒英二先生が着任、平成11年には村上雅彦先生、玉澤佳之先生が着任、平成12年には小笠原聡先生が着任、平成13年には中屋勉先生が着任、平成14年には船渡治先生が着任、平成15年には小川雅彰先生、中嶋潤先生が着任、平成18年には中屋勉先生、米澤仁志先生が着任、平成21年には小川雅彰先生が着任、平成23年には細井信之先生が着任、平成24年には高橋正浩先生が着任、平成26年には飯島信先生が着任、平成28年には私が着任し、平成31年3月で閉院を迎えます。岩手医科大学外科学講座の名だたる重鎮の先生方が着任し、外来診療、入院診療、手術を行って守られてきた花巻温泉病院は間違いなく花巻西部を中心とする地域医療に貢献してきました。おおよそ四半世紀続いてきた当院および外科は、地域の方々に親しまれ、地域住民の健康と急性期医療を支えてまいりました。

当院の外科の診療は、外来、入院、手術、化学療法、緩和医療を閉院間際の平成31年3月まで継続します。閉院に向けての診療として、甲状腺腫瘍の患者さんにはABCをし、乳腺腫瘍患者さんにはCNBやプローベを行い、確定診断をしたのちに紹介しました。甲状腺疾患については富澤勇貴院長のおられる内丸病院にも紹介させていただきました。橋本病の患者さんは近隣の開業医の先生方へ、バセドウ病の患者さんは近隣の外科の先生方へ紹介しました。希望のある胆石症の患者さんには手術を行い、これまで当院での術後に発症した腹壁癒着ヘルニアの患者で希望された方にはすべて腹腔鏡手術で治しました。胃癌や大腸癌はじめ消化器癌については、これまで通り平成30年末まで手術をさせていただきました。現在は、通院されているすべての外来および入院患者さんを近隣病院に紹介している真っ最中であり、私の医師人生のなかで最も多く紹介状を書く毎日を送っております。

平成30年の当院外科の全身麻酔手術患者数は76件で、閉院直前でありながら前年を上回る件数で終われたことはありがたいことです。平成29年4月に飯島信先生から一人外科を引き継ぎましたが、花巻温泉病院は岩手医科大学外科学講座のご加護に守られてここまでやってこれることができました。これにはひとえに巖刀会の先輩である佐々木盛光先生、菅澤治彦先生をはじめ、花巻医師会の先生方からのご紹介およびご協力があったことでした。また、北上済生会病院の細井信之先生が、すべての手術に継続して熱心に内視鏡外科手術手技の指導をしてくださったことは私の生涯の財産です。また、当院の当直応援では本学の総合診療医学分野の下沖収教授、医療安全学講座の肥田圭介教授、緩和医療学科の木村祐輔教授はじめ多くの若手の先生方が当直応援してくださり、病院を守って頂いたことに感謝しております。

最後に、これまで佐々木章教授はじめ、外科学講座の先生方、巖刀会の諸先輩方、開業医の先生方、消防・保健所の方々、花巻温泉郷の方々、近隣住民の方々には多大なご支援ご援助を頂きましたことに深く感謝申し上げます。花巻温泉病院最後の医局長として力不足も多々あったと思いますが、最後まで当院を希望して通院していただいた方々にご満足の頂ける医療を提供できることを願って今日まで頑張ってきました。開院から25年余、一日たりとも灯が消えることがなかった岩手医科大学花巻温泉病院の外科を最後まで守り、最後の入院患者さんが退院されるまで、最後の外来患者さんがお帰りになられるまで、誠心誠意頑張りますのでどうか最後まで皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成30年のニュース

- 3月 ▶ 助教塩井が乳房超音波医師講習会で「A」判定を取得
- 6月 ▶ 助教塩井がマンモグラフィ読影試験で「A」判定を取得
- 10月 ▶ TBS月曜名作劇場「警視庁南平班～七人の刑事～⑪」が当院で撮影されました。
- 12月 ▶ 助教塩井がMaterClass～General Laparoscopic Surgery～を受講
- 2019年2月 ▶ 助教塩井が日本外科学会指導医を申請予定

◆ 入院患者分類

疾 患	例 数
顔面・頸部	1
甲状腺・上皮小体	良性 5
	悪性 0
乳 腺	良性 4
	悪性 163
食 道	良性 3
	悪性 191
胃・十二指腸	良性 3
	悪性 243
大腸・肛門	良性 38
	悪性 253
肝・胆・膵・脾	良性 154
	悪性 290
イレウス	25
虫垂炎	6
ヘルニア・腹壁・腹膜	34
副 腎	2
病的肥満	49
その他	56
入院者合計	1,520

◆ 関連病院手術件数

病院	全手術 数	全身麻酔 手術数	急患 手術数	腹腔鏡 手術数	甲状腺 癌	乳癌	肺癌	食道 癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌	その他
函館五稜郭病院	1,565	1,164	171	627	8	153	0	24	82	36	32	259	0
盛岡赤十字病院	683	651	107	357	0	27	3	1	33	10	5	121	0
盛岡市立病院	651	569	82	440	1	6	0	0	29	13	7	88	0
八戸赤十字病院	460	405	47	131	4	39	0	0	44	7	11	102	0
能代厚生医療 セ ン タ ー	431	392	85	307	1	25	0	0	36	8	12	59	0
県立宮古病院	371	314	61	136	1	24	0	0	21	3	1	76	0
県立釜石病院	245	190	15	84	4	14	0	0	21	2	0	48	0
県立久慈病院	426	313	63	103	4	20	0	0	15	5	2	53	0
県立二戸病院	348	290	88	122	1	20	1	0	20	9	1	57	0
県立千厩病院	177	145	34	60	1	11	0	0	6	2	0	16	2*
かつの厚生病院	251	202	16	141	1	7	0	0	12	3	0	48	0
北上済生会病院	171	87	9	43	0	6	0	0	5	0	0	7	0
県立江刺病院	229	71	9	36	0	2	0	0	6	0	0	20	0
花巻温泉病院	114	76	7	57	0	1	0	0	5	1	0	7	0

※胸腔鏡下肺部分切除術

◆ 手術件数

	件 数
全麻数	1,071
局麻数	63
その他	7
全手術数	1,141

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2020. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2020. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2020. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2021. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2020. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2019. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2020. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2020. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2021. 12

指定関連区分	施設名	
指定	能代厚生医療センター	～ 2019. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2019. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2019. 12
関連	岩手県立千厩病院	～ 2019. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2019. 12
関連	国保西根病院	～ 2019. 12
関連	内丸病院	～ 2019. 12
関連	岩手医科大学附属 花巻温泉病院	～ 2019. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2021
指定	函館五稜郭病院	～ 2020
指定	盛岡赤十字病院	～ 2021
指定	岩手県立久慈病院	～ 2021

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立中部病院	～ 2021
指定	盛岡市立病院	～ 2021
指定	能代厚生医療センター	～ 2019



外科学講座

有吉 佑

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2012年
出身地：長野県 座右の銘：一所懸命

岩手医科大学外科に入った理由：

岩手医大を卒業後、長野の市中病院にて初期研修、同病院で外科医として修練を積んでおりました。その中で、学会や研究会などに参加した際に、母校の先生方の手術や講義を拝見し、素晴らしい内容に感銘を受ける機会が多くありました。母校である岩手医大に戻り、外科医としてなお一層の研鑽を積みたいと思い、このたび入局させて頂きました。至らぬ点も多くあるかと思いますが、精一杯努力していく所存ですので、御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



外科学講座

橋元 麻生 (旧姓：佐藤)

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2016年
出身地：岩手県宮古市 座右の銘：覚悟は一瞬、後悔は一生

岩手医科大学外科に入った理由：

大学入学時から漠然と腫瘍学に興味があり研修医時代に悪性腫瘍を扱う科を軸にしながら内科か外科かたたくさん悩みましたが、研修先で尊敬する乳腺科の先生に出会えたこと、診断・手術・薬物療法・緩和治療まで自科で完結できること、また何より女性医師の需要が高いことに魅力を感じ乳腺外科医を志望し、当科に入局を決めました。入局後は消化器外科の各グループをローテートし先生方の美しい手術を間近で見せていただき、今は消化器外科にも興味を持っております。ご迷惑をおかけしてばかりですが、少しでもチームの一員として力になれるよう努力いたします。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



外科学講座

中村 侑哉

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2016年
出身地：岩手県盛岡市 座右の銘：獅子博兎

岩手医科大学外科に入った理由：

私は以前から総合臨床というものに興味があり、何でも屋のような医師になりたいと考えていました。学生の頃は様々なセミナーなどに参加し、総合診療というものを知れば知るほど最終的な治療まで携われないことやその困難さを感じました。岩手県における消化器外科は外来診療における小さな創の処置から悪性腫瘍に対する手術、化学療法、緩和医療、甲状腺、気胸、胸腹部外傷、麻酔、全身管理など診療の幅が広いです。外科こそ総合的な診療、知識が必要と考え、そこに魅力を感じ当教室に入局させて頂きました。専門的な知識、技術を習得しながら、何でも屋の外科医になれるように努力してまいりたいと考えております。地域枠奨学生でもございますので、地域医療にも積極的に携わっていきたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



外科学講座

早野 恵

出身大学：弘前大学 大学卒業年：2016年
出身地：岩手県盛岡市 座右の銘：諦めたらそこで試合終了だよ

岩手医科大学外科に入った理由：

大学生の頃から外科系に興味があり、小児外科を志していました。研修医時代には進路に悩んだこともありましたが、外科・小児外科をローテーションしているときに、忙しいながらもやりがいのある仕事に憧れ、小児外科への道を決めました。大学・研修と県外で働いておりましたが、将来的には地元の岩手に帰りたいという希望もあり、岩手医科大学に入局しました。

未熟者ではありますが先生方の知識や技術をどんどん学んでいきたいと思っています。精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



外科学講座

伊藤 浩平

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：岩手県盛岡市 座右の銘：石の上にも三年

岩手医科大学外科に入った理由：

子供の頃から同じく外科医として働く父の姿を見て、自分も同じように外科医として頑張りたいと思ったのがきっかけでした。大学生の時に実習で見学に入った際にも多くの先生達の熱意に圧倒されたことが印象的で、自分も岩手医科大学外科に入局して、地域に貢献したいと思い入局することを決意いたしました。

まだまだ未熟でご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命精進して参ります。何卒よろしくお願いいたします。



外科学講座

菊地 晃司

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2017年

出身地：宮城県 座右の銘：不撓不屈

岩手医科大学外科に入った理由：

手術を見たことがないときから手術というものに対して興味がありました。大学5年生のときに初めて手術を見たときにさらに引き込まれました。また外科の先生方の仕事に対する姿勢に学生ながらに感銘を受け、入局を決意しました。

一人前の外科医になれるよう精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



外科学講座

小泉 優香

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2018年

出身地：岩手県 座右の銘：楽しむために楽をしない

岩手医科大学外科に入った理由：

大学入学時から外科に興味がありました。そして、学生のとときに消化器外科をローテートした際に仕事に対して真摯に取り組む先生方の姿をみてさらに消化器外科への憧れが強くなり入局を決めました。

1日1日を大切にしながら精進して参ります。

若輩者でまだまだご迷惑をおかけするかとは思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



外科学講座

高橋 智子

出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2018年

出身地：岩手県盛岡市 座右の銘：狭き門より入れ

岩手医科大学外科に入った理由：

医学部5年生の臨床実習で最も印象深く、興味を持ったのが外科でした。また、根治を目指す治療手段のひとつとして手術という技術を身につけたいと思ったのも、外科を進路に選んだ理由の一つです。外科学講座の先生方の、妥協を許さずストイックに診療に取り組まれる姿に抱いた憧れが次第に目標に変わり、入局を決意するに至りました。

現在は、岩手医科大学附属病院にて初期研修医として日々勉強に励む毎日です。まだまだ未熟者ではございますが、臨床、研究において研鑽を重ね、社会に貢献できる外科医になれるよう努力してまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。

The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan ChapterでWada Awardを受賞

長谷川 康

この度、The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter（2月16日から18日にハワイで開催）において、Wada Awardを受賞しました。

演題名は「Technique of Pure Laparoscopic Left Hemihepatectomy - toward the gold standard」で、岩手医科大学で施行した腹腔鏡下肝左葉切除術の手術成績をまとめ、手術ビデオを提示しました。腹腔鏡下肝切除術は比較的新しい技術ですが、岩手医科大学では20年以上前からいち早く導入し、現在ではその分野のトップリーダーです。その業績を国際学会で発信できたことを光栄に思います。今後も腹腔鏡下肝切除術の発展に努めてまいります。最後に、ご指導していただいた先生方に感謝申し上げます。



（左：佐々木教授、右：長谷川助教）

Congress of Asia Pacific Metabolic and Bariatric Surgery Society (APMBSS)でBest Speaker Awardを受賞

梅邑 晃

この度、2018年3月29日から31日に東京で開催されたCongress of Asia Pacific Metabolic and Bariatric Surgery Society (APMBSS)において「Best Speaker Award」を受賞しました。APMBSSは、アジア太平洋諸国における減量外科手術の発展を目的として2004年に設立され、その後高度肥満症のみならず2型糖尿病をはじめとした肥満関連疾患の改善を目的としたメタボリックサージェリーを含めた国際学会として開催され続けています。今回発表した演題は「Diagnostic and therapeutic strategies of NASH in Japanese severely obese patients underwent laparoscopic sleeve gastrectomy」で、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を施行した高度肥満症症例の非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の有病率や治療改善効果、病理学的所見の変化などを報告し、術後組織学変化を追うことが困難なNASHの病態を明らかにしたことが評価されました。受賞にあたり御指導、御協力頂いた皆様方に深謝申し上げます。



（左：佐々木教授、右：梅邑助教）

第26回日本消化器関連学会週間(JDDW 2018 KOBE)で 若手奨励賞を受賞

長谷川 康

この度、第26回日本消化器関連学会週間(JDDW 2018 KOBE)(11月1日から4日に神戸で開催)において、若手奨励賞を受賞しました。

演題名は「Safely extending the indications of laparoscopic major hepatectomy: When and which procedure should we start?」です。腹腔鏡下肝切除術は比較的新しい技術ですが、岩手医科大学では20年以上前からいち早く導入し、現在ではその分野のトップリーダーです。その経験を生かして、「腹腔鏡下肝切除の安全な普及」をテーマとして発表できたことを光栄に思います。今後も腹腔鏡下肝切除術の発展に努めてまいります。最後に、ご指導していただいた先生方に感謝申し上げます。



(左から:佐々木教授、長谷川助教)

第43回日本外科系連合学会学術集会において 優秀演題賞を受賞

早野 恵

この度、2018年6月21日から23日に東京で開催された第43回日本外科系連合学会学術集会において「優秀演題賞」を受賞しました。今回発表した演題は「遊走脾に伴う胃軸捻転に対し腹腔鏡下脾固定・胃固定術を施行した1幼児例」です。遊走脾は比較稀な先天性の脾臓の位置異常のため若年発症が多く、近年は整容性の面からも腹腔鏡下でのretroperitoneal pouch法による脾固定術が報告されています。発表では、当院で経験した症例の手術ビデオを提示し、近年の腹腔鏡手術の報告例をまとめました。今回の学会では若手医師の発表も多く、同年代の方たちの発表を聞くことで大変刺激を受けました。今回の受賞を機に、今後も臨床・研究ともに力をいれていきたいと思います。

最後に、受賞にあたり御指導、御協力頂いた皆様方に感謝申し上げます。



(左から:竹田 省 会長、早野 恵 専攻医)

第43回日本外科系連合学会学術集会研修医セッションにおいて優秀演題賞を受賞

屋成 信吾

この度、2018年6月21日から23日に東京で開催された第43回日本外科系連合学会学術集会の研修医セッションにおいて優秀演題賞を受賞しました。今回発表した演題は「複数他臓器浸潤をきたした虫垂粘液癌の1例」で、虫垂粘液癌の複数遠隔他臓器浸潤の報告例が少数であり、骨盤内臓全摘術を施行した報告例が本症例のみであったことを報告しました。スライド作成の工夫と発表練習を十分に行ったこと、また、座長や会場からの質問に返答できたことが評価されたと考えています。今後も積極的に国内・国際学会で発表を続けていきたいと思います。受賞にあたりご指導をいただいた岩手医科大学外科学講座の佐々木章教授、八戸赤十字病院外科の藤澤健太郎先生、ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。



(左から：竹田会長、屋成さん)

第25回外科侵襲とサイトカイン研究会において会長賞を受賞

安藤 太郎

この度、第25回外科侵襲とサイトカイン研究会（平成30年7月5日に大阪国際会議場で開催）において、会長賞を受賞しました。演題名は「ラット肝切除モデルにおける脾摘による門脈圧変化の影響と脾臓SP細胞の肝再生への可能性」で、大学院の研究テーマと高原先生が行っていた研究を合わせて今回発表させて頂きました。今までに同一個体のラットの肝再生と門脈圧を継続的に測定し検討した報告はないこと、また脾臓から採取したSP細胞が分化能・増殖能を確認出来たことから幹細胞補充療法の有用な一手となる可能性があることが評価されました。今回このような研究会で会長賞を頂けたことを大変光栄に思います。今後も臨床にもつながる研究・発表に努めてまいります。最後に受賞にあたり御指導していただきました佐々木章教授、高原武志先生、ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。



第175回東北外科集談会において会長賞を受賞

天野 怜

この度、2018年6月23日に仙台で開催された第175回東北外科集談会において、会長賞を受賞しました。今回発表した演題は「当院の小腸イレウスに対する緊急腹腔鏡手術の検討」で、絞扼性イレウスなどの小腸イレウスに対する腹腔鏡手術成績を検討し、有用性・安全性について発表しました。当講座における腹腔鏡下手術については国内外でも評価が高く、その業績について発表できたことは光栄に思っております。現在、私は関連施設である能代厚生医療センターに長期出張中ですが、大学病院以外でも同レベルで腹腔鏡下手術を施行できることが評価されたと考えています。今後も各領域の腹腔鏡下手術の習得に努めると共に、技術発展のために積極的な発信ができればと考えております。受賞にあたりご指導をいただいた岩手医科大学外科学講座の佐々木章教授、能代厚生医療センターの加藤久仁之先生、ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。



第204回日本消化器病学会東北支部例会を開催して

佐々木 章

第204回日本消化器病学会東北支部例会を、2018年2月2日（金）から3日（土）の2日間、仙台市の仙台国際センターで第160回日本消化器内視鏡学会東北支部例会（会長 岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野松本主之教授）と合同開催させていただきました。今回のテーマは、「消化器内科と消化器外科の融合」といたしました。日本消化器病学会東北支部例会では、特別講演「急性肝不全」、教育講演「新専門医制度の現状と今後の展望」、シンポジウム「肥満と消化器疾患」、特別企画「目指せ！ 消化器病専門医－初期研修医からの報告・後期研修医からの報告－（アワードセッション）」、女性医師の会セッション「キャリア支援について～女性医師が継続して仕事をするために～」と専門医セミナー「膵癌診療をひも解く」を企画しました。日本

消化器内視鏡学会東北支部例会では、特別講演「早期大腸癌内視鏡診療の最前線」、教育講演「炎症性腸疾患治療における新たに登場する分子標的治療」、シンポジウム「消化器内視鏡診断と治療の進歩：東北から世界へ」、プレナリーセッション「目指せ！ 消化器内視鏡専門医（アワードセッション）」をプログラムに組み込んでいただきました。

過去最多のご参加をいただき、参加証も不足してしまうという予測できない事態も生じましたが、学術的に活発な議論、内科医と外科医との意見交換と情報共有ができたと思います。本支部例会を盛会のうちに無事終了いたしましたことは、ひとえに皆様方のご協力とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。



第12回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会を開催して

佐々木 章

第12回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会を、2018年12月5日（水）に福岡市の福岡サンパレスホテル&ホールで開催させていただきました。

わが国の肥満症手術は、保険収載されている術式が腹腔鏡下スリーブ状胃切除術のみであること、保険診療の施設基準が厳しすぎることや肥満関連 健康障害の適応が限定されていることなどから普及には至っていないのが現状です。しかし、世界における糖尿病の治療戦略は大きな変換期を迎えています。2015年にロンドンにおいて第2回糖尿病外科手術サミットが開催され、糖尿病の治療選択肢の1つとしてメタボリックサージェリーを推奨する治療アルゴリズムは、45の医学・研究組織の承認を得て、米国糖尿病学会の機関誌に掲載されました。ガイドラインでは、アジア人2型糖尿病では、BMI $\geq$ 37.5では血糖コントロールに関わらず、そして、BMI $\geq$ 32.5では血糖コントロールが不良な患者に対して、メタボリックサージェリーが推奨されました。この背景から、わが国においても肥満症・糖尿病に対する外科治療が急速に施行される可能性がでてきました。日本肥満症治療学会では、安全な肥満外科手術

の普及と肥満外科医育成のために、肥満症外科手術認定施設の審査を行っていますが、2018年12月時点での認定施設は17施設です。今後、わが国においても本手術が急速に普及することが予測され、日本内視鏡外科学会ならびに日本肥満症治療学会は合同で腹腔鏡下肥満・糖尿病外科手術導入要件を発表し、注意喚起を行っています。

今回は、特に肥満症手術の開始施設や今後導入を考えている施設を中心に考えて、テーマを「メタボリックサージェリーの安全な普及を目指して」としました。第5回アンケート調査結果報告に加えて、基調講演「周術期の栄養管理と心理的ケア」、ワークショップ「メタボリックサージェリー：導入の準備、現状と問題点」を企画しました。過去最多となる70名を超えるご参加をいただき、活発な議論と意見交換は深夜まで続きました。本研究会を盛会のうちに無事終了いたしましたことは、事務局である大分大学国際医療戦略研究推進センターの太田正之教授とプログラムにご協力いただいた皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。



巖刀会学術賞

長谷川 康

このたびは、栄えある巖刀会学術賞を受賞し、大変光栄に存じます。受賞論文は、“A novel model for prediction of laparoscopic liver resection surgical difficulty (Surgical Endoscopy 誌)”と“Laparoscopic left hemihepatectomy is suitable as a first step in pure laparoscopic major hepatectomy (Annals of Gastroenterological Surgery 誌)”です。

これらの論文はいずれも腹腔鏡下肝切除に関する臨床研究を報告したものです。岩手医科大学外科学講座は、腹腔鏡下肝切除において国内屈指のハイボリュームセンターであり、その強みを生かして、様々な臨床研究を行うことが

可能です。前者の研究は、手術難易度を術前に予測するための指標を検索し、数値化しました。後者の研究では、腹腔鏡下大肝切除のなかでも左葉切除が右葉切除や後区域切除に比べて手術成績が良いことから、導入に適していると結論づけました。これらの論文は、さまざまな術者や施設において腹腔鏡下肝切除の導入および適応拡大に役立つものと考えております。

今後も引き続き、臨床・研究・教育に邁進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



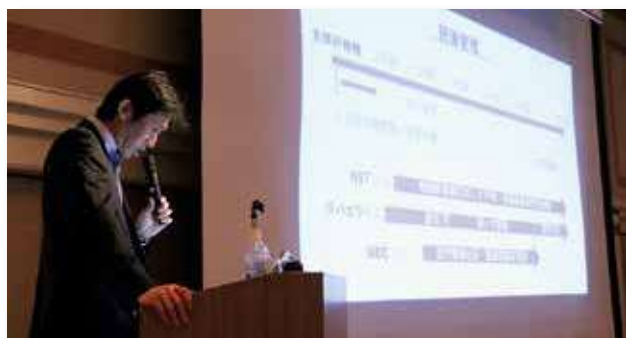
岩手医科大学での肝移植 100例を振り返って

高原 武志

岩手医科大学では、2007年1月に第1例目の成人生体肝移植を、同年7月に小児生体肝移植を開始し、2018年12月までに生体肝移植を合計96例（成人症例 89例 小児症例 7例）施行した。また、生体肝移植症例数とその成績が認められ、2011年に国内23施設目の私立大学としては慶応義塾大学、順天堂大学について3施設目の脳死肝移植認定施設となり、2013年6月に第1例目の脳死肝移植を施行し、これまで13例の脳死肝移植を施行し、現在までに、生体肝移植と脳死肝移植を合わせて110例施行した。また、脳死肝腎同時移植は、国内でこれまで合計で17例しか施行していない中で、泌尿器科とも協力して2例施行した。2018年6月25日に、小川彰理事長、祖父江憲治学長にも参加して頂

き、これまで肝移植にかかわったほぼすべての関係者をお誘いし、盛大に岩手医大肝移植100例記念式典を開催した。

岩手医科大学において生体肝移植・脳死肝移植が日常診療の中の一つとして認知されてきた理由は、移植コーディネーターの設置や各部署の協力体制や医務課を含めて病院事務の支援や院内連絡網の整備・シミュレーション、数多くの診療科で組織される臓器移植委員会の設置などが挙げられる。一方で、急性肝炎患者の劇症化を早期に予知し対処することにより、予後を改善させることを目的として、厚生労働省「難治性の肝疾患調査研究班」の研究事業の一環として岩手医科大学消化器・肝臓内科が中心となって作成した肝炎劇症化予知モデルを確立し、急性肝不全に対して積極的な血漿交換により治療をしてきた歴史もあり、急性肝不全に対する治療はいわば岩手医大の‘十八番’でもある。このような背景の中で、脳死肝移植施設の責務として、脳死下臓器提供の啓蒙活動を積極的に行うとともに、北東北だけでなく東北地方の末期肝不全患者・非代償性肝硬変患者の救命のために、生体肝移植にさらなる成績の向上と、脳死肝移植の成功に努めていきたいと考えている。



能代・山本がん市民公開セミナーを開催して

加藤 久仁之

能代厚生医療センター外科

秋田県は、がんの死亡率が全国ワーストであり、能代・山本地区も同様であります。そこで当院では数年前より市民向けのがんに関する知識の普及を目的として、能代・山本がん市民公開セミナーを行ってきました。2018年11月11日（日）に開催したセミナーは好天に恵まれ、300名を超える市民にご参加いただきました。

岩手医科大学外科学講座の佐々木章教授からは、「みんなで学ぼう～消化器がんの最新手術～」と題する臓器別の消化器がんに対する腹腔鏡下手術、ロボット支援手術、肝移植などに関する最先端の内容をご講演いただきました。また、秋田大学腎泌尿器科学講座の羽瀬友則教授からは、「ロボット支援手術・da Vinci」に関する話題を提供いただき



ました。特別講演として、元プロレスラーの小橋建太さんに「腎臓がんから奇跡の復活～この一瞬を大切に生きる～」と題しまして、順風満

帆なレスラー人生から一転、がんによる大きな試練を乗り越えた努力と苦悩のエピソードを、60分1本勝負で現役時代さながら熱く語っていただきました。「がんになっても終わりではない、新しい人生が始まると思えるように一生懸命生きてほしい」と呼び掛けていただきました。質疑応答のコーナーで、小橋さんの水平チョップをいただけないかと申し出た方もおり、実際に胸で受けていました。最後は小橋コールの中、大盛況のうちにセミナーを閉会できました。

このような啓蒙活動等により、当院はここ数年でがん検診の受診者数が少しずつではありますが増加してきております。しかし、手術をする側として依然として進行がんがその多くを占めており、切除不能の状況で受診される方も後を絶ちません。当院は、能代・山本地区の市民の健康を守る地域中核病院としての役割を担っており、われわれ外科スタッフも少しでも力になれるように、誠心誠意努力してまいりたいと思います。



国内留学レポート

與那嶺 直人

はじめに

この度は、岩手医科大学外科学講座において平成30年9月・10月の約2ヶ月間、国内留学という形で研修をさせて頂きました。佐々木章教授、新田浩幸先生、大塚幸喜先生をはじめ外科学講座の先生には大変お世話になりました。皆さんのご尽力のおかげで貴重な経験をさせていただき、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

私は防衛医科大学校を平成27年に卒業しました。卒業すると自衛官の身分が与えられ、その後「医師たる幹部自衛官（自衛隊では医官といいます）」として働くこととなります。2年間の臨床研修ののち、自衛隊の部隊に配属され仙台駐屯地に赴任しました。医官といえば聞こえは良いですが、実際には部隊配属の間は十分な臨床経験を積むのが難しく、手術に参加する機会も限られます。その中で、研修可能なまとまった期間をいただくにあたり、質の高い手術を数多く学ぶことができる環境として、岩手医科大学外科学講座を紹介いただきました。

講座に来て驚かされたのは、手術件数とその手技のレベルの高さ、それに加えて大学病院としてしっかりと研究や教育を行い、医療の中核を担う病院として地域医療にも貢献されていました。限られた人手の中で全て維持していくことは大変難しく、講座の先生方の献身に尽きると感じました。

初めの1ヶ月間は肝胆膵疾患チームでの研修となりましたが、高難度の手術が非常に多く行われていました。午後から予定手術として肝左葉・尾状葉・肝外胆管切除を行い、さらにそれを5時間程で終えてしまうのには衝撃を受けました。手術の丁寧さだけでなく、そこに速さと正確さがあり、本当に手術がうまいということはこういう事なのかと考えさせられました。こちらで是非学びたかった手術に腹腔鏡下肝切除術と肝移植があります。腹腔鏡下肝切除といえば岩手医大というくらい有名

ですが、実際に手術を経験させてもらうと、（私には）腹腔鏡下では難しく思える症例でも、（私の目からは）いとも簡単に腹腔鏡下で先生方が完遂されていました。術中の脈管処理や止血、胆汁瘻防止、術後経過など、腹腔鏡手術の有用性を肌で感じることができました。私にとってほとんど未知の領域だった肝移植でも、実際の手術や術前準備から術後管理まで経験させていただきました。

後半に研修した下部消化管チームでは、大塚先生を筆頭にチームとしての体制ができていました。入らせて頂いた手術では、教育用のビデオで見る通りの手術が行われており、術中にも会話がなされ、注意する点や疑問点などを解消していくことができました。技術認定医取得を一つの目標に、手術ごとに手順や術者・助手の鉗子の位置、視野の確保などの定型化がなされ、技量の向上に繋がっていると確信しました。また、外科医だけでなく手術室全体の息のあったサポートがあり、入室～術中～退室まで流れるように行われており、全体の手術体制が整っていました。短い期間ではありますが術後合併症を経験することもなく、術後経過を通して本当に質の高い手術がなされていました。

手術以外にもとても良い経験になったのは、多くの年齢の近い外科の先生方がいたことです。日頃、同年代のいわゆる若手の外科医と勤務することが少ないため、その先生方がどういった働き方をされていて、どういった実力があり、どういった将来像を描いているのかを聞いたのは、私にとって大変刺激になりました。自分に足りないものや必要な事、反対に自分の恵まれている点など、自分の現在地を再確認する良いきっかけとなりました。

さいごに

盛岡での生活は密度の濃いもので、キツイというよりは正直なところ大変充実した2ヶ月間でした。慣れない場所での一人暮らし



でしたが、多くの先生に気にかけていただきました。色々な所へ連れて行って頂き、盛岡の名物、美味しいものはほとんど食べたのではないかと思います。観光地にはほとんど行けなかったのが次の機会にと考えています。まだまだ私が未熟なため、外科講座について全て学ぶことができた

とは到底いえません。今後、手術や臨床経験を積み重ねれば、同じものでもまた違った景色で、より深い理解を持って見ることができると思っています。良い外科医となれるよう日々努力を続けていきますので、再度機会がありましたら是非研修させて頂きたいと思っています。

海外研修報告

第34回環太平洋外科系学会 日本支部学術大会(PPSA-JC)に参加して

高清水 清治

今回、The 34rd Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC) に参加させていただきました。本年度も引き続き、Hawaii (Honolulu) が開催地となっており、「Current status of laparoscopic surgery for colon cancer in obese patients at a single institution」という演題で発表させていただきました。大学院1年目にして初めての英語での海外発表ということで身の引き締まる思いをしたことを覚えています。

事前準備では抄録作成、スライド作りの段階から初めての英文校正を含めて、多くの戸惑いがありました。指導医の大塚先生に多大なご迷惑をかけながら、何とか進めることができました。学生時代から東南アジアを中心とした国々には積極的に足を運んでいましたが、観光地であるとはいえ、英語圏の国に滞在することが初めてであったことから、これをいい機会と捉えて、耳を英語に慣らすための準備を行いました。TED、CNN student newsといった無料のコンテンツを活用し、通勤や出張の空き時間を利用し、聞き流すことで耳を英語のリズムに慣らししました。TEDの特長は話者が英語圏から非英語圏まで幅広くいるので参考になること、日々内容が更新されていくので多様な話題に触れることができます。CNN student

newsも同様に連日更新されるため、新鮮な世界のニュースに10分ほどの短時間で触れられること、映像もあり、飽きることなく

繰り返し聴けることがあります。発表原稿については暗記するまで読み込み、基本的な言い回しや関連する語彙を増やすことで質疑応答の準備としました。発表当日は大変緊張しましたが、何とか終えることができました。質疑応答では自分の力不足、経験不足を感じるものとはなりましたが、これからはまた頑張ろう、と思えるものでした。

初めて下り立ったハワイは想像以上に過ごしやすい観光地でありました。先輩方や同期のみんなといろんなお店を見て回ったり、ハワイの風、ハワイの音楽に包まれながらワイキキビーチで寝そべったり、特大のハンバーガー、特大のステーキを食べ、他愛のない話をしたりできたことはとても有意義でした。Farewell PartyでHalekulani hotel Hau terraceから目にした、ヤシの木々の間をワイキキ湾に沈む夕陽の美しさ、夕陽を浴びたダイヤモンドヘッドの光景は学会のクライマックスとして忘れられないものとなりました。

最後になりますが、こうした貴重な機会を与えていただき、多大なるご指導をいただきました先生方に心より感謝申し上げます。



佐々木 教之

平成30年2月16日から2月18日にHonolulu, Hawaiiで行われた第34回環太平洋外科系学会日本支部学術大会に参加させていただきましたので、報告いたします。

この学会は、外科系若手医師の英語発表の登竜門として、日本で初めて心臓移植を行われた故 和田寿郎先生が発起した会で、最近はHawaiiなどの海外で開催されています。私は平成29年4月に社会人大学院に入学し、大学院1年生として教室の先生方と参加させていただくこととなりました。

私はポスターセッションで症例報告「A case of esophageal carcinosarcoma diagnosed by mutation analysis」を発表しました。導入化学療法により癌種成分のみCRが得られた食道癌肉腫の症例で、癌腫・肉腫成分両方に次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝子解析を行い、諸説ある食道癌肉腫の組織発生の中でsingle-cell originであることが示唆

された、という内容です。

指導教官である岩谷先生から、ポスターや発表原稿の作成、発表の仕方や質問対策まで手厚

く指導していただいたおかげで、何とか乗り切ることができました。しかし、他の先生方の英語力やプレゼンテーションスキルは素晴らしく、自分の力不足を痛感しました。学会では分野にとらわれず様々な演題が発表されており、大変勉強になりました。

今回発表させていただいた食道癌肉腫の症例については、癌腫・肉腫成分両方にExome sequenceも行い、結果を日本癌学会総会で発表させていただきました。Hawaiiでの発表が私の大学院生としての出発点となったと感じています。今後は論文文化に向けてさらに勉強していきたいと思っています。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えていただき、岩谷先生、佐々木教授をはじめとする教室の先生方に感謝申し上げます。



木村 拓

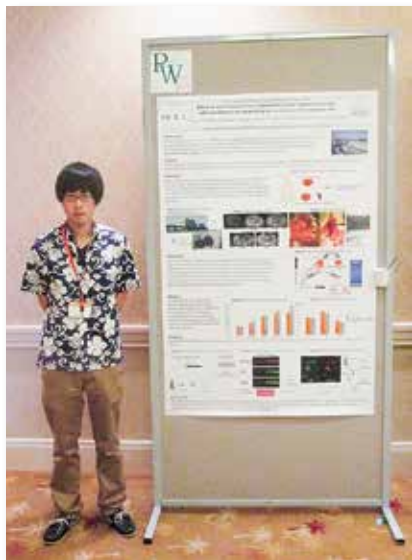
今回私はHyatt Regency Waikiki Beach Resort & Spa (Honolulu) にて平成30年2月16日から2月20日にかけて開催された、第35回環太平洋外科系学会日本支部学術大会(The 35th PPSA-JC)に参加致しましたので、ご報告させていただきます。

現在、私は岩手医科大学附属病院で2年次臨床研修医として研修させて頂いております。卒業と同時に外科学講座に出局させて頂き、大学院にも入学したため大学院2年生でもあります。大学院入学時にHawaiiで開催される今回の海外学会のことを教えて頂き、日本人主体で行われる海外発表の経験の少ない私のような若手医師に経験をさせて頂ける学会ということを開き参加を決めました。

今回の学会は初めての海外学会で、大学院1年生で参加させて頂きました。医師1年目ということもあり学会発表

の経験自体少なく、加えて英語も高校生の時以来触れる機会が少なかったため期待と不安の入り混じった気持ちであったことを覚えております。発表までには、私のために上司の先生方に

お忙しい中時間を割いて頂きながら何度もリハーサルを行いました。熱心にご指導を頂き、何も持たずに発表できる



ようになるまで何度も練習しました。質疑応答に関しても考え得る想定質問に対する解答を準備して発表に臨みました。演題としては、私の大学院の研究テーマである「Effects of splenectomy on liver regeneration in a rat hepatectomy model, and availability of the extracted spleen as a source of transplanted cells」という内容で、ポスター形式で発表させて頂きました。発表自体は練習通りにスムーズに進みましたが、質疑応答では言いたいことをうまく伝えられない点があり、英語で対応する力の必要性を痛感致しました。反省点は多かったものの、自身の達成感是非常に大きいもので、それと同時に「次回こそ」という海外学会参加への推進力を得ることができました。

本学会には、岩手医科大学以外にもさまざまな大学の外



科系医師が参加していました。発表全体を通して話し方や目線、スライドの構成等国内学会とは異なる点が多く、海外学会ならではの貴重な経験をさせて頂きました。夜には学会で開催される Welcome party、Farewell partyに参加し、他大学の私のような若手医師に加えて上の先生方とも交流させて頂きました。発表後の Farewell party では私の発表内容に興味を持って頂いた先生方からも声をかけて頂き、有意義な時間を過ごすことができました。

また、学会以外では観光も楽しませて頂きました。教授をはじめ先生方に食事に連れていて頂き、楽しいひと時を過ごしました。豪雨のため海水浴ができなかったこと、太陽の昇る Diamond Head を見に意気込んで夜明け前に出発したものの、反対方向のバスに乗り同期の藤澤先生と2人、バスの中で夜明けを迎えたことなど若干の悔やまれる点はありましたが、本当に良い思い出となりました。

今回の学会を通して、たくさんの良い刺激を受けました。今回の反省点を活かし、ひとつひとつの学会で達成していく具体的な目標を持って、今後も学会活動への参加を積極的に行っていきたいと考えております。

最後になりますが、このような機会を私に与えて下さりご指導を頂いた、教授をはじめとする先生方や、支援して頂いた皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

藤澤 良介

今回、平成30年2月16日から18日に、Hyatt Regency Waikiki (Honolulu, Hawaii) で行われました The 34th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (第34回環太平洋外科系学会日本支部学術集会)に参加させていただきました。

日本人のみでありながら、若手の海外発表を見据えた学会であり、これから必要とされるだろう英語での学会発表の良い経験になると考え参加させていただきました。また、国内の若手医師との交流を楽しみにして参加いたしました。

私はポスター発表での症例報告で発表をさせて頂きました。Giant gastric gastrointestinal stromal tumor located in the left thoracic cavity secondary to an esophageal hiatal hernia という症例について報告いたしました。指導医の先生方にご指導いただきながらポスター、発表原稿を入念に準備できたおかげで、発表自体は滞りなく行うこと

ことができました。しかしながら、質疑応答となると、質問者の先生の意図がくみ取れず返答に困ってしまいました。自分の英語力の無さと、経験の少なさを痛感するとともに悔しい思いでい

っぱいになりました。今後の国内・海外ともに学会発表へのモチベーションになるとともに、危機感を持つ良い経験となりました。また他大学の医師の方々が流暢な英語で口



演発表・質疑応答をされているのを見て私自身もその舞台に立つべく研鑽していかなければならないと強く心に刻みました。

現地では学会主催の Welcome Partyに加え、終了後の Farewell Party も参加させていただきました。いずれも他大学医師と交流する良い経験となりました。学会で現地の正装であるアロハシャツを着て発表したことも新鮮で良い思い出となりました。海外旅行の経験も少なく、英語で会話をする経験が少なかった私にとっては、英語圏での数日間の滞在は非常に有意義なものとなりました。

今回の演題ですが、その後英語論文という形で発表することができました。英語論文雑誌 Surgical Case Report に “Giant gastrointestinal stromal tumor of the mediastinum associated with an esophageal hiatal hernia and chest discomfort: a case report” というタイトルで掲載することができ、学会発表から論文へと形にするという一連の流れも経験することができました。



最後に、私にとって初めての学会発表、さらに英語での発表ということもあり、準備段階から非常に苦勞いたしました。しかしながら先生方の辛抱強いご指導のおかげで学会発表、加えて論文という形までたどり着くことができました。このような機会を与えてくださった佐々木章教授をはじめ、諸先生方に心より御礼申し上げます。

肝移植 技術高め100例

岩手医大

チーム医療成果

きょう 記念式典

岩手医大は2007年から今年4月までに、肝移植100例を達成した。臓器移植ができる県内唯一の医療機関として技術を高め、今では肝移植が日常診療の一つとなるまでに定着した。25日には盛岡市内で記念式典と記念祝賀会を開催。100例の節目に講演や患者へのインタビュビデオでこれまでの歩みを振り返り、移植医療のさらなる充実を誓う。

100例の内訳は生体肝11例。同大によると同大の移植が89例、脳死肝移植が11例。同大によると同大の1年生存率は成人が82・8



肝移植100例を「多くの診療科が関わってくれたおかげ」と振り返る佐々木章教授

%（全国81・9%）、小児が100%（同89・6%）と高い水準を保っている。同大は07年、県内で初めての生体肝移植を実施。11年には私立大として全国3施設目の脳死肝移植認定施設となり、13年に初の脳死肝移植を行った。

当初から携わる同大外科学講座の佐々木章教授によると、肝移植開始当時は予期せぬ事態にも対応できるように同講座が繰出で手術に当たったという。スタッフの技術向上とともに手術に必要な人数が減り、時間も短縮。現在では肝移植は「特別な医療」ではなく、治療の選択肢の一つとして認知されるようになった。

佐々木教授は「肝移植はチーム医療。外科だけでなく、多くの診療科が関わって

く、多くの診療科が関わって振り返り、次の患者に生かしてくれた結果だ」と感謝し、していく」と今後の発展を「命を救えなかった症例を見据える。

肝移植100例達成祝う

盛岡 岩手医大が記念式典



肝移植のこれまでの歩みを振り返り、今後の発展を誓う関係者

岩手医大の肝移植100例記念式典・祝賀会は25日、盛岡市内のホテルで開かれた。関係者約150人が同大で育まれた移植医療の歴

史の重みを感じ取った。同大外科学講座の高原武志講師が記念講演し、肝移植を支えるチーム医療の力に感謝。「救命でしな

岩手日報 2018年6月26日掲載

った事例の原因を追究し続け、他職種と連携して患者の救命に尽くす」と誓った。

来賓出席した同大の小川

彰理事長は「大学として誇りだ。日本初の角膜移植から始まった大学の移植医療の歴史をきちんとつないでくれている」とたたえた。

同大は2007年に本県初の生体肝移植、13年に脳死肝移植を行い、今年4月までの肝移植が100例に達した。

変異が出る。この変異が特定の病気へのかかりやすさなどの個人差として現れる。今回のデータには3552人から計約5116万個の変異を収録している。



避難者を診察する有末篤弘医師（右）ら盛岡赤十字病院の救護医療班＝9日、北海道厚真町・町総合福祉センター避難所（報道部・太田代剛撮影）

医療支援に力注ぐ

盛岡赤十字
病院チーム 避難所で活動

【北海道厚真町で報道部・太田代剛】地震で被災した北海道厚真町の避難所で、盛岡市の盛岡赤十字病院の救護医療班が9日から活動している。

町総合福祉センター避難

所の救護所では同日、同病院外科副部長の有末篤弘医師と助産師1人、看護師2人、薬剤師1人、主事3人の8人が診療。足の痛みを訴える高校1年の男子生徒が訪れると、有末医師が患部の保護の方法などを指導し、「痛みがひどくなったらすぐ来てください」と優しく語りかけた。

この生徒は自閉症と軽度の知的障害があり、母親(36)は「災害と避難所生活で生活が変化し、不安もある。専門家のケアはありがたい」と話していた。

同病院は11日(土)まで活動する予定。有末医師は「避難の長期化に伴い、心のケアなどの支援が重要になってくる。東日本大震災の経験があるスタッフもおり、できることを精いっぱいしたい」と話す。

岩手日報 2018年9月11日掲載



震災経験 医の道へ

陸前高田出身・小泉さん(県立久慈病院研修医)

「大切な人守りたい」

地域医療担う決意胸に

東日本大震災で傷ついた古里を胸に、医療の道を歩き始めた。14日まで八幡平市内で開かれた、初期臨床研修医の合同オリエンテーションに参加した県立久慈病院の研修医、小泉優希さん(25)＝陸前高田市出身＝は、家族の病気をきっかけに医師を志し、震災でその思いを強めた。「頼れるホームドクターとなり、大切な人を守りたい」。支えてくれた家族への感謝と、地域医療を担う決意を胸に力強く進む。

小泉さんは2日間の研修に、もどかしさを抱いた。参加 院内業務の模擬体験と同時に、治療で薬にしてくれや、先輩医師からの講義で学び、仲間と高め合った。

「衛生や感染予防など現場で役立つことが、とても勉強になった」と知識を深めた。

医師を目指したきっかけは、中学生のころにあった祖母の入院。祖母に声を掛けることができない自分

た。

ドクターヘリで人がを救う医師の姿を目の当たりにし、災害医療の重要性を認識した一方で、何もできない自分に再び無力さを感じた。「やっぱり簡単に夢を諦めたくない」。在学中

研修医の仲間と合同オリエンテーションに臨む小泉優希さん

ながら勉学に励み、岩手医大に合格した。

研修病院は、救命救急センターのある県立久慈病院を選んだ。積極的に治療に参加する先輩研修医の姿も魅力的に映った。

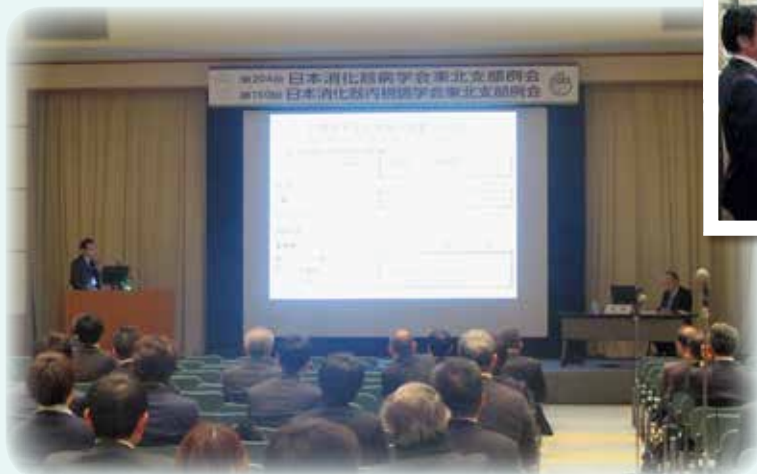
今後は現場で研さんを積みながら、岩手医大の社会人大学院でがんの研究も続ける。「治療のほかに予防医療も学び、地域の健康を促進できるような知識や技術を吸収したい」。地域密着型で頼られるホームドクターになるという目標に向かい、努力を重ねる。

岩手日報 2018年4月15日掲載

February

2

第204回日本消化器病学会東北支部例会
第160回日本消化器内視鏡学会東北支部例会
(2018.2.2.-3. 仙台市／仙台国際センター)



合同送別会 (2018.3.16.)

March

3



April

4

医局お花見 (2018.4. 盛岡城跡公園)



April

4

肥田圭介教授就任祝賀会 (2018.4.22. 盛岡グランドホテル)



June

6

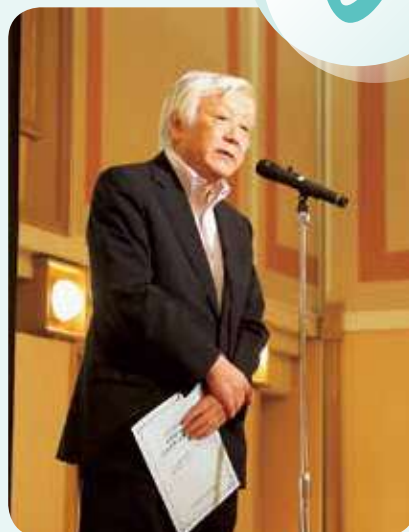
同門会総会 (2018.6.9. 盛岡グランドホテル)



肝移植100例記念式典・記念祝賀会 (2018.6.25. 盛岡グランドホテル)

June

6



July

7

2018年受賞者記念祝賀会 (2018.7.19.)



July

7

北上川ゴムボート川下り大会 (2018.7.29)



December

12

同門会忘年会 (2018.12.1. 盛岡グランドホテル)



December

12

医局忘年会 (2018.12.28. 盛岡グランドホテル)



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

厳寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
平成最後の関連病院便りとして、岩手県立二戸病院よりご報告申し上げます。

平成30年度の診療体制ですが、副院長の佐藤直夫先生と副院長心得の阿部薫先生が異動となり、私 川村英伸（副院長心得）が4月から着任しまして、中屋 勉先生、川崎雄一郎先生、松井雄介先生の4人体制（1人減）となりました。

また、外来診療応援には、毎週月曜日：遠藤史隆先生、毎週木曜日：山田裕彦先生（高度救命救急センター准教授）、毎週金曜日：新田浩幸准教授・医局長、第3月曜日：小松英明先生、第2水曜日（小児外科）：水野 大准教授にお手伝い頂いております。そして緩和ケアの診療応援には、毎週金曜日に緩和ケア科の木村祐輔教授に来て頂いております。さらに手術応援として毎週金曜日に軽米病院副院長の葛西敏史先生にもお手伝い頂いております。

一方、カシオペア医療圏内の診療応援として、当外科の川崎先生が毎週月曜日午前中、軽米病院で外来診療を行っています。4人体制と減員となったため、昨年度まで行っていた九戸地域診療センターの診療応援はやむなく中止とさせて頂いております。

2018年（平成30年）の全手術数は348件（前年度310）、全身麻酔手術数290件（251）、急患手術数88件（49）、腹腔鏡下手術数122件（75）と前年度より増加致しました。

麻酔は、常勤の中村敏克先生のほか、岩手医大麻酔科から応援を頂き、平日、休日を網羅して頂いておりますが、麻酔科不在時は自家麻酔（主に松井先生）で対応しております。

当病院の医療圏は、二戸市のほか、一戸町、軽米町、九戸村、旧浄法寺町（二戸市に合併）があり、一つの単位として「カシオペア連邦」と呼ばれています。この他、八幡



平市、葛巻町、青森県の三戸町、田子町までを含む広い地域（人口10万人強）から患者様をご紹介頂いております。これらすべての地域の病院では外科手術を行っていないため、当外科は岩手県北の拠点として重大な役割を担っていると思われ、大きな責任を感じております。

当院でも慢性的な医師不足、外来患者数や病床利用率の低下、病院収益の悪化など多くの問題を抱えております。しかし、地道な努力によって少しずつ外科への紹介が増え始め、手術件数、外科病床利用率が増加してきております。佐々木 章教授をはじめ、新田浩幸准教授・医局長、大塚 幸喜准教授など多くの岩手医大外科からの手術応援も頂きながら、全国の標準外科手術に迫りかけている様に、日々勉強していきたいと思っております。

また当院では、包括ケア病棟の導入をすすめており、岩手県医療局の承認が得られ次第、稼働する準備ができております。

今後も岩手医大外科の医局員の皆様のご協力を頂きながら、二戸地区の外科診療に真摯に取り組み、地域医療に貢献したいと考えています。

最後に残念なお知らせがあります。川崎雄一郎先生が、今年3月で二戸病院を退職し、4月から二戸市内で開業する予定です。長い間（二戸病院勤務11年）お疲れ様でした。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

新年あけましておめでとうございます。

医局の皆様におかれましても平成から新しい年号へと変

わる今年、さらには病院移転の年でもあり、慌ただしく過ごされているかと思います。

また、いつも当院の応援を頂き、誠に有り難うございます。週末にみなさんに来て頂き、医師不足の当院としては大変助かっています（木村先生、高清水先生、安藤先生、二階先生、天野先生、畑中先生、近藤先生、早野先生、佐

藤先生ら)。また、外来応援では二戸病院からも応援をいただいております、有り難うございます（川崎先生）。

当院では昨年大きな出来事がありました。それは、秋に一人の常勤医師が当院に来てくれたことです。内科医不足の当院では、中央病院からのレジデント応援を毎月交代制で来て頂いておりますが院長の負担は大きく、危惧していました。そこに魚谷先生という方が、富山の外科の医局から離れ、坂本先生を頼って岩手に来てくれたのです。元々は外科医でしたが、内科医として赴任してくれました。年も私に近く、これから院長を助けて一緒にやってくれるかと思うと、ちょっと安心しました。

地域枠奨学生の医師配置についても、県や大学の間で協議がなされていますが、専門医制度が変わってしまったため、大学や中核病院に所属しないと取得できないようです。そのため、地域病院など田舎に赴任するとキャリアパスが中断され、専門医取得が遅れてしまうため、なかなか配置が進みません。県も思い切ってインセンティブを与え、義務年限が短縮されるようにすればもう少し田舎に来てくれる医師が増えるかもしれません。というのも、昔私も奨学

生でした。が、「軽米病院に努めると義務年限が半分になる」というインセンティブがあったため、わずか3年で返済を終了してしまいました。

（同様な病院が千厩、大槌、住田など）まあ、その後20年近くもいることになることは、その時には想像もしていませんでした。

とりとめなく書いてきましたが、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。

（文責：葛西敏史）



写真：二戸医師会報

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院

平成30年度の外科スタッフは吉田徹院長のほか、遠野千尋、伊藤千絵、八重樫瑞典、石岡秀基、中村侑哉、救急医学講座／皆川幸洋副救急センター長の7名でした。その他、2年次研修医、1年次研修医もローテーションをしてくれています。また、外科学講座医局からは小児外科を小林めぐみ先生に毎月1回の診療、また、佐々木章教授、肥田圭介教授、大塚幸喜特任准教授、新田浩幸特任准教授、



高原武志講師にも手術応援を頂き、最先端の手術術式を学ぶことができています。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2018年の手術件数は426件（2017：464件、以下カッコ内は前年件数）で、全身麻酔手術件数は313件（333）、鏡視下手術は103件（157）でした。癌の手術においては多い順に大腸癌が53件（61）、胃癌が15件（25）、乳癌が20件（21）でした。緊急手術は63件（86）で、減少しました。久慈病院全体の手術件数は1581件（1604）でそのうち全身麻酔手術は554件（572）でした。外科の手術件数は全科手術総数の27%（30%）であり、全身麻酔手術においては56%（60%）が外科の手術です。

沿岸の基幹県立病院においては受診患者、入院患者が10%弱の減少があり、当院もその傾向ですが、手術数はほぼ横ばいで推移しています。これは、人口減少の中、高齢者の人口は変化がないことから考えられます。久慈市のホームページによれば、久慈市の65才以上の人口は2045年まで減少することなく、1万人を維持する見込みです。今後も医局のご指導、サポートを頂きながら、医師のみならず、医療スタッフとも一丸で気を緩めることなく、地域外科医療に取り組みたいと考えます。

（文責：遠野千尋）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

今年一番のトピックスは、3月末で川村英伸先生が、県立二戸病院へ副院長として栄転されたことでしょう。長年盛岡赤十字病院にご尽力され、東日本大震災時は真っ先にヘリに乗って大船渡へ派遣、また、診療ではヘルニア関連に多大なる業績を残されたことなど、感謝いたします。伊藤千恵先生も県立久慈病院に転勤になっております。4月からは、能代から大山健一先生、久慈から高橋正統先生が赴任し、体制を新たにスタートしております。また、9月で石橋先生が函館五稜郭に転勤となっております。

手術件数は、若干減りました。全麻件数651件、昨年より50件ほど減少しております。うち急患手術は107件、鏡視下



手術は357件でした。胃癌が減少、大腸がんが増加はどこの施設も同じかと考えます。

フットワークを軽く、他科、パラメディカル、事務との連携を深め、急患を断らず、期を失せず手術を検討、皆笑顔で院内を走り回っております。

今年在籍した常勤医

杉村好彦、青木毅一、大山健一、高橋正統、有末篤弘
川村英伸、伊藤千恵、石橋正久

Uchimar Hospital

内丸病院

内丸病院の状況報告を致します。

外来は予約制の専門外来が中心となっており、H31年4月から応援の先生のご協力もあり、外来日が毎日（1～2診）になります。

月曜～木曜 甲状腺・乳腺外来（富澤）

水曜 乳腺外来（多田先生）

金曜 甲状腺・乳腺、肛門外来（菊地先生）
（月1回金曜 教授外来 佐々木章教授）

H30年度は、PTEG取扱認定医（日本PTEG研究会）、超音波専門医（日本超音波医学会）を取得できました。今後も専

門領域や得意分野を追求していきたいと思います。

自分事ではありますが、今年は大学院進学が決まり、いままです以上に仕事と勉学の両立が求められそうです。そんな中でも可能な限り、職場の仲間との交流は継続したいと思います。昨年は病院スタッフと槍ヶ岳（日本で5番目に高い山）登山をしてきました（写真）。（ほかにホノルルマラソンも出



場しましたが、スポーツやレジャーをしている以外の日は仕事を頑張っています！）

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院

平成30年度は、須藤隆之、藤原久貴先生と平成30年4月より梅邑晃先生、10月より早野恵先生に平成31年3月まで勤務頂いております。平成29年より院内に消化器、栄養センターを立ち上げました。センター長は、須藤が拝命いたしました。当院は、常勤医25名中消化器内科医7名、消化器外科医3名、糖尿病代謝科4名と消化器系の医師の比重が多く消化器病患者さんを内科外科の垣根を超えて治療する目的で設置

いたしました。In Bodyを3台購入しフレイル、サルコペニアへの対応も始めました。平成29年須藤が臨床研修医制度のプログラム責任者を取得し、平成30年基幹型研修病院に認可され、平成31年度から研修医1名の受け入れが決定いたしました。当院の研修プログラムの特徴は、社会人大学院生も可能で必修以外の選択科目は外科または、消化器内科になっており、将来消化器外科医、消化器内科医を目指す医師のみをターゲットとしています。当院での初期研修終了後は、岩手医大外科に入局頂き、最短で学位、外科、消化器外科専門医を取得できるように配慮しております。毎年当科より1～2名岩手医大外科医局への入局者を確保できればと考えており

ます。昨年、当院の恒例行事となりましたキッズセミナーは、11回目となりました。今年も開催予定ですので、御子息様の参加希望あれば是非御連絡下さい。平成30年の学術活動では、全国学会発表7件、和文論文1編、英文論文6編でありました。平成30年の臨床でのトピックスは肥満手術を導入し、腹腔鏡下 Sleeve gastrectomy を佐々木章教授の指導のもと2件行いました。日本肥満症治療学会の認定施設取得を目指して頑張っています。平成30年度の全身麻酔手術件数は569件で昨年と比べて順調に伸びております。腹腔鏡手術率は、77.3% (440/569件) と腹腔鏡手術を積極的にを行い、日々多忙ではありますが、今後も当院に勤務頂く医師には、臨床経験はもちろん老若問わず活発な学術活動を継続して頂きたいと思っております。平成31年度の学術活動は、現在当院において1. SSI



(Surgical site infection) 2.大腸癌におけるRPS (Reduced port surgery)、3.ラパ胆のRPS、4.TAPPのRPS、5.ラパコロンのERASの計5つの臨床研究を行っており、その結果が出来次第論文化する予定であります。平成31年度の臨床での目標は、保険収載となった胃癌、直腸癌に対するダビンチ手術の導入であります。当院は、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。(文責：須藤隆之)

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

県立釜石病院・外科の報告です。平成30年も前年と同様に、石黒保直先生(第1外科長)、箱崎将規先生(第2外科長)、佐藤一(副院長)の3人体制で診療を行ってきました。外科学講座から手術応援も頂きながら、診療に手術にと励んでおります。

震災後、関西などから来て頂いていた応援の先生方も減って常勤医は20人以下となり、地域の中核病院の機能を維持するのに大変な中、それなりに経験を踏んでいる外科の医師は病院の管理業務などもそれぞれ負担しつつ、病院全体の外科系の診療のバランスを取る役割も負っています。

定期の応援は、大槌病院の坂下伸夫先生が週一回の手術応援、孝仁病院から木曜日に小笠原聡先生が甲状腺外来と手術に来て頂いているほか、月一回岩谷岳先生に食道外来に来て頂いております。医局の若い先生方にも週三回午後の手術応援に来て頂いており、大いに頼って手術予定を組ませてもらっていますし、大学の情報をお聞きできる貴重な機会にもなっております。また、週末の当直、救急対応に応援を頂いていることで大変助けられております。

事あるごとに相談させて頂いている佐々木章教授をはじめとする各グループの先生方にも改めて御礼申し



あげます。

昨年を書きましたが、今年はいよいよ釜石鶴住居復興スタジアムでラグビーワ



ルドカップ2019が開催されます。当院は後方支援病院として、数多く集まるであろう観客や各国の選手スタッフにも対応することにもなっており、救急科長も務める石黒先生が中心となって準備を進めております。総合病院と言うことにはなっておりますが、各所から応援を頂きながらなんとか診療をやりくりしている病院ですので、おそらく外科学教室をはじめとする医大の先生方にもお世話になることと思います。

RWC2019に合わせて全線開通となる釜石道と三陸道の高速道路もこの三月までに開通です。この年報が発刊される頃には釜石へのアクセスも更に改善されていると思いますので、

皆さん是非足をのばしておいでいただければと存じます。

秋の医大の矢巾移転も済めば、距離も一段と近くなり、大学の教室との連携がますます深まるのではと期待しております。今後とも県立釜石病院を何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：佐藤 一)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

皆様、ご無沙汰しております。宮古病院外科と宮古市の近況をご報告させていただきます。

まずは復興道路に関して。決して道路フェチでもなく方向音痴の自分ですが、特に盛岡と宮古間の道路が気に入っています。宮古盛岡横断道路が全て開通すると盛岡－宮古間が今までより30分は短縮されるそうです。区界－築川間・8kmと（宮古）藤原－箱石間・33kmは平成32年度の開通を目指しているそうです（平成もあとわずか、次の元号を私が決めるわけにもいきませんので前述のように記載します）。平津戸－松草間・7kmの開通は未定のように、全線開通がいつになるかはわかりませんが交通の便が良くなることは間違いありません。冬場の区界の厳しさ（個人的には宮古勤務は初めてなのでまだよくわかりませんが）も緩和され、宮古病院への応援もお願いしやすくなります。

さて主題の関連病院だよりです。宮古病院外科スタッフは平成30年3月末日で長年勤務された菅原俊道副院長が退職され、ほとんど戦力にもならない阿部薫が副院長兼診療情報管理室長として4月から赴任しました。同時期に、藤井仁志先生が転勤し佐々木秀策・外科医長が勤務しております。石川徹・第1外科長兼感染管理室長、藤社勉・救急医療科長兼緩和医療科長が前年度から引き続き勤務しており、後期研修医で外科医を目指す鳥居拓磨医師を合わせると5名体制でした。

平成30年の病院全体での全手術件数は1238件で前年比2.1



%ほど減少していました。外科の全手術件数は371件で全身麻酔件数は314件・前年比+9%でした。緊急手術件数が前年より10件減少していることを考えると、予定手術件数が40件程度増加した計算になります。特筆すべきは腹腔鏡手術症例の増加で、前年より50件以上増加していました。今後も腹腔鏡手術の増加を期待していますが、腹腔鏡では対処できないほどの進行大腸癌なども依然として多いため、急激な増加は難しいかと考えられます。

診療応援も前年同様に毎週火曜日午前外来を野田芳範先生、午後の手術指導に細井信之先生、火曜夜から水曜日午前外来は3ヶ月交代で天野聡、佐藤麻生、安藤太郎先生、月一回の専門外来に小松英明先生、水野大先生をお願いしています。

研修医の指導や学生実習もあり、近隣の病院や開業されている先生方には非常にお世話になっております。これからも地元で根差した安心できる医療が提供できるように、医局の先生方のご指導・ご支援をお願いいたします。

（文責：阿部 薫）

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

巖刀会の先生方に於かれましては、益々御健勝の事とお慶び申し上げます。北上済生会病院 平成30年度報告を致します。

昨年10月より菅野公德先生の御開業に伴う退職により常勤外科医1名体制で運営する事となり、手術・外来応援を複数の施設より多数頂いております。

火曜日外来に圭陵会会長で在らせられる斎藤和好先生をはじめとしまして

大学からは火曜日の小松先生による乳腺外来、水曜日午

後に水野准教授による小児外科外来（月1回）、木曜日の外来には秋山先生 遠藤先生 藤井先生 佐藤（麻）先生、安藤先生の隔週での診療応援を頂いています。

水曜日の手術応援に医大緩和ケア科の鴻巣先生にお手伝い頂いており、また、花巻温泉病院の塩井先生、県立江刺病院の瀬川先生には手術応援のみならず

外来診療もお手伝い頂いています。高位筋間痔瘻・肛門挙筋下痔瘻の症例にはふるだで加藤肛門外科クリニック院長の加藤典博先生にご指導を賜りました。

金曜日の当直に関しましては隔週で大学病院より派遣を頂き病院としても大変助かっています。お蔭様で無事に昨年度を乗り切る事が出来、この場をお借りして諸先生方に深謝申し上げます。

昨年度の手術件数、全身麻酔件数は例年と大きな変動はなかったものの、消化管疾患の症例数は漸増傾向であり、今後も症例数を伸ばしていきたいと思っています。

平成32年の新病院開院に向けて手術件数の増加、手術内容の充実を図るべく本年も頑張っていきたいと思っています。

本年度も医局の先生方、関連病院の先生方からのご支援、ご協力を賜ります様 何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：細井信之)



Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院



千厩病院外科のご紹介をさせていただきます。

外科学講座の小原眞（H4年卒）と佐々木教之先生（H24年卒）は留任し、また昨年度赴任した大崎洸先生（H26年卒）も留任となりました。

大崎先生は心臓血管外科の医局に所属していますが、岩手医大“地域枠”を卒業していることもあり、外科研修も兼ねた地域での診療のため当院へ派遣となっています。さらに、自治医大卒業生の義務派遣で伊瀬谷和輝先生（H25年卒）も一緒に勤務することになり、かつてない4人体制でのスタートとなりました。伊瀬谷先生は東北大学外科医局の所属であり、岩手医大・東北大の相互の交流という面でも意味深い存在となりました。

大学からも定期的な応援をいただき外来診療を行っています（下沖収先生、西塚哲先生、川島到真先生、佐藤麻生先生、安藤太郎先生、早野恵先生、有吉佑先生、藤井仁志先生、高清水清治先生）。そのほか、県立病院の現役・OB院長先生方をはじめ、多くの先生方にもお手伝いをいただいております（遠藤秀彦先生、伊藤達朗先生、西成尚人先生、松谷英樹先生、菅野公德先生）。この場をお借りして感謝の言葉を述べさせていただきます。本当にあ

りがとうございます。

また、外来診療の応援だけではなく、手術でも先生方のご指導をいただいております。佐々木章先生をはじめとして、肥田圭介先生、新田浩幸先生、大塚幸喜先生、塩井義裕先生にお越しいたご指導いただきました。我々のスキルアップに有用であるのと同時に、患者さんやご家族からは、地域に居ながら大学の先生の手術を受けられると大変喜ばれています。

千厩病院は148床のベッド数で、地域の一般診療、二次救急、外来透析など旧東磐井地域の中核的医療施設としての役割を担っています。医師不足の問題は深刻で、常勤医8名（外科4名、消化器科1名、総合診療内科2名、整形外科1名）と危機的な状態が続いています。その中での外科医師の役割は、通常の外科診療や手術のほかに、整形外科や泌尿器科などの患者対応も行っています。さらに平成28年度からは泌尿器科の常勤医師もいなくなったため、透析医療も外科が担当することになり、外科医の診療は多岐に渡っています。常に広い視野を持って診療にあたる必要があります。その目的を果たすため、当時の院長であった下沖収先生の発案により「総合診療外科」と標榜することになりました。これまでの外科疾患ばかりでなく、肺炎や心不全などの診療や老人医療なども手掛けています。これにより、外科の入院患者数・収益とも増加しており、病院経営にも貢献しています。

全身麻酔手術件数は145件で、前年度とはほぼ同数で推移しています。当院の特色として高齢者の比率が高く、周術期の全身管理などで苦慮することもあります。地域住民の健康を守るため、日々頑張っております。

外科診療の充実を図りつつ、質の高い医療を提供していくためには、医局の先生方のご協力が是非とも必要です。今後ともご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(文責：小原 眞)

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

巖刀会の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度も当直業務、手術応援・ご指導に多くの先生方のご協力を頂き、深謝申し上げます。

当院では昨年に引き続き川村秀司院長と瀬川の2人で外科業務を行っていましたが、10月から総合診療科として菊池俊弘先生が赴任し、手術の際などにご協力を頂けるようになりました。菊池先生には、主に訪問診療や緩和ケアを必要とする患者さんの診療にあたって頂いております。

平成30年度の手術件数は、前年度と比較し横ばいから微増程度ではあったものの、北上済生会病院の細井先生のご協力を賜りながら、昨年よりも腹腔鏡手術（鼠経ヘルニア、結腸・直腸、尿管管遺残等）の件数を増加させることができました。また、北上済生会での手術へも参加させて頂いており、昨年よりも外科診療に従事できる時間が増え、喜



ばしく感じております。当院では手術器具・新規抗がん剤やレジメンの導入などは、川村先生の下承を頂きつつ、ほぼ自分の希望で選択できるため、かなり自由度が高い状況で診療に当たらせて頂いております。

当院では消化器内科医師1人体制であり、少子高齢化が著しい地域背景と相まって手術件数の大幅な増加を図るのは難しい状況です。しかしながら、今年度から本格的に地域包括ケア病床を導入した成果もあり、以前から行っている一般内科的疾患の患者さんや慢性期の方の診療を充実させ、外科の入院患者数・収益を昨年よりも飛躍的に増加させることができました。

来年度には、ついに当院へも電子カルテが導入される運びとなり、今まで応援の際などにご不便をおかけしていた先生方のストレスを少しでも軽減できればと、目下準備中であります。

今後とも地域医療に貢献できるよう、大学をはじめ関連病院、近隣の病院の先生方のご協力・ご指導を賜りつつ努力して参ります。
(文責：瀬川武紀)

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

函館五稜郭病院の外科スタッフは高金明典副院長、小林慎診療部長、船渡治外科長、米澤仁志主任医長、大淵徹主任医長、武田大樹、石橋正久、川岸涼子、畑中智貴の9名です。10月から鴻巣正史先生が大学へ戻られ石橋が着任。今年の4月からは大淵、石橋、畑中が移動となり、大学から千葉丈広、佐藤慧が加入予定。それから新たに札幌医科大学 消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座から2名（河野、吉田）が加入することになりました。合計10名となり少しパワーアップできそうです。札幌大との新たな交流も

生まれ、4月から混合チームが一体どうなるのか、今から「ワクワクドキドキ！」しております。そして、小林先生は食道癌の手術（24件）だけではなく、救急科診療部長も兼務され救急診療と研修医の教育にも尽力しております。救急車の搬送件数も右肩上がりとなっており道南地区の救急医療に貢献しております。米澤は昨年5月について入籍し、独身隊長を辞任いたしました。3月には待望の第一子を授かるそうです。川岸は米澤とともに乳腺をがんばっております。形成外科とコラボして乳房再建に力を注いでおります。ちなみに昨年の乳腺手術件数は153件でした。美人なのに浮いた話を聞かせません。大淵は腹腔鏡手術全般と学会発表を率先して行っておりました。手術予定や当番表作成も請け負ってもらっていました。後輩の指導にも積極的

です。4月から地元の秋田に戻られるそうで寂しい限りです。秋田でも頑張っただけだと思います。武田は馬車馬のように働いております。肝胆脾の手術もほぼ任せられるほどに成長しております。仕事量に比例して体が大きくなっていくように見えるのは気のせいだろう。石橋は当院に来て半年で前任の盛岡日赤に戻るようです。どんな心境で盛岡日赤の歓迎会に出席するのか今から心配でたまりません。畑中は1年で移動ですが、家庭を持ってから自分のキャリア変更に成功したようです。逞しく成長し、これからいろんな症例を任せられるようになった矢先に移動とは残念です。そして私、船渡は外科長としての業務（雑用、書類、連絡、会議）に追われながら何とか働いております。訳あり症例も多く担当する立場であり、自分の子供もまだ小さいため、大好きな波乗りに行く回数はめっきり減りました。ストレスです。

さて、函館では昨年の10月12、13日に第19回日本クリニカルパス学会が高金会長（副院長）のもと開催されました。全国から約2000名の参加者（医療関係者）を集めて大盛況に終わりました。当院の宣伝と函館市の経済活性化に貢献しました。懇親会では岡田晋吾先生（北美原クリニック理事長、月2回ストマ外来の応援）の奢りでマグロの解体ショーが行われ、大いに盛り上がりました。それから、函館市は市町村魅力度ランキングでなんと、全国1位にランクされました。ちなみに2位は京都、3位は札幌だそうです。しかし、実際に暮らしている我々には全く実感が持てず、市域の人口減少も著しく、2014年から過疎地域に指定されています（人口約26万人）。観光（だけ）都市らしく毎年500万人近い観光客は訪れるそうです。

昨年手術件数は全手術数1564件（うちCVポート等382）、全身麻酔手術 1164件、腹腔鏡手術 627件、緊急手術 171件でありました。件数は一昨年をピークにして減少傾向ですが、これも人口減少の影響でしょうか。今後も手

術件数の大幅な増加は難しいと思いますが、手術のクオリティーにこだわってスタッフ一同精進したいと思います。

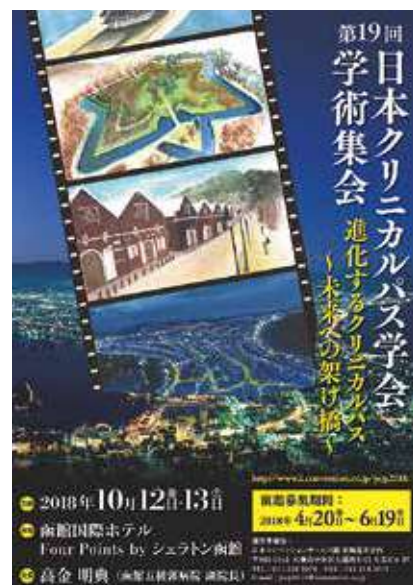
北海道新幹線が開業してから3年目をむかえました。盛岡からは約2時間10分です。函館にはミシュラン

旅行ガイドに一つ以上の星が付いている観光地が市内に20以上あります。それから老舗の美味しいイタリアンやフレンチ、和食屋、お寿司屋さんが少なからず点在しています。そして、居酒屋の活イカと生ビール（札幌直送）、牧場で食べるソフトクリームが「なまらうまいっしょ!!!」同門会のみなさまには、気軽にどんどん遊びに来て頂ければ幸いです。高金先生のダビンチ手術や2時間で終わるLADG（δ吻合）の手術見学にも大歓迎です。

教室の皆様にはこれまで以上に手術応援、研修医やスタッフへの講演会をお願いしたいと思っております。夜の担当は新婚の身ではありますが、居酒屋放浪の米澤（函館の吉田類）にお任せください。夜の街にはかなり投資済みです。間違いありません。

今後ともご指導とご支援のほどを何とぞ宜しくお願いします。我々外科スタッフの目は札幌方面ではなく、まだまだ岩手の方を見つめております。

（文責：船渡 治）



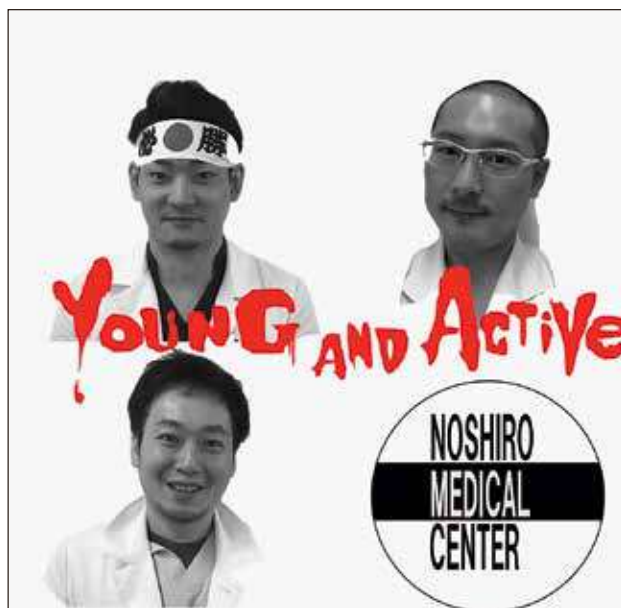
Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

当院は2018年4月に、13年の長きにわたって御尽力頂きました、大山健一先生が盛岡赤十字病院に転勤となりました。科長を加藤久仁之が拝命し、西成悠、天野怜と年齢構成が昨年4月時点で、全員30歳台と外科では関連病院、および秋田県内の病院で一番若い、3人新体制での船出となりました。

2018年の手術件数は431例、全身麻酔手術が392例と、前年と比較し増加しました。腹腔鏡手術は307例で、腹部全身麻酔手術（349例）におけるその割合は88.0%と、高い水準を維持しております。緊急手術に関しても積極的に腹腔鏡手術をおこなっており、急性虫垂炎、絞扼性イレウス、ヘルニア陥頓に関しては全例腹腔鏡下に施行しております。また大腸穿孔においても、全身状態が良好な症例に関しては腹腔鏡手術をおこない、開腹手術と比較すると術後合併症も少なく良好に経過しており、特にSSI回避のAdvantageを実感しております。肝胆膵症例は22例で新田先生、長谷川先生、片桐先生にお越しいただきました。秋田県内での対応が困難な高難度症例が3例あり、新田先生に執刀して頂き、いずれの患者様も現在元気に社会生活が送れております。

当院は進行癌が非常に多く、特に大腸癌に関してはイレウス併発症例も多く見られます。大腸癌イレウスに対して



は消化器内科の協力の下、術前ステントを留置し、減圧後に腹腔鏡下に切除をおこなっております。その有用性等に関する検討が、日本内視鏡外科学会の原著論文として掲載されました。全国学会における発表も含め、学術面でも積極的に取り組んでおります。

わずか3人の若輩者が団結して、能代山本地区の外科診療をおこなっております。若輩であること、マンパワー不足であることを理由に縮小するのではなく、若いからこそ積極的にチャレンジする攻めの姿勢を崩さずに今後も精進致します。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後とも何卒よろしくお願い致します。

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

八戸赤十字病院外科の近況を報告いたします。

平成29年度には常勤スタッフが4名と減員となっておりますが、平成30年4月からは再び5名に復活していただきました。

玉澤佳之、藤澤健太郎、御供真吾、野田宏伸の4名に加え、4月から川島到真がスタッフとして加わりました。引き続き近隣の先生方と大学医局からの応援をいただきながら業務を行っています。南部町で開業されている川守田究先生、種市病院の荒谷宗充先生より手術応援を、大学医局からは菅野将史先生と片桐弘勝先生に外来および手術応援をいただいております。派遣いただいている大学医局およ



び応援いただいている先生方に感謝申し上げます。

平成30年の全手術件数は460例であり、例年とはほぼ変わらない件数でした。例年通り胃・大腸・肝胆膵・乳腺・甲状腺・ヘルニア・救急疾患の手術・診療を大学医局の先生方

にもアドバイスをいただきながら自前で行っております。

川島は大学医局勤務時には小児外科を主に専攻していたため、成人悪性腫瘍手術の術者経験は少ないとのことでしたが、持ち前の冷静さ・謙虚さ・向上心もあり、当院赴任当初より多くの手術を経験することで赴任後早々に適応できました。年末の12月28日には第一子が誕生し、公私ともに充実しています。

2年次研修医の屋成信吾（平成29年外科学講座入局）は6月に行われた第43回外科系連合学会学術集会において、全国学会で初の発表を行いました。研修医セッションでの優秀演題賞を受賞することができました。医師としてスタートしたばかりのこの時期にこのような受賞をすることができ、外科医としての良いモチベーションになってくれ

ると思われます。今後も先生方のご指導をよろしくお願いいたします。

現在スタッフの5人が内容の濃いチーム医療を目指してそれぞれの役割を果たすことができるようになってきました。外来診療・手術・後輩の指導・研修医の指導等の日常業務の他に、病院経営・化学療法・緩和チーム・NST・ICT・褥瘡対策等の活動についても外科が院内をリードしながら行っています。また去年は肥田圭介教授に当院へお越しいただき、医療安全についてご講演いただく機会がありました。それにより、以前よりも確実に医療安全に対する意識が育ってきたことを実感しております。

本年も大学医局および同門の先生方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Kazuno Kosei Hospital

かづの厚生病院

秋田県のかづの厚生病院です。2018年は前年と変わらぬ小川、眞壁の常勤に加え、月曜日は棚橋洋太先生、佐藤 慧先生、佐藤麻生先生に、金曜日は飯島 信先生に、そして10月からは木曜日に岩谷 岳講師に診療応援いただいております。また、佐々木 章教授はじめ医局からは手術指導を賜りありがとうございます。また、各専門領域の先生方には勝手に症例相談のメールを送り付けており、ご迷惑をお掛けしております。あらためまして感謝申し上げます。2018年度の全手術数は251例（前年234例）、全身麻酔手術件数は202例（177例）、鏡視下手術は141例（113例）と増加傾向ですが、実は2018年度、看護スタッフの減少により病院の病床数を161床まで減らさなければなりませんでした。常勤の病理の先生が居らず、ゲフリールの設備もないため、検診などで発見した乳がん手術のかなりを他院にお願いしなければならぬのが歯がゆいところですが、患者さま目線で治療方針を決定しております。心掛けているのは、がん治療はじめ外科治療の均てん化です。地方においては知識のupdateにインターネットの果たす役割は大きいものがあり

ます。将来はAIが医療にも導入されることが予想されており、均てん化の一助となるのではないかと期待しております。しかし、やはり一番勉強になるのは大学の各専門領域の先生方からの生きた情報、suggestionです。今年も大学医局からの応援をいただきながら頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。



外科紹介医療機関

2018年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所			
あいずみ内科医院	相 墨 仁	028-0522	岩手県	遠野市	新穀町3-1	
青森県立中央病院	吉 田 茂 昭	030-8553	青森県	青森市	東造道2-1-1	
青森労災病院	玉 澤 直 樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地	
赤坂医院	赤 坂 隆 之	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	湯本29地割66-4	
赤坂病院	赤 坂 俊 幸	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町29-2	
秋田市立秋田総合病院	伊 藤 誠 司	010-0933	秋田県	秋田市	川元松丘町4-30	
秋田赤十字病院	小棚木 均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1	
秋田大学医学部附属病院	羽 渕 友 則	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2	
あきた乳腺クリニック	工 藤 保	010-0041	秋田県	秋田市	広面字蓮沼23-2	
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2	
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23	
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45	
ありすみ内科クリニック	有 住 純 也	029-4503	岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	西根町裏66	
アルテンハイム青山（老健）		020-0133	岩手県	盛岡市	青山2-12-33	
飯島医院	飯 島 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277	
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18	
いしい内科・糖尿病クリニック	石 井 基 嗣	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-4-20 水晶堂ビル4F	
石井内科消化器科医院	石 井 基 弘	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘23-26	
いするぎ医院	岩 動 孝	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-3-22	
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36	
岩手医大花巻温泉病院	一 戸 貞 文	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1	
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩 野 敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18	
岩手県予防医学協会（含付属診療所）	田 巻 健 治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42	
岩手県立胆沢病院	勝 又 宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61	
岩手県立一戸病院	小井田 潤 一	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1	
岩手県立磐井病院	加 藤 博 孝	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17	
岩手県立江刺病院	川 村 秀 司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23	
岩手県立大船渡病院	渕 向 透	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1	
岩手県立釜石病院	川 上 幹 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6	
岩手県立久慈病院	吉 田 徹	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番	
岩手県立千厩病院	宗 像 秀 樹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1	
岩手県立中央病院	宮 田 剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1	
岩手県立中部病院	伊 藤 達 朗	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10	
岩手県立東和病院	松 浦 和 博	028-0115	岩手県	花巻市	東和町安俵6区75-1	

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
岩手県立遠野病院	郷右近 祐 司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	佐 藤 昌 之	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	村 上 晶 彦	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶇ヶ崎1-11-26
岩手沼宮内クリニック	前 田 憲 一	028-4304	岩手県	岩手郡岩手町	子抱第5地割6-8
いわてリハビリテーションセンター	大 井 清 文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
上原小児科医院	上 原 充 郎	020-0536	岩手県	岩手郡雫石町	八卦1-16
うしお内科クリニック	牛 尾 晶	039-1111	青森県	八戸市	東白山台2-34-16
内丸病院	富 澤 勇 貴	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
おいかわ内科クリニック	及 川 寛 太	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-18-46
奥州病院	長 澤 茂	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
おおうち消化器内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
大澤脳神経・内科・歯科クリニック	大 澤 宏 之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2丁目8-3
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-3-4
おかだ外科内科クリニック	岡 田 伸 之	027-0025	岩手県	宮古市	実田2-5-10
小川原湖クリニック	工 藤 恭 司	039-2404	青森県	上北郡東北町	上北北1-34-45
おばら内科・消化器科クリニック	小 原 啓 彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
おりそ内科循環器クリニック	折 祖 清 蔵	028-6101	岩手県	二戸市	福岡字長嶺35-4
開運橋消化器内科クリニック	遠 藤 昌 樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3
かきざき胃腸科内科クリニック	柿 崎 良 輔	038-0031	青森県	青森市	三内沢部145-5
カシオペア医院	肥 田 憲 彦	028-6105	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛134-5
かづの厚生病院	吉 田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
かとうファミリークリニック	加 藤 純 司	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂74-1
金子クリニック	金 子 卓 司	028-0021	岩手県	久慈市	門前第2地割26番地
かねこ内科クリニック	金 子 能 人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-1-63
亀井整形外科クリニック	亀 井 陽 一	023-0822	岩手県	奥州市	水沢東中通り2-4-24-1
川上医院	川 上 格	028-0516	岩手県	遠野市	穀町1-27
川久保病院	田 村 茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川原田小児科医院	川原田 隆 司	027-0038	岩手県	宮古市	小山田2-7-72
がん研有明病院	佐 野 武	135-8550	東京都	江東区	有明3-10-6
菊池医院（大船渡市）	菊 池 洋	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越183-5
岸和田徳洲会病院	東 上 震 一	596-8522	大阪府	岸和田市	加守町4-27-1
北秋田市民病院	神 谷 彰	018-4221	秋田県	北秋田市	下杉字上清水沢16番29号
北上済生会病院	赤 坂 俊 英	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8

か

さ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
葛クリニック	佐々木 千恵子	020-0066	岩手県	盛岡市	上田4-20-59
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
くわた脳神経外科クリニック	桑 田 知 之	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡1丁目2-68
ケイ・ティ・メディカル		100-0005	東京都	千代田区	丸の内2-2-3
健生クリニック	飯 田 寿 徳	036-8511	青森県	弘前市	野田2-2-1
幸クリニック	山 本 幸 一	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通1-5-18
孝仁病院	西 成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
肥田胃腸科内科医院	肥 田 秀 彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
国保西根病院	滝 山 郁 雄	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国立がん研究センター中央病院	西 田 俊 朗	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立病院機構北海道がんセンター	加 藤 秀 則	003-0804	北海道	札幌市	白石区菊水4条2丁目3-54
国立病院機構盛岡病院	菊 池 喜 博	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
小坂内科消化器科クリニック	小 坂 陽 一	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
児島内科小児科医院	児 島 陽 一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ3-11-36
こずかた診療所	吉 岡 尚 文	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵エ新田5-67-1
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
小松内科胃腸科医院	小 松 良 彦	017-0803	秋田県	大館市	東台2丁目2-68
近藤病院（神奈川県）	近 藤 勉	243-0001	神奈川県	厚木市	東町3-3
菜園循環器内科医院	肥 田 敏比古	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-4-7
さが医院	嵯 峨 大 介	010-0001	秋田県	秋田市	中通5丁目1-16
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
佐藤耳鼻咽喉科医院	佐 藤 護 人	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
佐藤整形外科クリニック	佐 藤 正 義	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字江刈内7-10-1
佐藤病院（由利本荘市）	佐 藤 泰 和	015-0862	秋田県	由利本荘市	小人町117-3
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
さわやかクリニック	浮 田 昭 彦	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字江刈内10-47-2
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
三愛病院附属矢巾クリニック	藤 島 幹 彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2
三陸病院	三 浦 正 之	027-0048	岩手県	宮古市	板屋1-6-36
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
しゅういちろう内科クリニック	高 橋 秀一郎	024-0004	岩手県	北上市	村崎野17地割167番3
順天堂大学医学部附属練馬病院	児 島 邦 明	177-8521	東京都	練馬区	高野台3丁目1番10号
小豆嶋胃腸科内科クリニック（盛岡市）	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	市 川 博 雄	227-0043	神奈川県	横浜市	青葉区藤が丘2-1-1

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
市立千歳市民病院	伊 藤 昭 英	066-8550	北海道	千歳市	北光2-1-1
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
鈴木こう門科クリニック	鈴 木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
せんだい総合健診クリニック	石 垣 洋 子	980-0811	宮城県	仙台市	青葉区一番町1-9-1
総合花巻病院	後 藤 勝 也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
総合水沢病院	菊 池 淳	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
総合南東北病院（岩沼市）	松 島 忠 夫	989-2483	宮城県	岩沼市	里の杜一丁目2-5
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0611	岩手県	滝沢市	巣子1186-14
高宮消化器科内科医院	高 宮 秀 式	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田2-106-3
高山赤十字病院	清 島 満	506-8550	岐阜県	高山市	天満町3丁目11番地
滝沢市役所健康推進課		020-0692	岩手県	滝沢市	中鵜飼55
滝沢中央病院	大川原 真澄	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼笹森42番地2
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
田郷医院	田 郷 英 昭	024-0084	岩手県	北上市	さくら通り三丁目14-25
たなか乳腺・外科・内科クリニック	田 中 文 明	874-0936	大分県	別府市	中央町8-30
たにむらクリニック	谷 村 清 明	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2
ちば耳鼻咽喉科クリニック	千 葉 隆 史	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町2-4
東京共済病院	久保田 俊 郎	153-8934	東京都	目黒区	中目黒2-3-8
東京女子医科大学病院	田 邊 一 成	162-0054	東京都	新宿区	河田町8番1号
東京山手メディカルセンター	矢 野 哲	169-0073	東京都	新宿区	百人町3-22-1
東京臨海病院	小 林 滋	134-0086	東京都	江戸川区	臨海町1-4-2
等潤病院	伊 藤 雅 史	121-0075	東京都	足立区	一ツ家4-3-4
東邦大学医療センター大森病院	瓜 田 純 久	143-8541	東京都	大田区	大森西 6-11-1
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1
虎ノ門病院	大 内 尉 義	105-8470	東京都	港区	虎の門2-2-2
中館内科クリニック	中 館 一 郎	025-0038	岩手県	花巻市	不動町2丁目14
中通総合病院（秋田市）	鈴 木 敏 文	010-8577	秋田県	秋田市	南通みその町3-15
なかの消化器内科クリニック	中 野 修	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字下中島81-2

な

は

ま

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
中の橋斉藤クリニック	斉 藤 文 子	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-4-20 水晶堂ビル4F
中村歯科医院（盛岡市）	中 村 裕 子	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北2丁目10-7
南昌病院	木 村 宗 孝	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181
西松園内科医院	齊 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園三丁目22番1号
日本大学医学部附属板橋病院	徳 橋 泰 明	173-8610	東京都	板橋区	大谷口上町30の1
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
野呂外科泌尿器科医院	野 呂 一 夫	023-0052	岩手県	奥州市	水沢区搦手丁24-6
八戸赤十字病院	瀬 尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八戸市立市民病院	三 浦 一 章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
花巻市石鳥谷医療センター	似 内 郊 雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
原田内科脳神経機能クリニック	原 田 達 男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
弘前市立病院	東 野 博	036-8182	青森県	弘前市	土手町188-1
弘前大学医学部附属病院	福 田 眞 作	036-8563	青森県	弘前市	本町53
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
吹上眼科	久 保 勝 文	031-0003	青森県	八戸市	吹上二丁目10-5
藤島内科医院	藤 島 敏 智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
藤巻胃腸科内科クリニック	藤 巻 英 二	025-0016	岩手県	花巻市	高木15-16-1
ふじまる内科医院	藤 丸 潔	026-0301	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌町上町1-16
ふるだて加藤肛門外科クリニック	加 藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
平野医院	平 野 繁	020-0132	岩手県	盛岡市	西青山2-18-60
宝陽病院	後 藤 振一郎	028-3111	岩手県	花巻市	石鳥谷町新堀15-23
細井外科医院	細 井 義 行	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原1-1-2
堀江医院	堀 江 圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143
本田胃腸内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
本間内科医院	本 間 博	020-0066	岩手県	盛岡市	上田2-20-13
松井内科医院（二戸郡一戸町）	松 井 美紀夫	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字本町58
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
真山池田医院	池 田 富 好	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通3-19-32
マリオス小林内科クリニック	小 林 仁	020-0045	岩手県	盛岡市	盛岡駅西通2-9-1 マリオス11F
マルモブレストクリニック	竹 内 透	465-0024	愛知県	名古屋市	名東区本郷2丁目124-1
三郷中央総合病院	徳 弘 圭 一	341-8526	埼玉県	三郷市	中央四丁目5-1
三沢市立三沢病院	斎 藤 聡	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
三島内科医院	佐 藤 健 介	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
水沼内科循環器クリニック	水 沼 吉 美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2-11-12	
三田記念病院	矢 島 英 雄	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1	
宮城県対がん協会がん検診センター		980-0011	宮城県	仙台市	上杉青葉区5丁目7-30	
むつ総合病院	橋 爪 正	035-0071	青森県	むつ市	小川町1-2-8	
メディケアプラザ中央通りクリニック	永 井 謙 一	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通3丁目16-23	
もりあい内科クリニック	盛 合 理	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字前田96-9	
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2	
盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック	大 庭 英 樹	020-0034	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通13番8号	
もりおか往診ホームケアクリニック	木 村 幸 博	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡3-20-3	
もりおか心のクリニック	上 田 均	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目1-48	
盛岡市夜間急患診療所	和 田 利 彦	020-0884	岩手県	盛岡市	神明町3-29 盛岡保健所2F	
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
盛岡赤十字病院	松 田 壮 正	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	
盛岡つなぎ温泉病院	関 博 文	020-0055	岩手県	盛岡市	繫字尾入野64-9	
盛岡友愛病院	遠 藤 重 厚	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10	
守口医院	守 口 尚	028-0521	岩手県	遠野市	材木町2番25号	
森整形外科	森 茂 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2	
八角医院	高 橋 克 郎	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2	
八角病院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190	
やはば産婦人科	新 沼 武 成	028-3602	岩手県	紫波郡矢巾町	藤沢第1地割104-1	
山形県立新庄病院	八 戸 茂 美	996-0025	山形県	新庄市	若葉町12-55	
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31	
ゆうがおせ歯科医院	村 木 力	020-0063	岩手県	盛岡市	材木町11番17号工藤ビル	
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541	
吉田消化器科内科	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16	
吉田内科呼吸器科医院	吉 田 雅 美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第21地割79-3	
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 正 敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3	
渡辺内科医院	渡 邊 立 夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰下丸森122-3	

獲得研究費

科学研究費助成事業

1. 平成 30 ～ 31 年度 若手研究
「消化管癌の ctDNA による長期間モニタリングシステムの構築」
研究代表者：佐藤 慧
2. 平成 30 ～ 32 年度 基盤研究 (C)
「脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索」
研究代表者：石田 和茂 研究分担者：岩谷 岳, 佐々木 章, 小松 英明
3. 平成 30 ～ 32 年度 基盤研究 (C)
「高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明」
研究代表者：石垣 泰 研究分担者：佐々木 章
4. 平成 29 ～ 31 年度 基盤研究 (C)
「膵管分離法を用いた SNP array による胆道癌のゲノムコピー数解析」
研究代表者：塩井 義裕
5. 平成 29 ～ 31 年度 基盤研究 (C)
「血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発」
研究代表者：岩谷 岳
6. 平成 29 ～ 31 年度 基盤研究 (C)
「大腸癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討」
研究代表者：秋山 有史
7. 平成 29 ～ 31 年度 基盤研究 (C)
「Muse 細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築」
研究代表者：片桐 弘勝 研究分担者：西塚 哲
8. 平成 29 ～ 31 年度 基盤研究 (C)
「大量肝切除後の幹細胞補充療法」
研究代表者：高原 武志 研究分担者：佐々木 章
9. 平成 29 ～ 30 年度 若手研究 (B)
「肥満外科手術後の腸内・口腔内細菌叢の変化と肥満関連健康障害の改善機序の解明」
研究代表者：馬場 誠朗
10. 平成 28 ～ 30 年度 基盤研究 (C)
「afadin による肝細胞癌進展機構の解明」
研究代表者：及川 浩樹 研究分担者：新田 浩幸
11. 平成 28 ～ 30 年度 基盤研究 (C)
「ユビキチン-プロテアソーム系小胞体ストレス応答制御による膵島移植成績の向上」
研究代表者：伊勢 一哉 研究分担者：佐々木 章
12. 平成 28 ～ 30 年度 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
「薬剤耐性コロニーをモデルとした癌再発抑制へ繋がる化合物同定に関する研究（国際共同研究強化）」
研究代表者：西塚 哲

厚生労働科学研究費補助金

1. 平成 28 ～ 30 年度
「食欲中枢異常による難治性高度肥満度の実態調査」
研究代表者：龍野 一郎（東邦大学医療センター 佐倉病院） 研究分担者：佐々木 章

日本学術振興会

1. 平成 30 ～ 31 年度
藤田記念医学研究振興基金助成
「大腸癌 ctDNA に原発巣 heterogeneity が及ぼす影響」
研究代表者：八重樫 瑞典

その他

1. 中外製薬研究活動支援

「消化器癌患者の ctDNA モニタリングの臨床的意義に関する検討」

研究代表者：岩谷 岳

2. バイエル薬品研究活動支援

「大量肝切除における Muse 細胞の役割とその臨床応用」

研究代表者：高原 武志

3. 日本イーライリリー株式会社

「大腸癌における分子標的治療薬の適正使用を目的としたバイオマーカーの検討」

研究代表者：木村 聡元

4. 武田薬品工業株式会社

「高度肥満 NASH における減量手術後の肝線維化改善機序と臓器代謝ネットワークの解析」

研究代表者：佐々木 章

5. 大鵬薬品工業株式会社

「肥満外科手術における非アルコール性脂肪性肝炎の組織学的評価と改善機序」

研究代表者：佐々木 章

6. 圭陵会学術振興会共同研究助成

「高度侵襲肝臓手術患者における Muse 細胞とその遊走因子測定の前臨床的有用性に関する研究」

研究代表者：片桐 弘勝 研究分担者：佐々木 章

7. 圭陵会学術振興会個人研究助成

「Nrf2 異常を伴う予後不良食道癌に対する診断システム・治療法の開発」

研究代表者：佐々木 教之

英文論文

1. Akiyama Y, Sasaki A, Endo F, Nikai H, Amano S, Umemura A, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Nitta H, Otsuka K, Mizuno M, Kimura Y, Koeda K, Iwaya T. Outcomes of esophagectomy after chemotherapy with biweekly docetaxel plus cisplatin and fluorouracil for advanced esophageal cancer: A retrospective cohort analysis. **World Journal of Surgical Oncology**, 2018 ; 16 : 122.
2. Ishida K, Yamashita R, Osakabe M, Uesugi N, Yamada N, Nitta H, Fujishima F, Motoi F, Suzuki H, Shimamura H, Noda Y, Sawai T, Unno M, Sasano H, Sasaki A, Sugai T. Expression of Epithelial-Mesenchymal Transition Proteins in Pancreatic Anaplastic (Undifferentiated) Carcinoma. **Pancreas**, 2019. Jan ; 48(1) : 36-42.
3. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Otsuka K, Sasaki A. Laparoscopic left hemihepatectomy is suitable as a first step in pure laparoscopic major hepatectomy. **Annals of gastroenterological surgery**, 2018 ; 2(5).
4. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Nikai H, Sato K, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Nitta H, Otsuka K, Mizuno M, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Evaluation of the need for routine feeding jejunostomy for enteral nutrition after esophagectomy. **Journal of Thoracic Disease**, 2018 ; 10(12) : 6854-6862.
5. Fujisawa R, Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Nikai H, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Koeda K, Sasaki A. Giant gastrointestinal stromal tumor of the mediastinum associated with an esophageal hiatal hernia and chest discomfort: A case report. **Surg Case Rep**, 2018 ; 13(4) : 144.
6. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Nikai H, Sato K, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Thoracoscopic esophagectomy with total meso-esophageal excision reduces regional lymph node recurrence. **Langenbeck's Archives of Surgery**, 2018 ; 403(8) : 967-975.
7. Nakamura S, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A. Establishment of a method for calculating standard splenic volume and its use in the evaluation of functional hepatic reserve. **Biomedical Research**, 2018 ; 29(7) : 1459-1464.
8. Satake H, Tsuji A, Nakamura M, Ogawa M, Kotake T, Hatachi Y, Yasui H, Takagane A, Okita Y, Nakamura K, Onikubo T, Takeuchi M, Fujii M. Phase I study of primary treatment with 5-FU, oxaliplatin, irinotecan, levofolinate, and panitumumab combination chemotherapy in patients with advanced/recurrent colorectal cancer involving the wild-type RAS gene: the JACCRO CC-14 study. **International Journal of Clinical Oncology**, 2018 ; 23(3) : 490-496.
9. Umemura A, Suto T, Fujiwara H, Nakamura S, Endo F, Sasaki A. Retrospective case-matched study between reduced port laparoscopic rectopexy and conventional laparoscopic rectopexy for rectal prolapse. **Journal of minimal access surgery**, 2018.

10. Umemura A, Suto T, Nakamura S, Fujiwara H, Endo F, Nitta H, Takahara T, Sasaki A. Intraoperative Analgesic Regimen and Cholecystectomy: A Closer Look. **Digestive surgery**, 2018.
11. Umemura A, Suto T, Fujiwara H, Nakamura S, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Sasaki A. Laparoscopic Repair for Recurrent Bilateral Inguinal Bladder Hernia following Bilateral Transabdominal Preperitoneal Repair. **Case reports in surgery**, 2018 Dec 6 ; 2018 : 4904093. doi : 10.1155/2018/4904093.
12. Umemura A, Ishida K, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Makabe K, Sugai T, Sasaki A. An extremely rare case who underwent total remnant pancreatectomy due to recurrent pancreatic metastasis of intraductal tubulopapillary neoplasm. **Clin J Gastroenterol**, 2018. Oct 4. doi : 10.1007/s12328-018-0913-x.
13. Umemura A, Suto T, Nakamura S, Fujiwara H, Endo F, Nitta H, Takahara T, Sasaki A. Intraoperative Analgesic Regimen and Cholecystectomy: A Closer Look. **Dig Surg**, 2018 May 23 : 1. doi : 10.1159/000489828.
14. Umemura A, Suto T, Nakamura S, Fujiwara H, Endo F, Nitta H, Takahara T, Sasaki A. Comparison of Single-Incision Laparoscopic Cholecystectomy versus Needlescopic Cholecystectomy: A Single Institutional Randomized Clinical Trial. **Dig Surg**, 2019 ; 36(1) : 53-58.
15. Chiba T, Nihei S, Komatsu H, Obara M, Ishigaki Y, Sasaki A, Kudo K. Deterioration of Glycemic Control Contributes to the Prevalence of Proteinuria among Bevacizumab-Treated Cancer Patients with Type 2 Diabetes Mellitus. **Biol Pharm Bull**, 2018 ; 41(11) : 1722-1726.
16. Umemura A, Ishida K, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Makabe K, Sugai T, Sasaki A. An extremely rare case who underwent total remnant pancreatectomy due to recurrent pancreatic metastasis of intraductal tubulopapillary neoplasm. **Clin J Gastroenterol**. 2018 Oct 4. doi: 10.1007/s12328-018-0913-x. [Epub ahead of print]
17. Sato H, Ishida K, Sasaki S, Kojika M, Endo S, Inoue Y, Sasaki A. Regulating migration of esophageal stents - management using a Sengstaken-Blakemore tube: A case report and review of literature. **World J Gastroenterol**, 2018 ; 24(28) : 3192-3197.
18. Eizuka M, Kawasaki K, Toya Y, Akasaka R, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T, Sugai T. Colorectal Adenocarcinoma with an Alternative Serrated Pathway. **Case Rep Gastroenterol**, 2018 ; 12(1) : 116-124.
19. Kato Y, Kato R, Takayama M, Ikarashi D, Onoda M, Matsuura T, Kanehira M, Takata R, Baba S, Kimura T, Otsuka K, Sugimura J, Omori S, Sasaki A, Obara W. Single-stage laparoscopic surgery for bilateral organ tumors using a transumbilical approach with a zigzag incision: a report of two cases. **BMC Urol**, 2018 ; 18(1) : 28.
20. Nishijima T, Ohba K, Baba S, Kizawa T, Hosokawa K, Endo F, Yamashiro Y, Suwabe A, Sasaki A, Takahashi K, Sakurai S. Decrease of Plasma Soluble (Pro)renin Receptor by Bariatric Surgery in Patients with Obstructive Sleep Apnea and Morbid Obesity. **Metab Syndr Relat Disord**, 2018 ; 16(4) : 174-182.
21. Ishida K, Tamura A, Kato K, Uesugi N, Osakabe M, Eizuka M, Hasegawa Y, Nitta H, Otsuka K, Sasaki A, Ehara S, Sugai T. Correlation between CT morphologic appearance and histologic findings in colorectal liver metastasis after preoperative chemotherapy. **Abdom Radiol (NY)**, 2018 ; 43(11) : 2991-3000.
22. Ho CM, Wakabayashi G, Yeh CC, Hu RH, Sakaguchi T, Hasegawa Y, Takahara T, Nitta H, Sasaki A, Lee PH. Comprehensive evaluation of liver resection procedures: surgical mind development through cognitive task analysis. **J Vis Surg**, 2018 Jan 26;4:21. doi: 10.21037/jovs.2018.01.08. eCollection 2018.
23. Sugai T, Takahashi Y, Eizuka M, Sugimoto R, Fujita Y, Habano W, Otsuka K, Sasaki A, Yamamoto E, Matsumoto T, Suzuki H. Molecular profiling and genome-wide analysis based on somatic copy number alterations in advanced colorectal cancers. **Mol Carcinog**, 2018 ; 57(3) : 451-461.
24. Naitoh T, Kasama K, Seki Y, Ohta M, Oshiro T, Sasaki A, Miyazaki Y, Yamaguchi T, Hayashi H, Imoto H, Tanaka N, Unno M. Efficacy of Sleeve Gastrectomy with Duodenal-jejunal Bypass for the Treatment of Obese Severe Diabetes Patients in Japan: a Retrospective Multicenter Study. **Obes Surg**, 2018 ; 28(2) : 497-505.
25. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Chiba T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Kimura Y, Sasaki A. Investigation of operative outcomes of thoracoscopic esophagectomy after triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for advanced esophageal squamous cell carcinoma. **Surg Endosc**, 2018 ; 32(1) : 391-399.
26. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Sasaki A. Current status of laparoscopic pancreaticoduodenectomy and pancreatectomy. **Asian J Surg**, 2018 ; 41(2) : 106-114.
27. Gonai T, Toya Y, Nakamura S, Kawasaki K, Yanai S, Fujita Y, Uesugi N, Kimura T, Otsuka K, Sugai T, Matsumoto T. Gastrointestinal: Idiopathic myointimal hyperplasia of mesenteric veins. **J Gastroenterol Hepatol**. 2018 Aug 6. doi: 10.1111/jgh.14384. [Epub ahead of print]
28. Okamura R, Hida K, Yamaguchi T, Akagi T, Konishi T, Yamamoto M, Ota M, Matoba S, Bando H, Goto S, Sakai Y, Watanabe M; Japan Society of Laparoscopic Colorectal Surgery, Watanabe K, Otsuka K, et al. Local control of sphincter-preserving procedures and abdominoperineal resection for locally advanced low rectal cancer: Propensity score matched analysis. **Ann Gastroenterol Surg**, 2017 Aug 14 ; 1(3) : 199-207. doi: 10.1002/ags3.12032. [Epub ahead of print]
29. Sugai T, Eizuka M, Habano W, Fujita Y, Sato A, Sugimoto R, Otsuka K, Yamamoto E, Matsumoto T, Suzuki H. Comprehensive molecular analysis based on somatic copy number alterations in intramucosal colorectal neoplasias and early invasive colorectal cancers. **Oncotarget**, 2018 May 1 ; 9(33) : 22895-22906. doi: 10.18632/oncotarget.25112. [Epub ahead of print]

和文論文

1. 青木 毅一, 石橋 正久, 有末 篤弘, 伊藤 千絵, 川村 英伸, 杉村 好彦. 当院における再発・進行胃癌に対するラムシルマブ・パクリタキセル併用療法の使用経験. **盛岡赤十字病院紀要**. 2018; 27(1): 8-12.
2. 川村 英伸, 青木 毅一, 畠山 元, 杉村 好彦, 佐々木 章. 総特集 成人鼠径部ヘルニア 2018 Kugel 法 神髄と展望. **消化器外科**. 2018; 41(3): 302-313.
3. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 近藤 優, 佐々木 章. 腹腔鏡下結腸右半切除術 - 術中偶発症ゼロを目指して -. **手術**. 2018; 72(4): 569-578.
4. 天野 怜, 肥田 圭介, 千葉 丈広, 佐々木 章. 胃癌患者におけるサルコペニアが術後短期成績に及ぼす影響に関する研究. **岩手医学雑誌**. 2018; 70(1): 1-11.
5. Sasaki J, Kurihara H, Kotani K, Akiyama Y, Sasaki A. Spontaneous regression of cervical lymph node metastasis of lung cancer after chest X-ray. **岩手医学雑誌**. 2018; 70(1): 27-31.
6. 藤井 仁志, 佐々木 章. 胃全摘術, Rous-en-Y 法再建後に輸入脚捻転で発症した輸入脚閉塞症の 1 例. **岩手医学雑誌**. 2018; 70(1): 33-37.
7. Fujiwara H, Suto T, Nakamura S, Endo F, Kumagai I, Harada K, Ikeda K. Small Bowel Obstruction due to Paracecal Hernia on the Lateral Side of the Cecum: A Case Report. **日本外科系連合学会誌**. 2018; 43(2): 190-195.
8. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介. 腹腔鏡下脾摘出術. **消化器外科 臨時増刊号**. 2018; 41(5): 853-861.
9. 新田 浩幸, 佐々木 章. エキスパート外科医に聞いてみよう 腹腔鏡下肝切除術の進歩と安全性への取り組み. **肝臓クリニカルアップデート**. 2018; 4(1): 111-114.
10. 佐々木 教之, 下沖 収, 上杉 憲幸, 佐々木 章. 脾臓原発血管肉腫の 1 例. **岩手医学雑誌**. 2018; 70(2): 59-63.
11. 畑中 智貴, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 八重樫 瑞典, 箱崎 将規, 佐々木 章. 直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術における手術難易度予測因子の検討. **岩手医学雑誌**. 2018; 70(2): 39-48.
12. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 近藤 優, 高清水 清治, 畑中 智貴, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 佐々木 章. 腹腔鏡下 S 状結腸切除術 安全を担保した腹腔鏡下大腸癌手術の教育法と手技のポイント. **臨床外科**. 2018; 73(6): 675-682.
13. 川村 英伸, 青木 毅一, 杉村 好彦, 岩谷 岳, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 佐々木 章. Kugel 法 755 病変の手術成績と教育の展望. **日本ヘルニア学会**. 2018; 4(3): 11-18.
14. 須藤 隆之, 藤原 久貴, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 中村 聖華, 佐々木 章. 成人片側性鼠径ヘルニアに対する transabdominal preperitoneal repair (TAPP) 法におけるセルフグリップメッシュとステイブル法の前向き比較研究. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2018; 23(4): 495-503.
15. 加藤 久仁之, 大山 健一, 大塚 幸喜, 西成 悠, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 左側閉塞性大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術における術前大腸ステント留置と経肛門イレウス管留置の比較検討. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2018; 23(5): 601-607.
16. 近藤 優, 森 美樹, 石川 衛, 笹本 彰紀, 吉田 典正, 宮本 康二. 人間ドックで高アミラーゼ血症を契機に発見された進行虫垂癌の 1 例. **外科**. 2018; 80(11): 1171-1174.
17. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下結腸脾彎曲部授動に必要な解剖. **臨床外科 増刊号**. 2018; 73(11): 124-129.
18. 佐々木 章. 創刊 40 周年記念特集 内視鏡外科の進歩 脾. **消化器外科**. 2018; 41(13): 1807-1812.
19. 梅邑 晃, 秋山 有史, 岩谷 岳, 杉本 亮, 菅井 有, 千葉 丈広, 肥田 圭介, 佐々木 章. 化学放射線療法後 PET-CT 陽性を示した病理学的完全奏効食道癌の 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**. 2018; 79(11): 2246-2251.
20. 梅邑 晃, 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 石田 和之, 滝川 康裕, 佐々木 章. B 型肝炎ウイルス既感染を伴う血友病関連 C 型肝炎変患者に脳死肝移植を施行した 1 例. **移植**. 2018; 52(6): 545-550.
21. 佐々木 教之, 下沖 収, 大崎 洸, 伊瀬谷 和輝, 小原 眞. 小腸悪性リンパ腫穿孔の 1 例. **岩手県立病院医学会雑誌**. 2018; 58(2): 158-161.
22. 佐々木 教之, 下沖 収, 大崎 洸, 伊瀬谷 和輝, 小原 眞. きんぴらごぼうによる食餌性イレウスの 1 例. **岩手県立病院医学会雑誌**. 2018; 58(2): 155-157.

国際学会発表

The Second Symposium of TEAMS (Three East Asian countries Metabolic Surgery), Guangzhou, China, 2018/01/05 ~ 01/06

* Sasaki A. Indications for revision surgery after metabolic and bariatric surgery. Chairman.

The 34th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Honolulu, Hawaii, 2018/02/16 ~ 02/18

1. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Technique of Pure Laparoscopic Left Hemihepatectomy Toward the gold standard. Oral Presentation.

2. Takashimizu K, Otsuka K, Kimura T, Matsu T, Sato K, Hatanaka T, Kondo S, Hakozaiki M, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. Current status of laparoscopic surgery for colon cancer in obese patients at a single institution. Poster Presentation.
3. Katagiri H, Sasaki A. Experiences in the Medical Assistant Team at Ishinomaki Red-Cross Hospital during the super-acute phase of the Great East Japan Earthquake. Oral Presentation.
4. Fujisawa R, Akiyama Y, Iwaya T, Umemura A, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. Giant gastric gastrointestinal stromal tumor located in the left thoracic cavity secondary to an esophageal hiatal hernia. Poster Presentation.
5. Sasaki N. A case of esophageal carcinosarcoma diagnosed by mutation analysis. Poster Presentation.

Asia Pacific Metabolic and Bariatric Surgery Society Congress 2018, Tokyo, 2018/03/29 ~ 03/31

1. Nikai H, Umemura A, Baba S, Nitta H, Sasaki A. An evaluation of the relationships between the metabolic effects of laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with severe obesity and pericardial ectopic fat accumulation. Poster Presentation.
2. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Nikai H, Baba S, Umemura A, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Ishigaki Y, Sakurai S. Outcomes of preoperative weight loss in severely obese patients undergoing laparoscopic sleeve gastrectomy. Keynote Speech.
3. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Nikai H, Baba S, Umemura A, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Ishigaki Y. Current status and prospects for bariatric and metabolic surgery in Japan. Symposium.
4. Baba S, Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Nikai H, Umemura A, Kimura T, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Koeda K. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on type 2 diabetes mellitus and hepatokines without using insulin. Poster Presentation.

16th World Congress of Endoscopic Surgery 2018 (SAGES 2018), Seattle, 2018/4/11

1. Naitoh T, Kasama K, Seki Y, Ohta M, Oshiro T, Sasaki A, Miyazaki Y, Yamaguchi T, Hayashi H, Imoto H, Tanaka N, Unno M. Predictive factors for excess body weight loss after bariatric surgery in Japanese obese patients. Poster Presentation.

26th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery, London, 2018/05/30 ~ 06/01

1. Otsuka K, Kimura T, Matsuo T, Sato K, Hatanaka T, Kondo S, Yaegashi M, Sasaki A. Laparoscopic low anterior resection with two planned stapler fires method for rectal cancer. Poster Presentation.
2. Obuchi T, Konos M, Ando T, Yonezawa H, Funato O, Kobayashi M, Takagane A. APPROPRIATE TIMING OF THE TEMPORARY STOMA CLOSURE WITH RECTAL CANCER BASED ON THE USING DOSE OF THE ANTIDIARRHEAL DRUGS. Oral Presentation.
3. Kimura T, Otsuka K, Matsuo T, Sato K, Hatanaka T, Kondo S, Yaegashi M, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. PREOPERATIVE BOWEL PREPARATION FOR LAPAROSCOPIC COLORECTAL RESECTION: UTILITY OF PREOPERATIVE BOWEL PREPARATION WITH TOKAKU-JOKI-TO. Poster Presentation.

American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting, Chicago, 2018/06/01 ~ 06/05

1. Iwaya T, Endo F, Sasaki Y, Akiyama Y, Sasaki A, Masuda M, Yamada T, Tokino T, Nishizuka S. Therapeutic response monitoring using digital PCR for patient-specific circulating tumor DNA identified by an esophageal squamous cell carcinoma-specific sequencing panel. Poster Presentation.

MASCC/ISOO 2018 Annual Meeting on Supportive Care in Cancer, Vienna, Austria, 2018/06/28 ~ 06/30

1. Komatsu H, Ishida K, Kawagishi R, Matsui Y, Satou M, Sasaki A. A study of the effects of olanzapine against nausea in our department. Poster Presentation.

16th world congress of the international society for diseases of the esophagus, Vienna, Austria, 2018/09/16 ~ 09/19

1. Kobayashi M. Impact of Intraoperative Fluid Management on Postoperative Cardiopulmonary Function after Thoracic Esophagectomy: A Retrospective Cohort Study. Oral Presentation.
2. Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Nikai H, Umemura A, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Feasibility of conversion thoracoscopic esophagectomy after triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for T4 esophageal squamous cell carcinoma. Poster Presentation.
3. Endo F, Akiyama Y, Iwaya T, Nikai H, Umemura A, Baba S, Chiba T, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Mizuno M, Kimura Y, Koeda K, Sasaki A. Preoperative chemotherapy with biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for advanced esophageal squamous cell carcinoma. Poster Presentation.

IFSO 2018 (23RD WORLD CONGRESS International federation for the surgery of obesity and metabolic disorders), Dubai, 2018/09/26 ~ 09/29

1. Nikai H, Baba S, Umemura A, Kimura T, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease in severely obese Japanese patients. Poster Presentation.

2. Baba S, Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Nikai H, Kimura T, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Koeda K. Changes in serum levels of hepatokines in severely obese patients with nonalcoholic steatohepatitis or type 2 diabetes mellitus after laparoscopic sleeve gastrectomy. Poster Presentation.

The 14th Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine, Kobe, 2018/10/16 ~ 10/18

1. Ishiguro Y. The report from the Japanese local hospital along with the Pacific Ocean on the Great East Japan Earthquake (Higashi Nihon Dai-shinsai). -The Kamaishi experience. Oral Presentation.

International Annual Congress of the Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia, Kuala Lumpur, Malaysia, 2018/11/15 ~ 11/17

1. Fujisawa R, Akiyama Y, Iwaya T, Endo F, Koeda K, Sasaki A. Need for routine feeding jejunostomy for enteral nutrition after thoracoscopic esophagectomy. Oral Presentation.
2. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Baba S, Umemura A, Takahara T, Akiyama Y. Endoscopic subtotal thyroidectomy via breast approach. Poster Presentation.
3. Katagiri H, Nitta H, Sasaki A. A formulated surgical procedure and outcomes of the reduced port laparoscopic hepatic left lateral segmentectomy. Oral Presentation.

International Symposium for Commemoration of 5000 LDLTs at AMC, Seoul, Korea, 2018/11/30 ~ 12/01

1. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Sasaki A. Comparing early graft function among three different procurement procedures in living-donor liver transplantation. Poster Presentation.
2. Ando T, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Nitta H, Sasaki A. A case report of a successful treatment with liver transplant for ornithine transcarbamylase-deficient and a literature review. Poster Presentation.

国内学会発表

第 204 回日本消化器病学会東北支部例会, 仙台, 2018/02/02 ~ 02/03

1. 石黒 保直. 出血を伴う進行胃癌に対し放射線治療を行い、化学療法を継続している 1 例. 一般口演.
 2. 小林 めぐみ, 水野 大, 佐々木 章. 女性外科医の修練. 女性医師の会.
 3. 佐々木 章. NASH に対する Metabolic Surgery. ランチョンセミナー.
 4. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平. 腹腔鏡下直腸癌手術における縫合不全予防に対する当科の取り組み. 一般口演.
 5. 石橋 正久, 津嘉山雄, 有末 篤弘, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 川村 英伸, 畠山 元, 杉村 好彦. 外科的治療を行った大腸憩室出血 8 例の検討. 一般口演.
 6. 津嘉山雄, 石橋 正久, 有末 篤弘, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 川村 英伸, 畠山 元, 杉村 好彦. 術前診断に苦慮した小腸癌によるイレウスの 1 例. 一般口演.
 7. 安藤 太郎, 鴻巣 正史, 武田 大樹, 大淵 徹, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典. 化学療法投与中に広範囲腸管壊死を生じた 2 例. 一般口演.
 8. 松井 雄介, 佐藤 直夫, 阿部 薫, 中屋 勉, 川崎 雄一郎. 十二指腸潰瘍にて発症し、脾外発育型 P-NET と考えられた NET の 1 例. 一般口演.
 9. 遠藤 史隆, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 原田 一穂, 新田 浩幸, 佐々木 章. ICG 蛍光法を用いた術中胆道造影: 腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術の 1 例. 一般口演.
- * 大塚 幸喜. ランチョンセミナー 6. 司会.
- * 佐々木 章. 第 13 回専門医セミナー 脾癌診療を紐解く. 司会.
- * 高原 武志. 一般演題 脾 4. 座長.

第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 横浜, 2018/02/22 ~ 02/23

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 食道癌に対する ERAS に基づく周術期管理の導入. 一般口演.

第 35 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 札幌, 2018/02/23 ~ 02/24

1. 大塚 幸喜. ストーマ合併症. ポスター 4.

第 15 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2018/3/3

1. 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 佐々木 章. 当科における乳房部分切除術の工夫. シンポジウム.
2. 石田 和茂, 佐藤 麻生, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における HER2 検査の検討. 一般演題.

第 90 回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018/03/07 ~ 03/09

1. 石黒 保直. ヘキ地の中核病院における出血を伴う進行胃癌に対する緩和的放射線治療について. 一般口演.
- * 佐々木 章. 腹腔鏡下手術困難例にエキスパートはどう立ち向かうか. 座長.

第 54 回日本腹部救急医学会総会，東京，2018/03/08 ～ 03/09

1. 野田 宏伸，屋成 信吾，川島 到真，御供 真吾，藤澤 健太郎，玉澤 佳之．当科における胆石イレウス 2 症例の検討．一般口演．
 2. 八重樫 瑞典，高橋 真人，石岡 秀基，高橋 正統，皆川 幸洋，遠野 千尋，吉田 徹．腹腔鏡と下腹部正中小切開が有用であった両側閉鎖孔ヘルニアの 1 例．一般口演．
 3. 有末 篤弘，川村 英伸，石橋 正久，伊藤 千絵，青木 毅一，畠山 元，杉村 好彦．鼠径部ヘルニア嵌頓症例の検討．一般口演．
 4. 佐々木 秀策．絞扼性腸閉塞の診断と治療．一般口演．
- * 大塚 幸喜．Complicated appendicitis の診断と治療戦略 パネルディスカッション 4. 座長．

第 17 回日本再生医療学会総会，横浜，2018/03/21 ～ 03/23

- * 片桐 弘勝．ポスター「消化管・肝臓・膵臓 2」．座長．

第 118 回日本外科学会定期学術集会，東京，2018/04/05 ～ 04/07

1. 大塚 幸喜，木村 聡元，松尾 鉄平，佐藤 慧，畑中 智貴，近藤 優，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．手術見学による腹腔鏡手術教育．サージカルフォーラム．
 2. 秋山 有史，岩谷 岳，遠藤 史隆，二階 春香，梅邑 晃，馬場 誠朗，千葉 丈広，木村 聡元，高原 武志，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，木村 祐輔，佐々木 章．進行食道癌に対する DCF 療法後の根治手術を含めた集学的治療成績．Poster Presentation.
 3. 岩谷 岳，遠藤 史隆，秋山 有史，千葉 丈広，馬場 誠朗，梅邑 晃，二階 春香，佐藤 慧，八重樫 瑞典，川岸 涼子，松尾 鉄平，木村 聡元，高原 武志，大塚 幸喜，新田 浩幸，水野 大，肥田 圭介，西塚 哲，佐々木 章．食道癌患者における Circulating tumor DNA モニタリングシステムの検討．サージカルフォーラム．
 4. 高清水 清治，高原 武志，片桐 弘勝，菅野 将史，長谷川 康，新田 浩幸，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．十二指腸乳頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術の早期合併症の検討．一般示説．
 5. 高原 武志，新田 浩幸，長谷川 康，片桐 弘勝，菅野 将史，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．当教室での肝胆膵高難度手術の現状．サージカルフォーラム．
 6. 小林 慎，天野 総，安藤 太郎，武田 大樹，大淵 徹，鴻巣 正史，米澤 仁志，船渡 治，高金 明典．敗血症における DIC 治療薬の基礎疾患別効果の検討．一般口演．
 7. 大淵 徹，武田 大樹，鴻巣 正史，天野 総，安藤 太郎，米澤 仁志，船渡 治，小林 慎，高金 明典．腹腔鏡下直腸切除術に併施した一時的人工肛門の至適閉鎖時期に関する検討．一般口演．
 8. 梅邑 晃，須藤 隆之，藤原 久貴，遠藤 史隆，中村 聖華，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，高原 武志，木村 聡元，木村 祐輔，肥田 圭介，千葉 丈広，二階 春香，佐々木 章．恥骨上腹壁癰瘍ヘルニアに対する腹腔鏡下腹壁癰瘍ヘルニア修復術の臨床成績．一般口演．
 9. 長谷川 康，新田 浩幸，高原 武志，片桐 弘勝，菅野 将史，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章．客観的データに基づく 腹腔鏡下肝切除の 難易度予測モデル．特別企画．
 10. 木村 聡元，大塚 幸喜，松尾 鉄平，佐藤 慧，畑中 智貴，近藤 優，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．局所進行直腸癌に対する術前化学療法法の検討．一般口演．
 11. 松尾 鉄平，大塚 幸喜，木村 聡元，佐藤 慧，畑中 智貴，近藤 優，八重樫 瑞典，藤井 仁，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．当院における潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下手術の検討．一般示説．
 12. 天野 怜，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，菅野 将史，片桐 弘勝，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．肝外胆管原発神経内分泌腫瘍 G1/G2 症例の検討．一般示説．
 13. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A. Technique of pure laparoscopic hemihepatectomy Procedure improvement after 53 cases. ワークショップ．
 14. 二階 春香，馬場 誠朗，梅邑 晃，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章．高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除後の腎機能の検討．一般口演．
 15. 川村 英伸，杉村 好彦，畠山 元，青木 毅一，伊藤 千絵，有末 篤弘，石橋 正久．腹腔鏡下にヘルニア門を固定できなかった潜在性内鼠径ヘルニアに対し TAPP を行った症例．サージカルフォーラム．
 16. 武田 大樹，船渡 治，天野 総，安藤 太郎，大淵 徹，鴻巣 正史，米澤 仁志，小林 慎，高金 明典．開腹手術と比較した完全腹腔鏡下肝切除の有用性．一般示説．
 17. 畑中 智貴，大塚 幸喜，木村 聡元，松尾 鉄平，佐藤 慧，近藤 優，八重樫 瑞典，箱崎 将規，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．腹腔鏡下低位前方切除術における難易度予測因子の検討．サージカルフォーラム．
 18. 馬場 誠朗，佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，三條克巳，木村 聡元，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，肥田 圭介，水野 大，大塚 幸太郎．病的肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の精神的影響の評価．一般口演．
- * 佐々木 章．食道 - 鏡視下手術 - I. 司会．

第 26 回日本乳癌学会学術総会，京都，2018/05/16 ～ 05/18

1. 小松 英明，石田 和茂，川岸 涼子，松井 雄介，佐藤 麻生，刑部 光正，上杉 憲幸，石田 和之，菅井 有，佐々木 章．当科における 75 歳以上の高齢者乳癌に対する治療成績の検討．一般示説．
2. 安藤 太郎，天野 総，武田 大樹，大淵 徹，鴻巣 正史，米澤 仁志，船渡 治，小林 慎，高金 明典，早川 善郎．化学療法抵抗性の BRCA1 遺伝子変異を有する乳癌に対しカルボプラチン投与にて著効を認めた 1 例．一般示説．

3. 大淵 徹, 米澤 仁志, 安藤 太郎, 早川 善郎, 高金 明典. Luminal A/B 乳癌における Standardized uptake value と臨床病理学的因子に関する検討. 一般口演.
4. 佐藤 麻生, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 菅井 有, 佐々木 章. 脊椎照射および Bevacizumab 投与後に直腸穿孔を生じた進行乳癌の 1 例. 一般口演.
5. 石田 和茂, 小松 英明, 佐藤 麻生, 松井 雄介, 川岸 涼子, 菅井 有, 佐々木 章. 進行再発乳癌における一次内分泌治療感受性と二次内分泌治療感受性の検討. 一般示説.
6. 松井 雄介, 佐藤 直夫, 阿部 薫, 中屋 勉, 川崎 雄一郎, 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子. 両側乳癌と肺癌の同時性重複癌の 1 例. 一般口演.

第 55 回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018/05/30 ~ 06/01

1. 小林 めぐみ, 水野 大. 当院における心疾患合併新生児外科手術症例の検討. 要望演題.

第 30 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜, 2018/06/07 ~ 06/09

1. Hasegawa Y, H Nitta, T Takahara, H Katagiri, S Kanno, A Umemura, A Sasaki. Knack of laparoscopic liver parenchymal transection according to extent of hepatectomy. ビデオシンポジウム.
 2. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Makabe K, Sasaki A. Our current strategy for biliary reconstruction in living-donor liver transplantation. Poster Presentation.
 3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 佐々木 章. The incidence of liver abscesses after TAE for the hepatic artery in patients with postpancreatectomy hemorrhages or pseudoaneurysms. Poster Presentation.
 4. 新田浩幸. 腹腔鏡下肝切除術実施施設での開腹手術→腹腔鏡下手術から学んだテクニック～. ランチョンセミナー.
 5. Nitta H. Surgical results for totally laparoscopic donor hepatectomy. 一般口演.
 6. 新田浩幸, 再肝切除を意識した腹腔鏡下肝切除手技の工夫. ランチョンセミナー.
- * 新田浩幸. Poster81. 座長.
- * Takahara T. U-40 Oral 6 Liver 3. 座長.

日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018/06/08 ~ 06/10

1. 石黒 保直. 超音波の生物作用—いっしょに考えよう実験計画. シンポジウム基礎 3.

第 36 回日本肥満症治療学会学術集会, 東京都, 2018/06/15 ~ 06/16

1. 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 非アルコール性脂肪性肝炎に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果. 一般口演.

第 43 回日本外科系連合学会学術集会, 東京都, 2018/06/21 ~ 06/23

1. 川上 亜紀子, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 梅邑 晃, 遠藤 史隆, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. ポートを減らすか、細径か、単孔か? 適切な reduced port surgery を目指して. 一般口演.
2. 箱崎 将規. 腹腔鏡下尿管摘除術を行った尿管管嚢胞の 2 例. 一般口演.
3. 屋成 信吾, 藤澤 健太郎, 川島 到真, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 複数臓器浸潤をきたした虫垂粘液癌の 1 例. 一般口演.

第 72 回日本食道学会学術集会, 宇都宮, 2018/06/28 ~ 06/29

1. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 秋山 有史, 梅邑 晃, 二階 春香, 千葉 丈広, 馬場 誠朗, 佐藤 慧, 肥田 圭介, 佐々木 章. 遺伝子変異情報を用いた効率的な食道扁平上皮癌診療システムの開発. 一般口演.
2. 秋山 有史. 進行食道癌に対する biweekly DCF 療法後の手術の安全性と治療成績. 一般示説.
3. 小林 慎, 天野 総. 胸部食道癌根治術において術中補液量の違いは術後にどんな影響を与えるのか?. 一般口演.

第 16 回日本ヘルニア学会学術集会, 札幌, 2018/06/29 ~ 06/30

1. 有末 篤弘, 川村 英伸, 佐藤 馨, 石橋 正久, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 畠山 元, 杉村 好彦. 当院を受診した鼠径部ヘルニア嵌頓の治療方針. 一般口演.
2. 武田 大樹, 大淵 徹, 天野 総, 安藤 太郎, 鴻巣 正史, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典. 慢性疼痛に対し腹腔鏡下メッシュ除去が有用であった 1 例. パネルディスカッション.
3. 大淵 徹, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 総, 鴻巣 正史, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 水野 大. 若年者鼠径ヘルニアに対する SILPEC 法の手術成績と包括的尺度による術後 QOL 評価. ビデオシンポジウム.
4. 馬場 誠朗, 富澤 勇貴, 岩谷 岳, 二階 春香, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における鼠径ヘルニアに対する TEP の短期治療成績. 一般口演.
5. 川村 英伸, 青木 毅一, 伊藤 千絵, 有末 篤弘, 石橋 正久, 佐藤 馨, 杉村 好彦. Kugel 法の教育と展望 -World guideline を踏まえて-. シンポジウム.
6. 石橋 正久, 川村 英伸, 佐藤 馨, 有末 篤弘, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 畠山 元, 杉村 好彦. IPOM と IPOM plus、どちらが治療法として優れているのか?. 一般口演.

第 205 回消化器病学会 東北支部例会, 仙台, 2018/7/6

1. 二階 春香, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 女性消化器外科医のキャリアアップを考える. パネルディスカッション.

第 73 回日本消化器外科学会総会，鹿児島，2018/07/11 ～ 07/13

1. 大塚 幸喜，木村 聡元，松尾 鉄平，佐藤 慧，畑中 智貴，近藤 優，秋山 有史，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．Laparoscopic lateral lymph node dissection for patients with clinical lateral lymph node metastasis. 一般示説．
 2. 二階 春香，馬場 誠朗，梅邑 晃，木村 聡元，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，佐々木 章．腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における 2 型糖尿病寛解の成績と術前予測因子．一般口演．
 3. 片桐 弘勝，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，菅野 将史，佐々木 章．80 歳以上の超高齢患者に対する腹腔鏡下肝切除術の検討．一般口演．
 4. 加藤 久仁之，大山 健一，大塚 幸喜，西成 悠，佐々木 章．Internal Organ Retractor を用いた大腸癌に対する reduced port surgery とした腹腔鏡補助下大腸切除術．ワークショップ．
 5. 天野 怜，秋山 有史，岩谷 岳，二階 春香，梅邑 晃，馬場 誠朗，千葉 丈広，肥田 圭介，木村 祐輔，佐々木 章．食道癌に対する周術期多職種サポーターチーム介入の効果．デジタルポスター．
 6. 大淵 徹，鴻巣 正史，天野 総，安藤 太郎，武田 大樹，米澤 仁志，船渡 治，小林 慎，高金 明典．人工肛門関連合併症を回避するため手術手技の工夫．一般口演．
 7. 大塚 幸喜．私がこだわる腹腔鏡下横行結腸切除 ～縫合不全ゼロを目指した再建術の工夫～．ランチョンセミナー．
 8. 八重樫 瑞典，大塚 幸喜，木村 聡元，松尾 鉄平，秋山 有史，岩谷 岳，木村 祐輔，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．To evaluate renal function after a loop ileostomy and colostomy for colorectal cancer. 一般口演．
 9. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A. Effective treatment for bleeding from the hepatic vein during laparoscopic liver resection. ビデオシンポジウム．
 10. 高清水 清治，高原 武志，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章．十二指腸乳頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術の短期成績および長期成績の検討．一般口演．
 11. 高原 武志，新田 浩幸，長谷川 康，片桐 弘勝，菅野 将司，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章．当科での肝臓同時切除の治療成績と現在の方針 ～術式別での膵液漏の検討から～．一般口演．
 12. 松尾 鉄平，大塚 幸喜，木村 聡元，佐藤 慧，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．直腸癌に対する術式選択の際の永久人工肛門造設の適応についての検討．一般示説．
 13. 秋山 有史．T4 食道癌に対して DCF 後に胸腔鏡下食道切除術を施行した conversion surgery 症例の治療成績．一般口演．
 14. 木村 聡元，大塚 幸喜，松尾 鉄平，佐藤 慧，畑中 智貴，近藤 優，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．Current situation of laparoscopic surgery for transverse colon cancer in our department. 要望演題ビデオ．
 15. 新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，片桐 弘勝，菅野 将史，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章．ICG 蛍光イメージングを用いた腹腔鏡下ドナー肝切除術．要望演題ビデオ．
 16. 畑中 智貴，大塚 幸喜，木村 聡元，佐藤 慧，近藤 優，松尾 鉄平，新田 浩幸，岩谷 岳，肥田 圭介，佐々木 章．直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術成績に与える骨盤内解剖学的因子に関する検討．デジタルポスター．
- * 佐々木 章．ビデオシンポジウム 3 肥満手術のポイントと工夫．司会．
- * 新田 浩幸．デジタルポスター 326 消化器全般：教育・トレーニング 2. 座長．

7th Reduced Port Surgery Forum，札幌，2018/08/03 ～ 08/04

1. 片桐 弘勝，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，菅野 将史，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章．当科における Reduced Port Surgery による腹腔鏡下肝外側区域切除術の定型化手技と治療成績．ワークショップ．

第 26 回日本外科学会生涯教育セミナー（東北地区），仙台，2018/9/15

1. 大塚 幸喜，木村 聡元，松尾 鉄平，佐々木 章．腹腔鏡下直腸癌手術の周術期における診断と対応 ―縫合不全対策―．講演．

第 23 回 PEG・在宅医療学会学術集会，福岡，2018/9/15

1. 畠山 元．進行認知症患者に対する PEG 依頼に対しどう対応すべきか？－急性期一般病院の現状－．一般口演．

第 77 回日本癌学会学術総会，大阪，2018/09/27 ～ 09/29

1. 八重樫 瑞典，岩谷 岳，佐藤 慧，遠藤 史隆，西塚 哲．The effect of primary tumor heterogeneity on circulating tumor DNA detection in colorectal cancer patients. 一般示説．
2. 佐々木 教之，岩谷 岳，遠藤 史隆，鴻巣 正史，秋山 有史，佐々木 泰史，時野 隆至，西塚 哲．食道癌肉腫の遺伝子変異解析 (Exome sequence analysis of carcinomatous and sarcomatous elements of an esophageal carcinosarcoma). 一般口演．
3. Takeshi Iwaya, Fumitaka Endo, Yasushi Sasaki, Mizunori Yaegashi, Kei Sato, Noriyuki Sasaki, Yuji Akiyama, Akira Sasaki, Mari Masuda, Takashi Tokino, Satoshi Nishizuka. Patient-specific circulating tumor DNA monitoring using digital PCR in esophageal squamous cell cancer patients.. 一般口演．

第 54 回日本移植学会総会，東京，2018/10/03 ～ 10/05

1. 高原 武志，新田 浩幸，長谷川 康，片桐 弘勝，菅野 将司，木村 聡元，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，水野 大，佐々木 章．腎障害を併発している症例に対する肝移植．シンポジウム．
- * 高原 武志．肝移植ドナー．座長．

第 39 回日本肥満学会，神戸，2018/10/07 ～ 10/08

1. 佐々木 章．肥満症治療における肥満外科治療の進歩．シンポジウム．

第 19 回日本クリニカルパス学会, 函館, 2018/10/12 ~ 10/13

1. 沢内 節子, 須藤 隆之. 当院における胃切除パスの食事スケジュールの見直し. 一般口演.

第 56 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2018/10/18 ~ 10/20

1. 高金 明典, 小寺 泰弘, 吉田 和弘, 東風 貢, 市川 度, 掛地 吉弘, 佐野 武, 石黒 敦, 深井 康幸, 柴田 勇, 武者 信行, 出口 智宙, 木村 泰生, 竹内 正弘, 藤井 雅志. Stage III 胃癌における術後補助治療 S-1+Docetaxel 療法と S-1 単独療法の第 III 相試験. 一般口演.
2. 小松 英明. 長期生存が得られている遠隔転移を来した悪性葉状腫瘍の 1 例. 一般示説.

第 51 回日本甲状腺外科学会学術集会, 横浜, 2018/10/25 ~ 10/26

1. 小林 慎. レンパチニブ投与で切除可能となった浸潤性頸部転移リンパ節の病理組織学的な薬剤効果の検証. 一般口演.

第 26 回日本消化器関連学会週間 (JDDW), 神戸, 2018/11/01 ~ 11/04

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 二階 春香, 梅邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 水野 大. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における術前患者用ファイル活用の有用性. 一般示説.
 2. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 千葉 文広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対する腹腔鏡下食道切除術の定型化と短期治療成績. Poster Presentation.
 3. 近藤 優, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐藤 慧, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 肛門周囲パジェット病の 3 症例. 一般口演.
 4. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 天野 怜, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 前期・後期高齢者に対する腹腔鏡下肝切除術の検討と意義. ワークショップ.
 5. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将司, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当科での PNET に対する治療成績 ~ 腹腔鏡下肝切除から生体肝移植まで ~. 一般示説.
 6. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Sasaki A. Safely extending the indications of laparoscopic major hepatectomy: When and which procedure should we start?. シンポジウム.
 7. 天野 怜, 新田 浩幸, 高原 武志. 胆嚢悪性リンパ腫 (濾胞性リンパ腫: follicular lymphoma) の 1 例. 一般口演.
- * 新田 浩幸. デジタルポスターセッション 112 (消化器外科学会) 肝臓 13. 座長.

第 73 回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2018/11/09 ~ 11/10

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 佐藤 慧, 畑中 智貴. 腹腔鏡手術 - 電気メス vs 超音波凝固切開装置 - 腹腔鏡下大腸手術に対する超音波凝固切開装置の有用性. ディベートセッション.
 2. 高清水 清治, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 近藤 優, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 畑中 智貴, 八重樫 瑞典, 箱崎 将規, 佐々木 章. 肝膿瘍を合併した胃癌、S 状結腸癌の 1 例. 一般示説.
 3. 箱崎 将規. バリウムの貯留による大腸穿孔の 2 例. 一般口演.
 4. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平. 85 歳以上の超高齢者における結腸癌手術症例の検討. 要望演題.
 5. 近藤 優, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 有吉 佑, 佐藤 慧, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 佐々木 章. 下部消化管膀胱瘻に対し腹腔鏡手術を施行した 6 例. 一般口演.
- * 大塚 幸喜. 要望演題 6 腹腔鏡下手術における適応の拡大と工夫. 座長.

第 46 回日本救急医学会総会・学術集会, 横浜, 2018/11/19 ~ 11/21

1. 小林 慎, 平山 傑. 血中アンチトロンビン活性値が播種性血管内凝固症候群に対する治療薬の効果におよぼす影響の検討. 一般口演.

第 80 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2018/11/22 ~ 11/24

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 二階 春香, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 千葉 文広, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における腸内細菌叢の変化. ワークショップ.
 2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平. 腹腔鏡下大腸癌手術に対する桃核承気湯を用いた術前処置. スポンサーシンポジウム.
 3. 藤澤 良介, 大淵 徹, 畑中 智貴, 川岸 涼子, 武田 大樹, 鴻巣 正史, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典. 腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術に対する至適麻酔法の検討. 一般口演.
 4. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下脾切除術における出血へのトラブルシューティング. パネルディスカッション.
 5. 畑中 智貴, 武田 大樹, 大淵 徹, 川岸 涼子, 鴻巣 正史, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典. 虫垂炎に対する待機的 TULAA の有用性の検討 (Best Poster Award 受賞). 一般示説.
 6. 藤澤 健太郎, 屋成 信吾, 川島 到真, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 術前診断が可能であり、複数臓器浸潤を認めた虫垂粘液嚢胞腺癌の 1 例. 一般口演.
 7. 野田 宏伸, 屋成 信吾, 川島 到真, 御供 真吾, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之. 陰茎転移をきたした直腸癌の 1 例. 一般口演.
- * 佐々木 章. ワークショップ 肥満に対する外科治療の最前線. 司会.
- * 新田 浩幸. 大腸癌肝転移 conversion surgery の成績: 安全性と予後の評価. 座長.

第 32 回日本泌尿器科内視鏡学会総会, 仙台, 2018/11/27 ~ 11/28

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 佐々木 章. 直腸癌手術における神経温存とリンパ節郭清手技. 骨盤外科機能温存とリンパ節郭清の極意.

第31 回日本外科感染症学会総会学術集会, 大阪, 2018/11/28 ~ 11/29

1. 有末 篤弘, 工藤 晋, 石橋 正久, 高橋 正統, 大山 健一, 青木 毅一, 畠山 元, 杉村 好彦. 単王摘出術施行時の起因菌の検討. 一般口演.

第31 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018/12/06 ~ 12/08

1. 西成 悠, 加藤 久仁之, 天野 怜, 大山 健一, 佐々木 章. 当院における腹腔鏡下幽門側胃切除に対する Reduced Port Surgery の導入と短期成績の検討. デジタルポスター.
2. 藤澤 健太郎, 屋成 信吾, 川島 到真, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 腹腔鏡下回盲部切除術における当科での教育の指標点と標準化. 一般口演.
3. 小林 めぐみ, 水野 大, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 小児外鼠径ヘルニア再発に対する腹腔鏡下手術の有用性について. 一般口演.
4. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 水野 大. 内視鏡下甲状腺手術における適正な診療報酬改定に向けて. シンポジウム.
5. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 富澤 勇貴, 二階 春香, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 肥田 圭介, 佐々木 章. 鼠径ヘルニアに対する TEP の手術手技の工夫. 一般口演.
6. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 佐藤 慧, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 大腸癌に対する腹腔鏡手術教育の実際と展望. シンポジウム.
7. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における ICG 蛍光イメージングを用いた胆管切離～術中胆道造影は省略できるか～. 一般口演.
8. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 近藤 優, 佐藤 慧, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下左側大腸癌手術における persistent descending mesocolon の検討. 一般口演.
9. 武田 大樹, 船渡 治, 畑中 智貴, 大淵 徹, 鴻巣 正史, 米澤 仁志, 高金 明典. 完全腹腔鏡下肝切除の適応拡大の可能性. 一般口演.
10. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 長谷川 康, 高原 武志, 佐々木 章. 大腸癌に対する reduced port surgery の scoring system. 一般口演.
11. 早野 恵, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 梅邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 腸回転異常症を伴った多発結腸癌に対して腹腔鏡補助下半結腸切除術を施行した 1 例. 一般口演.
12. 箱崎 将規, 石黒 保直, 佐藤 一. 当院での腹腔鏡下大腸癌切除術の取り組みと治療成績. 一般口演.
13. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 水野 大. 糖尿病以外の肥満関連健康障害に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果. シンポジウム.
14. 大塚 幸喜. 右側結腸癌に対する腹腔鏡手術の基本～たかが右側結腸、されど右側結腸～. ランチョンセミナー.
15. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 佐藤 慧, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 技術認定医取得後に求められる手技 - 局所再発をさせないための Lap TME -. 特別企画ビデオ.
16. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除適応の変遷 10 年間の推移. パネルディスカッション.
17. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 藤井 仁志, 佐藤 慧, 八重樫 瑞典, 有吉 佑, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡下大腸切除術における術前減量プログラムの取り組み. 一般口演.
18. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 有吉 佑, 近藤 優, 藤井 仁志, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 当教室における下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の現状. ワークショップ.
19. 二階 春香, 秋山 有史, 佐藤 慧, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 高度進行食道癌患者に対する腹腔鏡下胃瘻造設術の工夫. 一般口演.
20. 川村 英伸. 腹壁癰痕ヘルニアの術式としての IPOM と IPOM-plus どちらが有用か?. 一般口演.
21. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐藤 慧, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 膜を意識した腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術手技と治療成績. 一般口演.
22. 大塚 幸喜. ワークショップ 26 進行脾彎曲部癌をどう攻めるか?. ワークショップ 26.
23. 佐藤 慧, 秋山 有史, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 千葉 丈広, 木村 聡元, 高原 武志, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下噴門側胃切除の再建法～ Side-Overlap 法～. 一般口演.
24. 近藤 優, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 有吉 佑, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 水野 大, 佐々木 章. 低位前方切除術後縫合不全に対し施行した腹腔鏡手術の検討. 一般口演.
25. 有吉 佑, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 近藤 優, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 吻合部間の瘻孔に対し腹腔鏡で治療し得たクローン病の 1 例. 一般示説.
26. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将司, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 再肝切除における腹腔鏡下肝切除の位置づけ. シンポジウム.
27. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. Difficulty Score に基づいた修練医による腹腔鏡下肝切除術の導入における検討. 一般口演.
28. 大山 健一, 加藤 久仁之, 西成 悠, 石橋 正久, 有末 篤弘, 高橋 正統, 青木 毅一, 杉村 好彦. 絞扼性イレウスに対する腹腔鏡下手術の有用性に関する検討. 一般口演.

* 新田 浩幸. 一般演題 92 肝臓 再肝切除 2. 司会.

講演会・研究会・セミナー

第 46 回腹腔鏡下大腸切除講習会, 川崎, 2018/1/13

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 S 状結腸切除術の実際の手技. 講演.

函館五稜郭病院 研修医 モーニングレクチャー, 函館, 2018/1/20

1. 佐々木 章. 日本における肥満・代謝改善手術の現状と展望. 特別講演.

第 2 回リキッドバイオプシー研究会, 東京, 2018/1/20

1. 岩谷 岳, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 佐々木 泰史, 時野 隆至, 増田 万里, 八重樫 瑞典, 川岸 涼子, 松尾 鉄平, 千葉 丈広, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 梅 邑 晃, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 水野 大, 肥田 圭介, 西塚 哲, 佐々木 章. 消化器癌における Circulating tumor DNA を用いたモニタリング. ワークショップ.

第 52 回県北外科集談会, 八戸, 2018/1/26

1. 小川 雅彰. 減量手術を施行した腹膜偽粘液腫の 2 例. 一般口演.

Meet the Expert in IWATE, 盛岡, 2018/2/3

- * 石田 和茂. 当院におけるエリプリンの使用経験. 講演.

I-O seminar for Gastric Cancer in IWATE, 盛岡, 2018/2/9

1. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 棚橋 洋太, 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 佐々木 章. 当院におけるオブジーボの使用経験. 一般口演.

第 1 回岐阜内視鏡外科手術ビデオカンファランス, 岐阜, 2018/2/10

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかに上手になるか、いかに上手にするか. 講演.

尾張肥満外科治療セミナー, 春日井, 2018/2/13

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対する外科治療 ～多職種連携による安全な導入を目指して～. 特別講演.

南大阪手術手技検討会, 大阪, 2018/2/16

1. 大塚 幸喜. S 状結腸癌、直腸癌に対する腹腔鏡手術の基本手技 - 技術認定医試験合格の秘訣 -. 講演.

第 21 回東北家族性腫瘍研究会学術集会, 仙台, 2018/2/17

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平. 化学療法が奏功した家族性大腸腺腫症術後デスマイド腫瘍の一例. 一般口演.
- * 小松 英明. 一般演題. 座長.

再発乳がん Meet The Experts in IWATE, 盛岡, 2018/2/23

- * 小松 英明. 「Off Target を考慮したエリプリンの臨床的有用性」近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 准教授 鶴谷純司 先生. 座長.

第 17 回肝移植フォーラム, 東京, 2018/2/24

- * 高原 武志. 一般演題. 座長.

岩手ストーマ研究会, 盛岡, 2018/3/3

1. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 近藤 優, 佐藤 慧, 清水 清治, 畑中 智貴, 箱崎 将規, 佐々木 章. 大腸癌における一時的人工肛門造設後の腎機能障害. 一般口演.

第 27 回いわて乳腺疾患フォーラム, 盛岡, 2018/3/10

1. 石田 和茂. 診断に難渋した 1 例. 一般口演.

第 45 回北海道食道癌研究会, 札幌, 2018/3/10

1. 小林 慎, 天野 総. 固有食道動脈からの術後出血でショックとなり緊急再開胸を要した 1 例. 一般口演.

第 4 回 ISR シンポジウム, 東京, 2018/3/24

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下 ISR. 講演.

外科分子細胞治療研究会, 東京, 2018/4/6

1. 岩谷 岳. 食道扁平上皮癌診療における血漿中循環腫瘍 DNA モニタリングシステムの開発. 抄録掲載のみ.

久慈大腸癌講演会, 久慈, 2018/4/17

1. 木村 聡元. 進行・再発大腸癌の化学療法. 講演.

北東北大腸癌化学療法セミナー, 盛岡, 2018/4/21

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平. 当院における mCRC の治療. 一般口演.

リリーインターネット講演会, 盛岡, 2018/4/25

1. 木村 聡元. 進行・再発大腸癌 化学療法のコツ. 講演.

第 72 回手術手技研究会, 徳島, 2018/05/11 ~ 05/12

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 ~治療成績向上を目指したコツとピットフォール~. イブニングセミナー.
2. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下ドナー肝切除術における ICG 蛍光イメージングを用いた胆管同定の有用性. 一般口演.
3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 佐々木 章. Reduced Port Surgery(RPS)での腹腔鏡下肝外側区域切除術の定型化. 一般口演.

第 7 回 E-LAP セミナー, 川崎, 2018/5/19

1. 大塚 幸喜. S 状結腸癌、直腸癌に対する腹腔鏡手術の基本手技 - 技術認定医試験合格の秘訣 -. 講演.

第 26 回肝臓内視鏡外科ハンズオンセミナー, 八王子, 2018/05/19 ~ 05/20

1. 長谷川 康. THUNDERBEAT と 腹腔鏡下肝切除術. 講演.

第 36 回日本肝移植研究会, 東京, 2018/05/25 ~ 05/26

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将司, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. マージナルレシピエントに対する生体肝移植とマージナルドナーでの脳死肝移植の成績. パネルディスカッション.

第 29 回内視鏡外科フォーラム in 秋田, 秋田, 2018/5/26

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 秋山 有史, 高原 武志, 佐々木 章. Larry 孔ヘルニアに対して腹腔鏡下根治術を施行した一幼児例. 一般口演.
 2. 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 富澤 勇貴, 二階 春香, 佐藤 慧, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 秋山 有史, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔内観察を併用する Laparoscopic totally extraperitoneal repair の有用性. 一般口演.
 3. 小林 めぐみ, 水野 大. Larry 孔ヘルニアに対して腹腔鏡下根治術を施行した一幼児例. 一般口演.
 4. 近藤 優, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 有吉 佑, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 直腸癌術後縫合不全に対する腹腔鏡手術の検討. 一般口演.
 5. 石橋 正久, 佐藤 馨, 有末 篤弘, 伊藤 千絵, 青木 毅一, 川村 英伸, 畠山 元, 杉村 好彦. 急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績の検討. 一般口演.
- * 杉村 好彦. 要望 一般演題 肝臓 胆嚢. 座長.

八戸外科集談会, 八戸, 2018/6/1

1. 藤澤 健太郎. 安全な腹腔鏡下直腸切除における LCS 使用の工夫と標準化. 一般口演.

岩手県病院薬剤師会定例学習会, 盛岡, 2018/6/2

1. 小松 英明. 当科における乳癌の治療戦略. 講演.

第 2 回みちのく乳房再建研究会, 盛岡, 2018/6/9

- * 小松 英明. 一般演題. 座長.

岩手県北外科集談会, 久慈, 2018/6/14

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下直腸癌手術の適応拡大 一集学的治療と側方郭清手技一. 講演.

第 4 回北東北肛門疾患懇話会, 盛岡, 2018/6/17

1. 石橋 正久. 間質性肺炎の治療中に発症したフルニエ症候群の 1 例. 一般口演.

MORIOKA Pharmacist Breast Cancer Seminar, 盛岡, 2018/6/19

1. 小松 英明. 外来で行う乳癌薬物療法について. 講演.

第 175 回東北外科集談会, 仙台, 2018/6/23

1. 千葉 丈広. 「技術認定医取得までの変遷、そして今」~技術認定医としての役割. ランチョンセミナー.
 2. 佐藤 麻生, 小松 英明, 松井 雄介, 川岸 涼子, 石田 和茂, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章. 切除不能であった局所進行乳癌に対し、化学療法が奏功し切除しえた 1 例. 一般口演.
 3. 有吉 佑, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 近藤 優, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 大腸穿孔をきたした劇症型アメーバ性大腸炎の 1 例. 一般口演.
 4. 天野 怜, 加藤 久仁之, 西成 悠. 当院の小腸イレウスに対する緊急腹腔鏡手術の検討. 一般口演.
 5. 加藤 久仁之. 技術認定医取得からの変遷. ランチョンセミナー.
 6. 大崎 洸. 完全房室中隔欠損、両大血管右室起始、混合型総肺静脈還流異常に対する 2 心室修復術の経験. 一般口演.
 7. 大崎 洸. 左肺動脈欠損を伴ったファロー四徴症に対し段階的修復術を施行した 1 例. 一般口演.
- * 杉村 好彦. 技術認定医取得までの変遷、そして今. 座長.

日本肝胆膵外科学会 地域教育セミナー東北, 仙台, 2018/6/23

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 佐々木 章. 臍頭十二指腸切除で肝胆膵高度技能医を獲得するためのコツとピットホール 肝十二指腸間膜郭清. セミナー.
- * 高原 武志. 肝十二指腸間膜郭清. 座長.

岩手県乳がん Expert Seminar, 盛岡, 2018/6/27

1. 石田 和茂. 当科における Pertuzumab の治療成績. 講演.

秋田県肥満手術 多職種連携セミナー, 秋田, 2018/6/28

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病外科手術におけるチームビルディングのコツ. 特別講演.

第 12 回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会, 札幌, 2018/6/28

1. 川村 英伸, 中屋 勉, 川崎 雄一郎, 松井 雄介, 青木 毅一, 杉村 好彦. 精管周囲の Parietalization の重要性. セッション.

第 54 回日本肝癌研究会, 久留米, 2018/06/28 ~ 06/29

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 佐々木 章. 原発性肝癌に対する腹腔鏡下肝左葉切除術の治療成績. パネルディスカッション.

第 140 回岩手医学会 (春季) 総会, 遠野, 2018/7/1

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対する外科治療の効果と今後の展望. 特別講演.

第 25 回外科侵襲とサイトカイン研究会, 大阪, 2018/7/5

1. 安藤 太郎, 高原 武志, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 長谷川 康, 新田 浩幸, 佐々木 章. ラット肝切除モデルにおける脾摘による門脈圧変化の影響と脾臓 SP 細胞の肝再生への可能性. 会長賞講演.

糖尿病・肥満治療セミナー, 神戸, 2018/7/7

1. 佐々木 章. 肥満 2 型糖尿病に対する外科治療の効果と今後の展望. 特別講演.

第 2 回腹腔鏡下大腸切除研究会 学術集会, 新潟, 2018/7/7

1. 大塚 幸喜. 岩手でやってきた腹腔鏡下大腸手術の教育. 講演.

第 14 回移植医療教育セミナー, 東京, 2018/7/7

- * 高原 武志. 示唆に富む移植の症例. 座長.

第 47 回腹腔鏡下大腸切除講習会, 川崎, 2018/7/21

1. 大塚 幸喜. Lap-S 徹底解説 一総論一. 講演.

7th Reduced Port Surgery Forum 2018 in Sapporo, 札幌, 2018/08/03 ~ 08/04

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病外科手術に必要なチームビルディング. スポンサーシンポジウム.
- * 新田 浩幸. ワークショップ 3: 肝胆脾手術の new frontier - 低侵襲化へ向けて -. 座長.

第 7 回 E-LAP/LAB セミナー, 川崎, 2018/8/4

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術の基本手技 一技術認定医試験合格の秘訣一. 講演.

中外製薬社内研修会, 盛岡, 2018/8/9

1. 石田 和茂. 当科における Pertuzumab の治療成績. 講演.

第 15 回腹腔鏡下手術理論と基礎, 東京, 2018/9/1

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除術の理論と基礎 一技術認定医に必要な基本的な手技一. 講演.

第 44 回東北小児外科研究会, 仙台, 2018/9/14

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 阿部 嵩臣, 早野 恵. 腹腔鏡下手術が有効であった膵炎の一幼児例. 一般口演.

第 28 回いわて乳腺疾患フォーラム, 盛岡, 2018/9/15

- * 小松 英明. 一般演題. 座長.

アドスプレー発売記念講演会, 盛岡, 2018/9/21

1. 松尾 鉄平, 佐藤 麻生, 藤井 仁志, 近藤 優, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 佐々木 章. アドスプレーの使用経験. 一般口演.

岩手 Breast Cancer Symposium, 盛岡, 2018/10/6

- * 小松 英明. 当院におけるリムパーザ承認後の現状と今後の課題 (増田紘子先生). 座長.

第 27 回肝臓内視鏡外科ハンズオンセミナー, 川崎, 2018/10/13 ~ 10/14

1. 長谷川 康. 腹腔鏡下肝切除における ECHELON FLEX 7 の使い方. 講演.

第 75 回直腸肛門奇形研究会, 東京, 2018/10/26 ~ 10/26

1. 森井 真也子, 蛇口 琢, 渡部 亮, 山形 健基, 東 紗弥, 菅沼 理江, 水野 大, 吉野 裕顕. ミューラー氏管遺残をともなった高位鎖肛の 1 例. 一般口演.

第 13 回岩手骨盤外科研究会, 盛岡, 2018/10/26

1. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 近藤 優, 安藤 太郎, 天野 総, 佐々木 章. 進行直腸癌に対する集学的治療. 基調講演.

第 1 回北日本肥満・糖尿病チーム医療セミナー, 盛岡, 2018/10/27

1. 佐々木 章. Meet the metabolic surgery team. シンポジウム.

第 4 回東北腹腔鏡下胃切除座談会，仙台，2018/10/27

1. 千葉 丈広．腹腔鏡下胃切除の手法．特別講演．

第 34 回長崎肝・胆道・脾外科研究会，長崎，2018/10/27

1. 長谷川 康．岩手で学んだ肝胆脾手術 - 周術期輸液・栄養管理を含めて - 招待講演．

岩手県北外科集談会，岩手，2018/11/1

1. 屋成 信吾，藤澤 健太郎，川島 到真，野田 宏伸，御供 真吾，玉澤 佳之．複数臓器浸潤をきたした虫垂粘液癌の 1 例．一般口演．

第 12 回北東北 LAC 情報交換会，盛岡，2018/11/3

1. 木村 聡元．教育ビデオ 直腸切除．一般口演．

北東北 Breast Cancer Symposium 2018，秋田，2018/11/10

1. 小松 英明．Discussion. パネリスト．

能代・山本がん市民公開セミナー，能代，2018/11/11

1. 佐々木 章．みんなで学ぼう ～消化器がんの最新手術～．特別講演．

第 13 回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究集会，博多，2018/11/17

1. 馬場 誠朗．TEP「メッシュ挿入・固定」．一般口演．

第 11 回岩手 Breast Care カンファレンス，盛岡，2018/11/17

1. 小松 英明．遺伝性乳がん卵巣がん症候群の診療の実際．講演．

第 11 回東北ヘルニア研究会，盛岡，2018/11/17

1. 川村 英伸．Kugel 法 755 病変の手術成績と教育の展望．特別講演．
2. 松井 雄介，中屋 勉，川崎 雄一郎，川村 英伸．TAPP 後に吸収性有棘糸が解れて小腸の内ヘルニア嵌頓をきたした 1 例．一般口演．

第 12 回肝臓内視鏡外科研究会，東京，2018/11/21

1. 長谷川 康，新田 浩幸，高原 武志，菅野 将史，片桐 弘勝，安藤 太郎，佐々木 章．大腸癌肝転移に対する大肝切除術の アプローチ別の成績．特別企画．
2. 長谷川 康，新田 浩幸，高原 武志，菅野 将史，片桐 弘勝，安藤 太郎，佐々木 章．腹腔鏡下肝切除術において 肝静脈損傷をリカバリーした 2 例．ワークショップ．

第 2 回 Colorectal Cancer Conference In Iwate, 盛岡，2018/11/30

- * 田中 彰．転移再発大腸癌の標準治療薬を使い切る治療戦略．座長．

岩手県乳癌学術講演会，盛岡，2018/11/30

1. 石田 和茂．パネリスト．
- * 小松 英明．パネルディスカッション「HR+/HER2- 進行再発乳癌治療の実情と今後を考える」．座長．

第 12 回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会，福岡，2018/12/5

1. 佐々木 章．メタボリックサージェリーの安全な普及を目指して．当番世話人．

第 21 回消化器内視鏡外科推進連絡会，福岡，2018/12/7

- * 佐々木 章．パネルディスカッション 情報支援手術．司会．

第 561 回岩手泌尿器科懇話会，盛岡，2018/12/15

1. 佐々木 章．肥満症・糖尿病に対するメタボリックサージェリーの効果と今後の展望．特別講演．

KOMACHI Summit in Akita, 秋田，2018/12/15

1. 木村 聡元．当院における mCRC の治療．一般口演．

神奈川県腹腔鏡下肥満外科手術 ビデオカンファランス，品川，2018/12/17

1. 佐々木 章．メタボリックサージェリーの注意点・安全な導入を目指したチーム医療の構築．特別講演．

編集後記

おかげさまで今年も予定通り3月中に教室年報を発刊することができました。ご協力いただきました関連病院の諸先生方、関係する皆さまに感謝申し上げます。例年通り、多くの業務を教室の秘書が担当してくれました。今後も充実した教室年報を皆様にお届け出来るよう、尽力させていただきます。ご要望、ご意見等ございましたら、ご連絡いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

（文責 秋山有史）



表紙説明

撮影：2018年6月

つりがね洞は、岩手県久慈市 三陸復興国立公園 小袖海岸を代表する奇岩です。かつて洞穴の天井から釣り鐘の形をした岩がぶら下がっていたことからその名がつけました。その岩は残念ながら明治29年の三陸大津波で崩壊し、現在では大きな洞穴だけとなっています。毎年、6月の夏至の時期だけ、この洞穴に朝日が通る神秘的な光景を見ることができます。

巖刀会 (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)